

認知症研究における臨床情報取得、認知機能検査・臨床評価の標準化に ついての提言

令和 3～5 年 AMED 認知症研究開発事業
疾患修飾薬の実用化を見据えた認知症性疾患の標準的診断方法の標準化と普及を目指す研究
研究代表者：岩田 淳

2024 年 2 月 2 日作成
作成者 岩田淳

目次	
背景	4
方法	4
結果	4
取得項目の決定	4
参加者背景情報	4
認知機能スクリーニング検査	4
認知機能・生活機能検査	4
認知機能検査	4
精神神経症状の評価	5
血管性認知症スクリーニング	5
認知機能自覚/他覚評価	5
Lewy 小体型認知症評価	5
各コホートでの取得の有無	5
神経心理検査実施方法の標準化	7
神経心理検査の資材整備及びトレーニング	7
ADAS-cog	7
CDR	7
PACC	7
考察と提言	8
参考資料 各神経心理検査	9
ACTC 改訂 Hollingshead 職業カテゴリー	10
生活運動背景 ((IPAQ (International Physical Activity Questionnaire))	17
MOCA (Montreal Cognitive Assessment)	23
CDR (Clinical Dementia Rating)	28
米国 Washington 大学サイトでの CDR 認定手順	42
ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)実施手順	54
ADAS-cog13 ワークシート A	65
ADAS-cog13 ワークシート B	82
ADAS-cog13 ワークシート C	100
アルツハイマー病評価尺度(ADAS-cog)の施行と採点のための規格統一	117
PACC ワークシート	124
PACC 実施マニュアル	131
GDS(Geriatric depression scale) BATON	153
GDS(Geriatric depression scale) J-TRC	154
STAI-6	155
modified Hachinski ischemic score	156
CFI (Cognitive Function Instrument)	157
SCOPA-AUT(Scales for Outcomes in Parkinson's Disease-Autonomic questionnaire)	159
SAOQ(Self-administered odor question)	163
RBDSQ(REM Sleep Behavior Disorder Screening Questionnaire))	164
AMED 認知症研究用認知機能検査, 臨床評価尺度実施手引き	165
連絡先	170
概略	171
認知機能検査の順番とビジットごとのスケジュール	172
各種評価における認定	174

各バッテリー及び臨床評価尺度の施行手順.....	176
MMSE 場所に関する見当識の質問に対する許容される正答リスト	236
ADAS-cog 指と物品の呼称 許容される正答リスト	237
CS スクエア入力及びワークシート送付に関する補足 (2017.1.19)	238
ADCS-MCI-ADL	240
ADCS-ADL.....	248

背景

認知症のコホート研究を遂行するにあたり、様々なデータの取得が想定されるが、その核となるのは参加者背景情報の取得や参加者の状態評価の施行となる。もちろん研究しようとする認知症疾患の種類や、その病期によって最適な取得対象情報、評価方法は異なるのだが、少なくとも同じような集団を評価する場合には同一の方法で評価した方がデータの比較が容易となるばかりで無く、その試行にあたっての評価者のトレーニングの煩雑さも避けられるというメリットがある。

認知機能を測定する認知機能検査、日常生活機能を測定する質問式検査、そしてその両方を検討する総合的認知生活機能検査法は全世界レベルでは標準となるものが存在し、広く使われているが、それはすべて欧米で開発されたものである。従って我が国において使用する場合は翻訳や文化的修正を加える必要があるが、それは研究毎に研究者独自の解釈によって行われてきたため、日本語版にはしばしば様々な異なるバージョンが存在する。このために生じる弊害として、治験、臨床研究毎に異なるバージョンの検査が使用されることによる結果のズレ、また施行方法もバージョン毎に異なる場合もあり、その結果研究間の結果の整合性に問題が生じる場合がある。本研究ではその問題点を解決すべく、わが国における認知症研究、特に疾患修飾薬の登場が実現した Alzheimer 病のコホート研究に用いる事を想定したものを主体に臨床評価方法の統一、整備を行った。

方法

取得臨床データ項目、施行神経心理検査については標準的と考えられるものについて提示、AMED4 班の研究代表者(国立長寿医療研究センター研究所 研究推進基盤センター、センター長 新飯田俊平、東京大学医学部附属病院 早期・探索開発推進室特任講師新美芳樹、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門良肢位科学研究所脳機能イメージング研究部 徳田隆彦、国立大学法人 高知大学医学部 神経精神科学講座 数井裕光)との合議で決定した。

結果

取得項目の決定

AMED 認知症 4 コホートで施行する評価方法について、各班代表と議論を行い、以下の様に決定した。

参加者背景情報

生年月 (日は取得しない)

性別 (生物学的性別)

教育年数

結婚歴

配偶者有無

成人期職業(modified Hollingshead を ACTC より提供、翻訳を行った)

居住形態

介護認定

喫煙歴

飲酒歴

生活運動背景(IPAQ (International Physical Activity Questionnaire))

認知機能スクリーニング検査

MMSE-J(日本文化科学社より販売)

MoCA-J

認知機能・生活機能検査

Clinical Dementia Rating (AMED Preclinical で作成したバージョン)

認知機能検査

ADAS-cog13 (Alzheimer's disease assessment scale) (新飯田班は ADAS-cog11)

PACC (Preclinical Alzheimer cognitive composite)(新飯田班は独自バージョン)

FAB (Frontal Assessment Battery(FTLD-J))(新飯田班は独自バージョン BATON)
精神神経症状の評価

GDS (Geriatric depression scale) (新飯田班は独自バージョン BATON)

NPI-Q (neuropsychiatric index)(数井班は NPI)(どちらもマイクロン社より販売)

STAI-6 (Spielberger State-Trait Anxiety Inventory))

血管性認知症スクリーニング

modified Hachinski ischemic score

認知機能自覚/他覚評価

CFI (Cognitive Function Instrument)

簡易知能評価

JART25 (Japanese Adult Reading Test)(新興医学出版社より販売)

Lewy 小体型認知症評価

DLB アンケート

SCOPA-AUT(Scales for Outcomes in Parkinson's Disease-Autonomic questionnaire)

SAOQ(Self-administered odor question)

RBDSQ(REM Sleep Behavior Disorder Screening Questionnaire))

これらの検査が今後のわが国の認知症臨床研究におけるデフォルトの検査となっていくことが望ましい
と考える。

各コホートでの取得の有無

各コホートでの施行のまとめは以下の様となった

検査	新飯田班	新美班	徳田班	数井班
施設数	2	7	11	8
被験者背景情報	+	+	+	+
ADAS-Jcog	+(BATON)	なし	+	+
ADCS-PACC	+(NCGG版)	+(AMED preclinical 版)	optional (revertしたら施行)	なし
C-SSRS	なし	+	なし	なし
CDR	+(NCGG版)	+(AMED preclinical 版)	+(AMED preclinical 版)	+(AMED preclinical 版)
CFI	+	+	+	なし
concerns about AD	なし	+	なし	なし
FAB	+(BATON)	+(FTLD-J)	+(FTLD-J)	+(FTLD-J)
future time perspective scale	なし	+	なし	なし
GDS	+(J-ADNI版)	+(AMED preclinical 版)	+(AMED preclinical 版)	+(J-ADNI版)
Hachinski 虚血スコア	+	+	+	+
impact of events scale	なし	+	なし	なし
MFQ (Mayo fluctuation questionnaire)	なし	なし	optional	+
MMSE-J	現状はMMSE (北村版) 実施、MMSE-J (杉下版) なら変更可	+	+	+
MoCA-J	なし	なし	+	なし
NPI	なし	なし	なし	+
NPI-Q	なし	なし	+	+
RCPM (Raven)	なし	なし	+	なし
SAQQ (social anxiety questionnaire)	なし	+	なし	なし
STAI6	なし	+	+	+
共感性障害評価尺度	なし	なし	なし	+
実生活BPSD・ケア情報*	なし	なし	なし	+
EMC	なし	なし	なし	+
ZBI	なし	なし	なし	+
IQ推定	JART	JART	JART	JART
DLBアンケート(名古屋大学神経内科版, RBDSQ含む)	+	+	+	なし
パレイドリアテスト	なし	optional	optional	+
UPDRS	なし	+	-	+
生活習慣など	NCGG独自スケール	IPAQ	IPAQ 症状発現の1-2年前	IPAQ 症状発現の1-2年前

神経心理検査実施方法の標準化

施行方法を記載したマニュアルを作成した。最終バージョンは 4.2_030122.pdf を参照されたい。

神経心理検査の資材整備及びトレーニング

ADAS-cog

資材の準備。ワークシート、単語カードを準備し、合計 18 セットを徳田班、数井班に送付済み。



ADAS_cog 認定試験.pdf

として翻訳し、現在までに 11 名の心理士に対して合格と認定した。

CDR

米国 Washington 大学 St. Louis の英語サイトでのトレーニング方法を記載した CDR 認定手順を作成、最終バージョンは 060122。4 コホート代表に送付済み。

PACC

検査コンポーネントのひとつの FCSRT のカードを 18 セット発送済み。徳田班の MCI 参加者が認知機能正常者としてリポートした場合に使用予定。



考察と提言

4 コホート班における取得項目の標準化、統一化を達成した。今後の臨床研究において標準的な方法論として定着する事を期待する。

参考資料 各神經心理検査

ACTC 改訂 Hollingshead 職業カテゴリー

カテゴリー	例
専門職・上級管理職・企業経営者	会計士 農業・食品科学者 麻酔科医 人類学者・考古学者 建築家 天文学者 生化学者・生物物理学者 化学者 最高責任者（社長，副社長，CEO，DFO，COO） コンピューター・情報科学者 コンピューターシステムアナリスト 軍の将校 歯科医 経済学者 疫学者 金融専門家，会計士，監査 情報セキュリティアナリスト 内科医 弁護士／裁判官 国会議員 数学者，統計学者 音楽監督／作曲家 医師，外科医，カイロプラクター，歯科医，歯科矯正医 物理学者 大学教授／大学教員 精神科医 心理学者 科学者／PhD 社会学者 獣医 動物学者
中堅専門職・中小企業経営者	広告執行役員，マーケティング・営業部長 航空管制官 航空会社パイロット 予算アナリスト 中小事業事業主

聖職者
コンプライアンス担当責任者
大手請負業者
コンピューターネットワーク設計者
教育管理者
教育，指導，産業カウンセラー（修士）
エンジニア（修士レベル）
警察官，刑事，消防士の第一線監督者
地理学者
歴史学者
人事専門家
司書
マルチメディアアーティスト，アニメーター
看護師（修士レベル）
作業療法士（修士レベル）
理学療法士（修士レベル）
医師助手（PA 認定）*
足専門医 *
政治科学者
プロデューサー／ディレクター
広報，資金調達マネージャー
セラピスト／カウンセラー—その他全ての修士レベル
レストランオーナー
ソーシャルワーカー（修士レベル）
税理士
保険数理士
行政サービスマネージャー
アスレチックトレーナー（プロ）
放送ニュースアナリスト
振付師
保険請求調査人，保険査定人，保険検査官，保険調査員
コーチ（プロ）
地域サービスおよび社会福祉業
給与担当者
コンピューター・情報システムマネージャー
コンピュータープログラマー
建設管理者
信用アナリスト

管理職

データベース管理者
歯科衛生士
編集者・テクニカルライター
災害・緊急事態管理責任者
農場労働契約者
農場主，牧場主，農業管理者
ファッションデザイナー，花デザイナー
財務管理者
芸術家，画家，彫刻家，イラストレーター
資金調達担当者
葬儀管理者
官僚，国家公務員
グラフィックデザイナー
ホテル・飲食サービスマネージャー
人事マネージャー
工業生産管理者
インテリアデザイナー
労使関係専門家
融資担当者
医療，ヘルスサービスマネージャー
会議，集会，イベントプランナー
ミュージシャン／歌手／ダンサー／俳優（プロ）
ネットワークおよびコンピューターシステム管理者
経営戦略アナリスト
検眼士
薬剤師
警察および巡査
郵便局長および郵便物管理者
土地，不動産，住民組織管理者
購買管理者
宗教教育監督者
自己啓発指導者
社会および地域サービスマネージャー
ソーシャルワーカー（学士レベル）
ソフトウェア開発者
代用教員
測量技師
税務調査官，収税人，徴税官

サポート職，技術者

セラピスト，作業療法士，理学療法士（学士レベル）
研修・人材開発マネージャー
輸送，保管，物流管理者
都市・地方プランナー
ウェブディベロッパー
航空宇宙オペレーション技術者
農業・食品技術者
救急車運転手
建築・土木製図工
アーキビスト *
シェフ，料理長
土木技術者
臨床検査技師
コンピューターネットワークサポート専門家
コンピューターユーザーサポート専門家
法廷記録者
学芸員
食事療法士／栄養士
編集者・テクニカルライター
電気・電子工学技術者
客室乗務員
補聴器専門家
通訳／翻訳者
機械・電子製図工
医療助手
医療記録・健康情報技術者
医療技術者・技師
商品ディスプレイ担当者，ショーウィンドウドレッサー
MRI 技師
パラリーガルアシスタント
調剤技師 *
写真家
私立探偵・調査員
レポーターおよび特派員
研究助手
呼吸療法技師
手術技師
補助教員

美術・デザイン関連職, エンター
テインメント職, スポーツ職など
専門職以外

技術者—その他すべて
不動産所有権調査員
交通・鉄道警察
獣医技術者・獣医技師

俳優（アマチュア）

コーチ（アマチュア）

准看護師

マッサージセラピスト

ミュージシャン／歌手／ダンサー（アマチュア）

眼鏡技師

ラジオ・テレビアナウンサー

無線通信士

レポーターおよび特派員

歌手（アマチュア）

アンパイア／審判／その他のスポーツの審判（アマチュ
ア）

補助職・アシスタント・事務員

動物管理作業者

コンピューターオペレーター

交通指導員

歯科助手

ドレスメーカー

医療補助労働者—その他すべて

在宅医療補助者

実験動物管理人

司書補佐

ライフガード

郵便配達員

機械工

医療助手

公益事業の検針員

看護助手

事務・業務支援補佐員

用務員

駐車監視員

調剤助手

採血専門員 *

郵便局員

肉体労働職

保安職業従事者
精神科助手 *
受付係
秘書
警備員
テーラー
チケット販売者
運輸保安検査官
タイピスト
農業従事者
ブリーダー
自動車・車体整備工
パン職人
れんが工
バス運転手
大工
コンクリート工
建設補助員
ベルトコンベヤーオペレーター
漁師
食品加工作業員
保温工
鉄・鉄筋作業員
宝石職人
機関士
林業作業者
ハウスマイド，掃除人
各種修理工
表具師
駐車場案内係
左官職人
配管工
屋根職人
ミシン縫製工
板金工
石工
タクシー運転手，お抱え運転手，Lyft や Uber の運転手
タイル・大理石工

トラック運転手
溶接工

生活運動背景 ((IPAQ (International Physical Activity Questionnaire))

<国際標準化身体活動質問票>

以下の質問は、みなさまが日常生活の中でどのように身体活動を行なっているか（どのように体を動かしているか）を調べるものです。平均的な1週間を考えた場合、あなたが1日にどのくらいの時間、体を動かしているかをお尋ねしていきます。身体活動（体を動かすこと）とは、仕事での活動、通勤や買い物などいろいろな場所への移動、家事や庭仕事、余暇時間の運動やレジャーなどのすべての身体的な活動を含んでいることに留意して下さい。

回答にあたっては以下の点にご注意下さい。

◆強い身体活動とは、身体的にきつと感じるような、かなり呼吸が乱れるような活動を意味しません。

◆中等度の身体活動とは、身体的にやや負荷がかかり、少し息がはずむような活動を意味します。

IPAQ 実施日

【第1部：仕事中の身体活動に関する質問】

まず最初に、仕事中の身体活動についてお尋ねします。ここでいう仕事とは、有給の仕事、自営業、農作業、ボランティア活動、学業、無給の仕事などのことです。家庭で行っている活動（家事、庭仕事、自宅の手入れ、家族の介護など）は含めないで下さい。これについては第3部でお尋ねします。

- ① (質問 1a) 現在、有給、無給を問わず何か仕事をもちですか？ はい いいえ

これから、平均的な1週間における、仕事中の身体活動についてお尋ねします。ここでは通勤は含めないで下さい。1回につき少なくとも10分間以上続けて行なう仕事中の身体活動についてのみ考えて、お答え下さい。

- ② (質問 1b) 平均的な1週間では、仕事中に強い身体活動（重い荷物の運搬作業、肉体労働など）を行なう日は何日ありますか？
- (①が「はい」の場合は、記載してください)
- ない
 週1日
 週2日
 週3日
 週4日
 週5日
 週6日
 週7日

(質問 1c) 仕事中に強い身体活動を行なう日には、通常、1日合計でどのぐらい 1日 _____ 時間 _____ 分

の時間そのような作業を行ないますか？

(②が「週 1~7 日」の場合は、記載してください)

-
- ③ (質問 1d) 平均的な 1 週間では、仕事中に中等度の身体活動(軽い荷物の運搬作業など)を行なう日は何日ありますか？
- (①が「はい」の場合は、記載してください)
- ない
 週 1 日
 週 2 日
 週 3 日
 週 4 日
 週 5 日
 週 6 日
 週 7 日

(質問 1e) 仕事中に中等度の身体活動を行なう日には、通常、1 日合計でどのぐらいの時間そのような作業を行ないますか？

(③が「週 1~7 日」の場合は、記載してください)

1 日 _____ 時間 _____ 分

-
- ④ (質問 1f) 平均的な 1 週間では、仕事中に少なくとも 10 分以上続けて歩く日は何日ありますか？通勤時の歩行は含めないで考えて下さい。
- (①が「はい」の場合は、記載してください)
- ない
 週 1 日
 週 2 日
 週 3 日
 週 4 日
 週 5 日
 週 6 日
 週 7 日

(質問 1g) 仕事中に少なくとも 10 分以上続けて歩く日には、通常、1 日合計でどの

くらいの時間歩きますか？

(④が「週1~7日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

【第2部：移動の身体活動に関する質問】

ここでは、さまざまな場所へ移動するとき（通勤、買い物、映画を見に行くときなど）にどのような方法で移動しているのかについてお尋ねします。

- ⑤ (質問2a) 平均的な1週間では、電車、バス、
車、オートバイなどの乗り物（自転車は含まない）を利用する日は何日ありますか？
- ない
 - 週1日
 - 週2日
 - 週3日
 - 週4日
 - 週5日
 - 週6日
 - 週7日

(質問2b) 乗り物を利用する日には、電車、バス、車、オートバイなどの乗り物（自転車は含まない）に、通常、1日合計でどのくらいの時間乗りますか？

(⑤が「週1~7日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

次に、自転車と歩行による移動（通勤、お使いなど）について考えて下さい。

- ⑥ (質問2c) 平均的な1週間では、移動のために
少なくとも10分以上続けて自転車に乗る日は何日ありますか？
- ない
 - 週1日
 - 週2日
 - 週3日
 - 週4日
 - 週5日
 - 週6日
 - 週7日

(質問2d) 移動のために自転車に乗る日には、通常、1日合計でどのくらいの時間自転車に乗りますか？

(⑥が「週1~7日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

- ⑦ (質問 2f) 平均的な 1 週間では、移動のために 少なくとも 10 分以上続けて歩く日は何日ありますか？
- ない
 - 週 1 日
 - 週 2 日
 - 週 3 日
 - 週 4 日
 - 週 5 日
 - 週 6 日
 - 週 7 日

(質問 2g) 移動のために歩く日には、通常、1 日合計で何分くらい歩きますか？

(⑦が「週 1~7 日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

【第 3 部：家事、家の手入れ、家族の介護など、自宅での身体活動に関する質問】

ここでは、自宅での身体活動（家事、庭仕事、家の手入れ、家族の介護など）についてお尋ねします。ここでも、1 回につき少なくとも 10 分間以上続けて行なう身体活動についてのみ考えて、お答え下さい。

- ⑧ (質問 3a) 平均的な 1 週間では、庭で強い身体 活動（重い荷物を持ち運んだり、穴を掘ったり、雪かきをしたり、かなり呼吸が乱れるような作業）を行なう日は何日ありますか？
- ない
 - 週 1 日
 - 週 2 日
 - 週 3 日
 - 週 4 日
 - 週 5 日
 - 週 6 日
 - 週 7 日

(質問 3b) 庭で強い身体活動を行なう日には、通常、1 日合計でどのくらいの時間そのような作業を行ないますか？

(⑧が「週 1~7 日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

- ⑨ (質問 3c) 平均的な 1 週間では、庭で中等度の 身体活動（軽い荷物を持ち運ぶことなど、少し息のはずむような作業）を行なう日は何日ありますか？
- ない
 - 週 1 日
 - 週 2 日
 - 週 3 日
 - 週 4 日
 - 週 5 日
 - 週 6 日
 - 週 7 日

(質問 3d) 庭で中等度の身体活動を行なう日には、通常、1 日合計してどのくらいの時間 _____ 時間
_____ 分

のような作業を行ないますか？

(⑨が「週1～7日」の場合は、記載してください)

-
- ⑩ (質問 3e) 平均的な1週間では、家の中で中等度の身体活動 (軽い荷物を持ち運ぶこと、床の拭き掃除、力を使う老人の介護、子供と動き回って遊ぶことなど少し息のはずむような活動) を行なう日は何日ありますか？
- ない
 週1日
 週2日
 週3日
 週4日
 週5日
 週6日
 週7日

(質問 3f) 家の中で中等度の身体活動 を行なう日には、通常、1日合計してどのくらいの時間そのような活動を行ないますか？

(⑩が「週1～7日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

【第4部：レクリエーション、運動、レジャーなどでの身体活動に関する質問】

ここでは、純粹にレクリエーション、スポーツ、運動、レジャーとして行っている身体活動 に関してお尋ねします。ここでも、1回につき少なくとも10分以上続けて行なう身体活動 についてのみお答え下さい。なお、ここまでの質問でお答えいただいた身体活動は含めないで下さい。

-
- ⑪ (質問 4a) これまでお答えいただいた歩行 (仕事中や移動での歩行) については含めないでお答え下さい。平均的な1週間では、余暇時間に散歩やウォーキングを10分以上続けて行なう日は何日ありますか？
- ない
 週1日
 週2日
 週3日
 週4日
 週5日
 週6日
 週7日

(質問 4b) 余暇として散歩やウォーキング をする日には、通常、1日合計してどのくらいの時間歩きますか？

(⑪が「週1～7日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

-
- ⑫ (質問 4d) 平均的な1週間では、余暇として強い身体活動 (ジョギング、速く泳ぐ、激しいエアロビクス、バスケットボール、登山など) を行なう日は何日ありますか？
- ない
 週1日
 週2日
 週3日
 週4日
 週5日
-

○週 6 日

○週 7 日

(質問 4e) 余暇として強い身体活動を行なう日には、通常、1 日合計してどのくらいの時間、そのような活動を行ないますか？

(⑫が「週 1~7 日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

⑬ (質問 4f) 平均的な 1 週間では、余暇として中等度の身体活動 (ゆっくり泳ぐこと、テニスのダブルス、野球、平地でのハイキングなど) を行なう日は何日ありますか？

○ない

○週 1 日

○週 2 日

○週 3 日

○週 4 日

○週 5 日

○週 6 日

○週 7 日

(質問 4g) 余暇として中等度の身体活動を行なう日には、通常、1 日合計してどのくらいの時間、そのような活動を行ないますか？

(⑬が「週 1~7 日」の場合は、記載してください) 1 日 _____ 時間
_____ 分

【第 5 部：非活動的な時間に関する質問】

最後に、毎日座ったり寝転んだりして過ごしている時間 (仕事中、自宅で、勉強中、余暇時間など) についてお尋ねします。すなわち、机に向かったり、友人とおしゃべりをしたり、読書をしたり、座ったり、寝転んでテレビを見たり、といった非活動的な時間全てを含みます。睡眠時間は含めないで下さい。また、車の運転や、電車やバスに乗っている時間については、すでにお尋ねしていますので、ここでは含めないで下さい。

(質問 5a) 平日には、通常、1 日合計でどのくらいの時間、座ったり寝転んだりして過ごしますか？ 1 日 _____ 時間
_____ 分

(質問 5b) 休日には、通常、1 日合計でどのくらいの時間、座ったり寝転んだりして過ごしますか？ 1 日 _____ 時間
_____ 分

初期入力者 自動入力されます

初期入力日 自動入力されます

Japanese Version of
The MONTREAL COGNITIVE ASSESSMENT (MOCA-J)

氏名：
教育年数：
性別：
生年月日：
検査実施日：

<p>視空間／実行系</p>	<p>時計描画 (11時10分) (3点)</p> <p>[] [] []</p> <p>輪郭 数字 針</p>	<p>___/5</p>																			
<p>命名</p> <p>[] [] []</p>			<p>___/3</p>																		
<p>記憶</p> <p>単語リストを読み上げ、対象者に復唱するよう求める。2試行実施する。5分後に遅延再生を行う。</p>		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">かお 顔</td> <td style="text-align: center;">きぬ 絹</td> <td style="text-align: center;">じんじや 神社</td> <td style="text-align: center;">ゆり 百合</td> <td style="text-align: center;">あか 赤</td> </tr> <tr> <td>第1試行</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2試行</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		かお 顔	きぬ 絹	じんじや 神社	ゆり 百合	あか 赤	第1試行						第2試行						<p>配点なし</p>
	かお 顔	きぬ 絹	じんじや 神社	ゆり 百合	あか 赤																
第1試行																					
第2試行																					
<p>注意</p> <p>数唱課題 (数字を1秒につき1つのペースで読み上げる)</p>		<p>順唱 [] 2 1 8 5 4</p> <p>逆唱 [] 7 4 2</p>	<p>___/2</p>																		
<p>ひらがなのリストを読み上げる。対象者には“あ”の時に手もしくは机を叩くよう求める。2回以上間違えた場合には得点なし。</p> <p>[] きいあうしすああくけこいあきあけえおああくあしせきああい</p>			<p>___/1</p>																		
<p>対象者に100から7を順に引くよう求める。 [] 93 [] 86 [] 79 [] 72 [] 65</p> <p>4問・5問正答：3点、2問・3問正答：2点、1問正答：1点、正答0問：0点</p>			<p>___/3</p>																		
<p>言語</p> <p>復唱課題 太郎が今日手伝うことしか知りません。 [] 犬が部屋にいるときは、猫はいつもイスの下にかくれていました。 []</p>			<p>___/2</p>																		
<p>語想起課題 / 対象者に“か”で始まる言葉を1分間に出来るだけ多く挙げるよう求める。 [] _____ 11個以上で得点</p>			<p>___/1</p>																		
<p>抽象概念</p> <p>類似課題 例：バナナ - ミカン = 果物 [] 電車 - 自転車 [] ものさし - 時計</p>			<p>___/2</p>																		
<p>遅延再生</p> <p>自由再生 (手がかりなし)</p>		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">顔 []</td> <td style="text-align: center;">絹 []</td> <td style="text-align: center;">神社 []</td> <td style="text-align: center;">百合 []</td> <td style="text-align: center;">赤 []</td> </tr> </table> <p>自由再生のみ得点の対象</p>	顔 []	絹 []	神社 []	百合 []	赤 []	<p>___/5</p>													
顔 []	絹 []	神社 []	百合 []	赤 []																	
<p>参考項目</p> <p>手がかり (カテゴリ)</p> <p>手がかり (多肢選択)</p>																					
<p>見当識</p> <p>[]年 []月 []日 []曜日 []市(区・町) []場所</p>			<p>___/6</p>																		
<p>© Z.Nasreddine MD MoCA-J作成：鈴木宏幸 監修：藤原佳典 version 2.2</p>		<p>www.mocatest.org</p>	<p>健康 ≥ 26/30</p>	<p>合計得点 ___/30</p> <p>教育年数12年以下なら1点追加</p>																	

検査実施者 _____

作成：鈴木宏幸

監修：藤原佳典

東京都健康長寿医療センター研究所（東京都老人総合研究所）社会参加と地域保健研究チーム

MoCA¹⁾ は軽度認知機能低下のスクリーニングツールであり、多領域の認知機能（注意機能、集中力、実行機能、記憶、言語、視空間認知、概念的思考、計算、見当識）について、約 10 分という短い時間で評価することができる。合計で 30 点満点であり、日本語版では 26 点以上が健常範囲と考えられる^{2) 3)}。

1. Trail Making

教示： 数字からひらがなへ順番通りに線で結んで下さい。ここから始めて（“1”を指す），“1”から“あ”へ、そして“2”へと線を描いていって、ここで終わって下さい（“お”を指す）。

採点： 線が交差することなく，“1-あ-2-い-3-う-4-え-5-お”の順に結ぶことができたから 1 点を与える。直後の自己修正以外のエラーがある場合には 0 点となる。

2. 視空間認知機能（立方体）

教示： これ（“立方体”を指す）を出来るだけ正確に、下のスペースに書き写して下さい。

採点： 正確に描くことができたら 1 点を与える。次の条件を 1 つでも満たしていない場合には 0 点となる。

- ・ 3次元として描かれている
- ・ 全ての線が描かれている
- ・ 余計な線が加えられていない
- ・ 線の並行関係が保たれており、それら長さが類似している（四角柱となっている場合は問題ない）。

3. 視空間認知機能（時計描画）

教示： 時計を描いてください。文字盤に数字を全て描き、11 時 10 分を指すよう針を描いて下さい。

採点： 次の 3 つの基準で採点を行い、それぞれに対して 1 点を与える。

- ・ 輪郭（1 点）：時計の文字盤が円形であること。わずかな歪みであれば問題ない。
（例えば、円を閉じるところが僅かに不完全でも問題ない）
- ・ 数字（1 点）：数字が過不足無く描かれていること。正しい順番であり、かつ正しい位置に描かれていること。数字がローマ数字であっても問題はない。

- ・ 針（1点）：長針，短針ともに正しい数字を指していること。短針は長針よりもはっきりと短くなくてはならない。2つの針が文字盤の中心でつながっていること。
それぞれの基準において，条件が満たされていない場合には0点となる。

4. 命名

教示： この動物の名前を教えてください（左から順に指していく）。

採点： 動物の名前を正しく言えればそれぞれに対して1点を与える。

(1) ライオン，(2) サイ，(3) ラクダ

5. 記憶

教示： これから記憶の検査をします。今から単語をいくつか読み上げますので，それをよく聞いて憶えておいて下さい。私が読み終わりましたら，その時に憶えている単語を私に教えてください。順番は気にしないで構いません。（1秒につき1つのペースで単語を読み上げる。対象者が再生した単語について“第1試行”の欄にチェックを入れる。対象者が全ての単語を再生するか，それ以上再生できなくなったら，次の教示を与える。）同じ単語を読み上げますので，もう一度それを憶えてみて下さい。私が読み終わりましたら，最初に憶えた単語も含めて，その時に憶えている単語を全て教えてください。（再び単語を読み上げ，対象者が再生した単語について“第2試行”の欄にチェックを入れる。対象者が全ての単語を再生するか，それ以上再生できなくなったら，次の教示を与える。）検査の終り頃に，これらの単語をもう一度思い出して頂きます。

採点： 第1試行，第2試行とも得点は与えない。

6. 注意

順唱 教示： これからいくつかの数字を読み上げます。私が読み終わりましたら，私と同じように繰り返して言って下さい。（5つの数字を1秒につき1つのペースで読み上げる）

逆唱 教示： それでは，またいくつか数字を読み上げます。今度は私が読んだ順番と逆から繰り返して言って下さい。（3つの数字を1秒につき1つのペースで読み上げる）

採点： 正しく繰り返すことができたならそれぞれ1点を与える。（逆唱では2・4・7が正答）

ビジランス 教示： これから，ひらがなを読み上げていきますので，私が“あ”と言うたびに手を叩いて下さい。私が“あ”以外のひらがなを言う時には，手は叩かないで下さい。（検査用紙に書かれたひらがなを1秒につき1つのペースで読み上げる）

※マヒなどで両手を使う事が困難な場合には，手を叩く代わりに片手で机などを叩くよう求める。

採点： エラーが1回以下の時に1点を与える。（エラー：“あ”の時に手を叩かない，もしくは他のひらがなの時に手を叩く）

2

計算 教示： 私が“止め”というまで、100 から 7 を順に引いていって下さい。(必要であればこの教示を 2 回与える)

採点： 3 点満点で採点を行う。正答がない時には 0 点、正答が 1 つの時には 1 点、正答が 2 つから 3 つの時には 2 点、正答が 4 つか 5 つの時には 3 点を与える。100 から 7 を減算していく際の、それぞれの計算において正誤を判断する。例えば、1 回目の計算が間違っている、2 回目の計算において正しく 7 が引かれていれば、2 回目の計算は正答とする。

7. 復唱

教示： これから文章を読み上げます。私が読んだ後に、正確に繰り返して下さい。

(間をとる) **太郎が今日手伝うことしか知りません。**(対象者が繰り返した後に次ぎの教示を与える)

それでは、もうひとつ文章を読み上げます。先ほどと同じように正確に繰り返して下さい。

(間をとる) **犬が部屋にいるときは、猫はいつもイスの下にかくれていました。**

採点： それぞれの文章を正しく復唱できていれば 1 点を与える。復唱は正確でなければならない。(言葉を省略するなどの細かいエラーにも注意を払う)

8. 語想起

教示： これから私が言うひらがなで始まる言葉を、出来るだけたくさん言って下さい。言葉であれば何でも構いません。時間は 1 分間です。準備はよろしいですか？(間をとる) それでは、“か”で始まる言葉を出来るだけたくさん言って下さい。(60 秒計測) 止め。

採点： 言葉を 11 個以上生成出来れば 1 点を与える。対象者の生成した語は下部もしくは側部の余白に記録し、生成した総数についてもカウントしておく。

9. 抽象的思考

教示： (単語のペアに共通するものを表す言葉をたずねる。例題から始める。)“バナナ”と“ミカン”はどのように似ていますか？(もし対象者が具象的な共通部分を挙げた場合には、一度だけ次の教示を与える) 他の言い方はありませんか？(対象者が適切な反応(果物)をしなかった場合には次の教示を与える) そうですね、また両方とも果物でもあります。(他の教示や明確な説明は与えない)

(例題実施後) それでは、“電車”と“自転車”はどのように似ていますか？(回答後に次の問いを与える) それでは、“ものさし”と“時計”はどのように似ていますか？(追加の教示や手がかりは一切与えない)

採点： それぞれの問題で次のような適切な反応が得られれば 1 点を与える。

電車・自転車=交通手段、旅行の手段、乗り物

ものさし・時計=測るもの、計測に使用するもの、計測器具

車輪がある、数字があるなどの反応は適切なものとみなさない。

10. 遅延再生

教示: 先ほどいくつかの単語を憶えて頂きました。今憶えている単語をできるだけ私に教えて下さい。(手がかりのない状態で憶えていたものとして“自由再生”の欄にチェックを入れる)

採点: 手がかりなく再生できた単語それぞれに1点を与える。

参考項目: 遅延自由再生に続き、再生できなかった単語について意味的な手がかり(カテゴリ)を与える。手がかり(カテゴリ)によって再生できた場合には、“手がかり(カテゴリ)”の欄にチェックを入れる。手がかり(カテゴリ)を与えても再生できない時には、多肢選択試行として次のような教示を与える。“次の単語のうちどれだと思いますか?”多肢選択によって再生できた場合には“手がかり(多肢選択)”の欄にチェックを入れる。

顔:	<u>手がかり(カテゴリ):</u> 身体の一部	<u>多肢選択:</u> 口, 顔, 手
絹:	<u>手がかり(カテゴリ):</u> 生地	<u>多肢選択:</u> 絹, 麻, 木綿
神社:	<u>手がかり(カテゴリ):</u> 建物	<u>多肢選択:</u> 神社, 学校, 病院
百合:	<u>手がかり(カテゴリ):</u> 花	<u>多肢選択:</u> バラ, 百合, 椿
赤:	<u>手がかり(カテゴリ):</u> 色	<u>多肢選択:</u> 赤, 青, 緑

採点: **手がかりを与えた単語については得点としない。**手がかり再生による得点は、記憶障害のタイプについての追加的情報としてのみ使用する。記憶障害が検索の失敗に起因しているならば、手がかりによって再生成績は改善される。記憶障害が符号化の失敗に起因しているのであれば、手がかりによる再生成績の改善はみられない。

11. 見当識

教示: 今日の日付を教えてください。(対象者の回答が完全でない場合には次の教示を与える)今日は何年, 何月, 何日, 何曜日ですか?(回答後に次の教示を続ける)それでは, ここは何市(区・町)ですか?(回答後に次の教示を続ける)それでは, この場所(建物)の名前は何ですか?

採点: 正しく回答できた項目それぞれに1点を与える。日付や名前については正確な回答でなくてはならない。

合計得点: 検査用紙の右側に記入した得点を全て合計する。教育年数が12年以下の場合には1点を加える(最高30点)。合計得点が26点以上であれば健常範囲と考えられる。

- 1) Nasreddine ZS, Phillips NA, Bédirian V, Charbonneau S, et al. The Montreal Cognitive Assessment (MoCA): A Brief Screening Tool For Mild Cognitive Impairment. J Am Geriatr Soc 53:695-699, 2005.
- 2) Fujiwara Y., Suzuki H., Yasunaga M., et al. Brief screening tool for mild cognitive impairment in older Japanese: Validation of the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment. Geriatrics & Gerontology International, 2010; 10. 225-232
- 3) 鈴木宏幸・藤原佳典 Montreal Cognitive Assessment (MoCA)の日本語版作成とその有効性について 老年精神医学雑誌, 第21巻2号: 198-202, 2010

CDR (Clinical Dementia Rating)

臨床認知症評価尺度					得点	
Reprinted with permission. The Clinical Dementia Rating (CDR) is a copyrighted instrument of the Alzheimer's Disease Research Center, Washington University, St Louis, Missouri, USA. All rights reserved.					Sum of Boxes <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> <input type="text"/>	
被験者ID <input type="text"/>		検査者イニシャル <input type="text"/> <input type="text"/>		検査日 <input type="text"/> <input type="text"/> 年 <input type="text"/> <input type="text"/> 月 <input type="text"/> <input type="text"/> 日		包括的 CDR <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> <input type="text"/>
得点	なし 0	疑わしい 0.5	軽度 1	中等度 2	重度 3	
記憶 <input type="text"/>	記憶障害がない、または軽度の一貫性のない健忘	一貫性のある軽度の物忘れ/ 出来事を断片的に思い出す/ 「良性」の健忘	中等度の記憶障害/ 最近の出来事についてより顕著/ 毎日の活動の妨げとなる	重度の記憶障害/ 十分に学習された事柄のみ保持される/ 新しい事柄はすぐに記憶から失われる	重度の記憶障害/ 断片的な記憶しか残っていない	
見当識 <input type="text"/>	十分に見当識がある	時間的前後関係の判断にやや障害があることを除き、十分に見当識がある	時間的前後関係の判断に中等度の障害がある/ 検査を行う場所に対する見当識はある/ その他の場所では地誌的見当識の障害がみられることがある	時間的前後関係の判断に重度の障害がある/ 通常、時間の見当識には障害があり、場所の見当識にもしばしば障害がある	人物に対する見当識のみ保たれる	
判断と問題解決 <input type="text"/>	日常生活で起こる問題を解決し、仕事や金銭的な事柄について十分に対処できる/ 過去の能力と比較して判断力は良く保たれている	問題解決、類似性や相違の判断における軽度の障害	問題解決、類似性や相違の判断における中等度の障害/ 通常、社会的判断は保たれる	問題解決、類似性や相違の判断における重度の障害/ 通常、社会的判断も障害される	何かを判断したり問題を解決したりできない	
地域社会活動 <input type="text"/>	通常のレベルの仕事や買い物ができる、ボランティアや社会グループでも自立して活動できる	仕事や買い物、ボランティアや社会グループの中で活動に軽度の障害がある	仕事や買い物、ボランティアや社会グループの活動を自分ひとりで行うことはできないが、部分的に行うことができる/ 簡単な検査では正常とみなされる	家庭外では自立して活動できる/ 通常、家庭外の会合に連れ出せるほど元気に見える	家庭外では自立して活動できるようには見えない/ 家庭外の活動に連れ出せないほど病気になる	
家庭と趣味 <input type="text"/>	家庭での生活、趣味、知的興味はよく保たれている。	家庭での生活、趣味、知的興味はわずかに障害される	家庭での活動は軽度だが確実に障害されている/ 難しい家事は諦めている/ より複雑な趣味や興味のある活動は辞めてしまった	簡単な家事のみ行うことができる/ 非常に限られた興味のみ不完全に保たれている	家庭において意味のある活動を行うことができない	
身の回りのこと <input type="text"/>	身の回りのことは完全にできる		促しが必要	着衣、排泄、身の周りの品の管理に支援が必要	身の回りのことについて多くの助けを必要とする/ 頻繁に失禁する	

※認知機能低下によって以前の通常の状態から低下した場合のみ採点の対象とすること。それ以外の要因による障害については含めない。

臨床認知症評価尺度 ワークシート
The Clinical Dementia Rating

被験者ID : _____

来院 : _____

Reprinted with permission. The Clinical Dementia Scale(CDR) is a copyrighted instrument of the Alzheimer's Disease Research Center, Washington University , St.Louis, Missouri, USA. All rights reserved.

これは半構造化面接である。ここに記載された全ての質問をすること。被験者の認知症の重症度を評価するために必要な質問は追加しても構わない。追加の質問から得た情報についても記載すること。

情報提供者への記憶に関する質問

1. 「彼/ 彼女は記憶をしたり考えたりすることに問題がありますか？」
 はい いいえ
- 1a. もし「はい」ならば、それは時々でなくいつもですか？
 はい いいえ
2. 彼/ 彼女は最近の出来事を思い出せますか？
 たいていできる ときどきできる ほとんどできない
3. 彼/ 彼女は買い物のためのいくつかの品物のリストを覚えていられますか？
 たいていできる ときどきできる ほとんどできない
4. 過去1年の間に彼/ 彼女の記憶力は低下しましたか？
 はい いいえ
5. 彼/ 彼女の記憶障害の程度は2, 3年前、もしくは退職以前にできていた日常生活の活動を妨げるほどですか？
(兄弟姉妹、叔父叔母等、複数の親族の意見から評価する)
 はい いいえ
6. 彼/ 彼女は最近の大きな出来事 (例えば旅行、宴会、親類の結婚など) を2, 3週間以内にすっかり忘れてしまいますか？
 たいてい忘れる ときどき忘れる ほとんど忘れない
7. 彼/ 彼女はそれらの大きな出来事の細かい事柄を忘れてしまいますか？
 たいてい忘れる ときどき忘れる ほとんど忘れない
8. 彼/ 彼女は昔の重要な情報 (例えば生年月日、結婚記念日、勤務地など)をすっかり忘れてしまいますか？
 たいてい忘れる ときどき忘れる ほとんど忘れない

被験者ID : _____

臨床認知症評価尺度 ワークシート

来院 : _____

10. 彼/彼女の生年月日はいつですか? _____

11. 彼/彼女はどこで生まれましたか? _____

12. 彼/彼女が最後に通った学校はどこですか?

名前 _____

場所 _____

何年で卒業したか _____

13. 彼/彼女が主に就いていた職業は何ですか?
(もし被験者が職に就いていたことがなければ配偶者の職業)

14. 彼/彼女が最後に就いていた職業は何ですか?
(もし被験者が職に就いていたことがなければ配偶者の職業)

15. 彼/彼女 (もしくは配偶者)はいつ、なぜ退職しましたか?

被験者ID : _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院 : _____

情報提供者への見当識に関する質問 :

彼/ 彼女はどの程度、以下のことを正しく理解していますか？

1. 今日は何日ですか？

- たいていわかっている ときどきわかっている ほとんどわからない
 (情報提供者には)わからない

2. 今月は何月ですか？

- たいていわかっている ときどきわかっている ほとんどわからない
 (情報提供者には)わからない

3. 今年は何年ですか？

- たいていわかっている ときどきわかっている ほとんどわからない
 (情報提供者には)わからない

4. 今日は何曜日ですか？

- たいていわかっている ときどきわかっている ほとんどわからない
 (情報提供者には)わからない

5. 彼/ 彼女は2つの出来事が互いに関連して生じた時に、時間の前後関係がわからなくなることがありますか？ (複数の出来事が互いに関係を持って起こる時)

- たいていわかる ときどきわかる ほとんどわからない
 (情報提供者には)わからない

6. 彼/ 彼女はよく知っている道を通れば、行きたい場所に迷わず行けますか？

- たいてい行ける ときどき行ける ほとんどいけない
 (情報提供者には)わからない

7. 彼/ 彼女は自宅の周辺以外の場所で、ある場所から別の場所へどう行けばよいかわかりますか？

- たいていわかる ときどきわかる ほとんどわからない
 (情報提供者には)わからない

8. 彼/ 彼女は家の中では行きたい場所に迷わず行けますか？

- たいてい行ける ときどき行ける ほとんど行けない
 (情報提供者には)わからない

被験者ID : _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院 : _____

情報提供者の判断と問題解決に関する質問 :

1. 一般に、彼/彼女の今の問題解決力を評価しなければならないとしたら、あなたはどのように判断しますか？
 - 今まで通り良好である
 - 良好であるが、以前ほどではない
 - まあまあ
 - 劣る
 - 問題解決力が全くない

2. 彼/彼女がおつりなどの小銭を扱う能力を評価して下さい。
 - 低下なし
 - 少し低下している
 - 非常に低下している

3. 彼/彼女が銀行口座の収支をあわせる、請求書の支払いをするなどの複雑な金銭的取引能力を評価して下さい。
 - 低下なし
 - 少し低下している
 - 非常に低下している

4. 彼/彼女は水道管からの水漏れやぼやなど、家庭での緊急事態に対処できますか？
 - 以前と同様にうまく対処出来る
 - 考える能力が障害されているため以前より悪い
 - その他の理由で以前より悪い（理由を記載すること）

5. 彼/彼女は状況や説明を理解できますか？
 - たいていできる
 - ときどきできる
 - ほとんどできない
 - (情報提供者には)わからない

6. 彼/彼女は社交上や他人との関係において適切に（彼/彼女が病気になる前と同様に）振る舞う*ことができますか？
 - たいていできる
 - ときどきできる
 - ほとんどできない
 - わからない

*ここでは見かけの様子ではなく、実際の振る舞いを評価すること。

被験者ID: _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院: _____

情報提供者への地域社会活動に関する質問:

職業

1. **被験者は、現在も働いていますか?** はい いいえ 該当せず
- 「該当せず」の場合は4へ進む
「はい」の場合は3へ進む
「いいえ」の場合は2へ進む
2. **被験者が退職を決めたのは記憶や思考の問題のためですか?** (質問4へ進む。) はい いいえ わからない
3. **彼/ 彼女は記憶や思考に問題があるために仕事に重大な支障がありますか?**
 ほとんどない ときどきある
 たいていある わからない

社会活動

4. **彼/ 彼女は車の運転をしたことがありますか?** はい いいえ
- 被験者は現在、車の運転をしていますか?** はい いいえ
- 「いいえ」の場合、記憶や思考に問題があるためですか** はい いいえ
5. **彼/ 彼女が現在も運転している場合、思考力の低下による問題や危険がありますか?**
 はい いいえ
- 6*. **彼/ 彼女は自分一人に必要なものを買うことができますか?**
 ほとんどまたは全くできない (どのような買い物にも付き添いが必要)
 ときどきできる (少しの物ならば買うことができる、重複して買ったり買い忘れたりする)
 たいていできる
 わからない

*この領域に関する被験者の能力を正確に評価するために必要なメモはここに記載すること。

被験者ID: _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院: _____

7. **彼/ 彼女は家の外で、一人で活動できますか？**

- ほとんどまたは全くできない (たいてい誰かの助けがなければ活動ができない)
- ときどきできる (限られたこと、もしくは定期的に行っていることならばできる。例えば会合だけ形だけ参加する、美容院に行くなど)
- たいていできる (投票など意味を理解して活動に参加できる)
- わからない

8. **彼/ 彼女は家庭の外の社交の場に連れて行ってもらえますか？**

はい いいえ

「いいえ」の場合、**なぜですか？** _____

9. **もし知らない人が被験者の行動を見た場合、被験者のことを病気だと思うでしょうか？**

はい いいえ

10. **もし被験者が介護施設に入所している場合、社会的活動 (社会的思考)を良く行っていますか？**

はい いいえ

重要事項：

地域社会活動における被験者の能力の障害を評価するための情報は十分に得られているか？もし不十分であればさらに丹念に調べること

地域社会活動：お寺や神社にお参りをする、友人や親類に会いに行く、政治活動、職業上の集まり (弁護士会や医師会などの会合)、老人会、ボランティア活動、趣味の教室など。

被験者ID : _____					
臨床認知症評価尺度ワークシート					
来院 : _____					
情報提供者への身の回りの世話に関する質問 :					
*次の項目について彼/彼女の能力を評価して下さい。 :					
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: center;">助けはいらない</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">ときどきボタンを 掛け違える</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">着る順番を間違え る よく何かを着忘れる</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">ひとりでは着られな い</td> </tr> </table>		助けはいらない	ときどきボタンを 掛け違える	着る順番を間違え る よく何かを着忘れる	ひとりでは着られな い
	助けはいらない	ときどきボタンを 掛け違える	着る順番を間違え る よく何かを着忘れる	ひとりでは着られな い	
A. 着衣 [Blessed, G.(1968)の尺度]	0	1	2	3	
助けはいらない	促しが必要	ときどき助けが必要	常に、もしくは ほとんどいつも 助けが必要		
B. 入浴、整容	0	1	2	3	
きれいに適切な器 具を使用して食べる	スプーンでこぼしな がら食べる	食事をつかんで食 べる	完全に食べさせても らう必要がある		
C. 食事	0	1	2	3	
正常で完全な 制御	ときどき 失禁する	頻繁に 失禁する	尿便失禁		
D. 括約筋の制御 [Blessed, G.(1968)の尺度]	0	1	2	3	
* 促しを必要としなくても、以前と比べて被験者が身の回りのことができなくなっている場合は、スコア1とみなしてよい。					

被験者ID : _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院 : _____

被験者の記憶に関する質問 :

1. 「あなたは、記憶したり考えたりすることに問題がありますか？」 はい いいえ
2. 「さきほど、あなたの（配偶者等）が、最近あなたに起こった出来事をいくつか教えてくれました。それらについて話していただけますか？」（必要に応じて、例えば出来事が起きた場所、時刻、参加していた人、その出来事がどのくらい続いたか、いつ終わったか、被験者やその他の人達がどのようにその場所へ行ったかなど詳細に話すよう促す。）

1週間以内

1.0— ほぼ正しい _____

0.5 _____

0.0— ほとんど間違っている _____

1ヶ月以内

1.0— ほぼ正しい _____

0.5 _____

0.0— ほとんど間違っている _____

被験者ID : _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院 : _____

3. 「これから名前と住所を言いますので、2、3 分の間、覚えておいて下さい。私が言った後、名前と住所を繰り返して下さい。」
(正しく名前と住所を言えるまで、あるいは最高3 回まで繰り返す)

要素	1	2	3	4	5
	佐藤	太郎	名古屋市	中央通り	42番地
	佐藤	太郎	名古屋市	中央通り	42番地
	佐藤	太郎	名古屋市	中央通り	42番地

(それぞれの試行で正しく言えた要素に下線を引く)

4. 「あなたの生年月日はいつですか？」 _____

5. 「あなたはどこで生まれましたか？」 _____

6. 「あなたが最後に通った学校はどこですか。」

名前 _____

場所 _____

何年で卒業したか _____

7. 「あなたが主に就いていた職業は何ですか？」
(もし被験者が職に就いていたことがなければ配偶者の職業)

8. 「あなたが最後に就いていた職業は何ですか？」
(もし被験者が職に就いていたことがなければ配偶者の職業)

9. 「あなた (もしくは配偶者) はいつ、なぜ退職しましたか？」

10. 「先ほど覚えて下さいとお願した名前と住所を言って下さい。」

要素	1	2	3	4	5
	佐藤	太郎	名古屋市	中央通り	42番地

(正しく言えた要素に下線を引くこと)

被験者ID: _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院: _____

被験者の判断と問題解決に関する質問:

教示: 被験者による最初の答えがレベル0 に値しない場合は、被験者がその問題についてどこまで理解しているかをよく確認すること。最も近い反応に丸を付ける。

類似点:

例: 「鉛筆とペンはどのような所が似ていますか?」 (物を書くための道具)

「次のものはどのような所が似ていますか?」

1. カブとカリフラワー

被験者の反応

(0 = 野菜) _____

(1 = 食べ物、生き物、料理できるなど) _____

(2 = 適切でない答え、違いを述べる、「買う物」など) _____

2. 机と本棚

(0 = 家具、事務用品、本を置くためのもの) _____

(1 = 木でできている、脚がある) _____

(2 = 適切でない答え、違いを述べる) _____

相違点:

例: 「砂糖とお酢の違いは何ですか?」 (甘いに対して酸っぱい)

「次の物の違いは何ですか?」

3. 嘘と間違い

被験者の回答

(0 = 故意かうっかりか) _____

(1 = 一つは悪くてもう一方は悪くない、
もしくは片方のみ説明する)

(2 = それ以外の説明、類似点を述べる) _____

4. 川と運河

(0 = 自然と人工) _____

(2 = それ以外の答え) _____

被験者ID : _____

臨床認知症評価尺度ワークシート

来院 : _____

計算 :

5. 「100 円は、5 円玉で何枚になりますか？」 20 正解 不正解
6. 「1350 円は、50 円玉で何枚になりますか？」 27 正解 不正解
7. 「20 から3 を引いて、その答えからまた3 を引くということを
続けて下さい。」 20, 17, 14, 11, 8, 5, 2 正答 誤答

判断 :

8. 「今まで来たことのない町に来たとします。あなたが会いたい友達の居場所をどのようにして見つけますか？」
- (0 = 電話帳で探す、住所録を調べる、インターネットで調べる、共通の友人に電話する。)
- (1 = 警察に連絡する、電話交換手に連絡する (通常住所は教えない))
- (2 = 明解な答えなし)
9. 被験者の障害や社会的な立場についての自己評価、また、何故この検査を受けているのかについての理解の正しさについて (既に扱っているかも知れないが、ここで評価すること)。
- よく評価、理解できる 部分的に評価、理解できる
- ほとんど評価、理解できない

用意するもの

- 1) AMED 標準化班より配布の DVD の CDR 認定用というフォルダに字幕付きのビデオがあります。
m4v ファイルを再生可能な PC 環境を準備下さい。
- 2) 同 DVD の「バッテリー」フォルダにある CDR(J-TRC).pdf。必要数印刷してお使い下さい。

認定の流れとしては、経験者と未経験者で異なります。基本はサイト上にあるビデオを見て CDR を採点、その採点結果をサイト上で入力して認定を受けることになります。

CDR の個々のドメインを採点した後、Overall CDR の点数を手動で計算するのは大変なので

<https://naccddata.org/data-collection/tools-calculators/cdr>

で情報を入力して計算すると正確です。

The screenshot shows the NACC website's 'CALCULATORS' section. The main heading is 'CDR® Dementia Staging Instrument calculator'. Below this, it states: 'Receive a CDR® standard global score, based on the Washington University CDR®-assignment logarithm, by inputting CDR® box scores in this online calculator.' The interface features a table with six rows representing different cognitive domains: Memory, Orientation, Judgment and problem-solving, Community affairs, Home and hobbies, and Personal care. Each row has five radio buttons corresponding to scores 0, 0.5, 1, 2, and 3. The 'Calculated Global Score' is displayed in a large blue circle as '0'. At the bottom of the page, there is contact information for NACC: '4311 - 11th Avenue NE, Suite 300, Seattle, WA 98105 | (206) 543-8637 | NACCmail@uw.edu'.

上の画面で、記憶→Memory, 見当識→Orientation, 判断と問題解決→Judgment & Problem Solving, 地域社会活動→Community Affairs, 家庭と趣味→Home & Hobbies, 身の回りのこと→Personal Care に入力下さい。次のように自動的に Overall CDR が計算されます。

CALCULATORS

CDR® Dementia Staging Instrument calculator

Receive a CDR® standard global score, based on the Washington University CDR®-assignment algorithm, by inputting CDR® box scores in this online calculator.

	0	0.5	1	2	3
Memory	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Orientation	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Judgment and problem-solving	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Community affairs	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Home and hobbies	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Personal care	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Calculated Global Score

0.5

Design and Program Code provided by
Jacki Batty and John C. Morris, MD
Washington University Alzheimer's
Disease Research Center

認定は

<https://knightadrc.wustl.edu/cdr-training-application/>

から行います。無料の Public Training (Free Access) の Access CDR Training Application を選択します。

The screenshot shows the website for the Knight Alzheimer Disease Research Center. The main content area is titled "Training Options" and features two sections: "Public Training (Free Access)" and "Private Training (Research Studies, Clinical Trials)". A red arrow points from the "Access CDR Training Application" button in the Public Training section to the "1. Access CDR Training Application をクリック" instruction. The sidebar on the right contains a list of links, with "CDR® Dementia Staging Instrument" highlighted in a dark grey box.

1. Access CDR Training Application をクリック

次のページへ

CDR Training Application

All CDR trainees are required to complete a brief application. Failure to complete an application, or provide accurate information on required questions, may result in an invalid certificate as well as prevent timely communication.

* First Name: Middle Initial/Name: * Last Name:

* Email: * Confirm Email:

Degree(s): Profession and/or Title:

* Site Number or Institution Name:

* Country: * City:

お名前、Email、施設名(Site Number とありますが無視で大丈夫です、英語で入力下さい)、国名、町名を入力。下にスクロールしてアンケートに回答。

Studies noted in the dropdown menu below with an asterisk (*) are study-specific CDR Training offerings. You will be required to enter a password upon submission of this application if you select one of these denoted studies. If do not already know the password, contact your study coordinator if you plan on taking a study-specific training.

* I am taking CDR training for the following reason (select best option):

* Please rate your current knowledge of the CDR:

None/Very Limited

Fair

Good

Very Good

* Do you currently provide clinical care or a health-related service to older adults?

Yes

No

* Do you provide clinical care to persons residing in rural or semi-rural areas?

Yes, many of my patients/clients are from rural locations.

Yes, a few of my patients/clients are from rural locations.

No, I see patients/clients but not from rural locations.

No, I don't provide clinical care to patients/clients.

I am taking CDR training for the following reason は
AMED コホート研究の場合
Personal Interest or Professional Development を選択

Please rate your current knowledge of the CDR は
ご自身の CDR についての経験、知識レベルを選択

None/Very limited が最低。Very Good は既に認定取得しているくらいのレベル。該当を選択下さい。

Do you currently provide clinical care of a health-related service to older adults?

現在、高齢者を対象とした健康関連サービスの臨床ケアを行っていますか？

は該当を選択。

Do you provide clinical care to persons residing in rural or semi-rural areas?

地方に住んでいる人に臨床医療を提供していますか？

は該当を選択。上から多くの患者が地方の方、一番下は都市だけの方。

解凍が終わったら Submit をクリック。

Studies noted in the dropdown menu below with an asterisk (*) are study-specific CDR Training offerings. You will be required to enter a password upon submission of this application if you select one of these denoted studies. If do not already know the password, contact your study coordinator if you plan on taking a study-specific training.

* I am taking CDR training for the following reason (select best option):

* Please rate your current knowledge of the CDR:

- None/Very Limited
- Fair
- Good
- Very Good

* Do you currently provide clinical care or a health-related service to older adults?

- Yes
- No

* Do you provide clinical care to persons residing in rural or semi-rural areas?

- Yes, many of my patients/clients are from rural locations.
- Yes, a few of my patients/clients are from rural locations.
- No, I see patients/clients but not from rural locations.
- No, I don't provide clinical care to patients/clients.

Submit

Submit をクリック

新しい画面に遷移します。

CDR Public Training Path

While Washington University in St. Louis and the Knight Alzheimer Disease Research Center do not technically place any expiration date on online CDR training certificates, it is recommended that trainees recertify within every 5 years of their last certification. Some clinical trials and research studies may set their own standards and impose different requirements upon trainees. The options below represent the most common requirements by institutions and companies requiring certified raters. Always check with your study coordinator to determine if a different standard is required from you.

Public Training Options

Select the button that best applies to you:

Not sure when you trained last? Contact webmaster@braxas.wustl.edu and provide your full name, institution and email address at the time of your last certification.

ご自身のレベルで受ける認定試験が異なります。

New to CDR

新規認定

Certified within past 5 years

5年以内に認定を受けた方

Certified more than 5 years ago

5年以上前に認定を受けた方

該当するところを選択下さい。

まずは New to CDR を選択して見ます。次の画面に遷移します。下の方までスクロール下さい。

	<ul style="list-style-type: none"> Provides an overview of the CDR by Dr. Morris
Training Modules	<ul style="list-style-type: none"> Consists of Modules 1 through 3 Correct scoring review videos are provided You will not submit scores for these modules
Reliability Modules	<ul style="list-style-type: none"> Consists of Modules 4 through 9 Review all language provided for each module. Print each module's worksheet and fill it in while watching the video. Keep your worksheets until you eventually pass or fail the training. You will submit scores for grading from these modules.
Scoring Form	<ul style="list-style-type: none"> When you have completed Module 9, click the <i>Scoring Form</i> button. Complete the scoring form by entering your domain scores for each Reliability Module. Generate a Global CDR Score for each Reliability Module by using the CDR Algorithm link found on the scoring form. If you pass, your certificate will appear for you to print or save as a PDF. If you fail, additional training modules will be assigned.

Begin CDR Public CDR Training A (Full)

クリック

下の方の

Begin CDR Public CDR Training A (Full)をクリックするとページが遷移して次のリストが出てきます。

Training Modules:

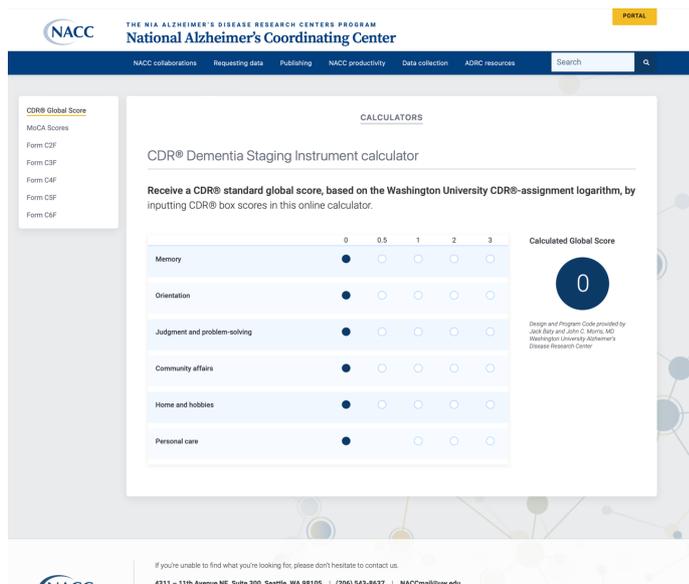
Module 0 (Overview of the CDR)	▼
Module 1 (Interview)	▼
Module 1 (Scoring Review)	▼
Module 2 (Interview)	▼
Module 2 (Scoring Review)	▼
Module 3 (Interview)	▼
Module 3 (Scoring Review)	▼

Reliability Modules:

Module 4	▼
Module 5	▼
Module 6	▼
Module 7	▼
Module 8	▼
Module 9	▼
Scoring Form	▼

Module 番号と DVD に入っている字幕付きビデオとの対応は以下の様です。

サイトの英語ビデオ番号	DVD にある字幕付きビデオ番号
Module 0 (Overview of the CDR)	CDR 解説 Dr.Morris



6項目をクリックすると自動計算されます。このスコアも記録しておきましょう。
Module 番号と DVD に入っている字幕付きビデオとの対応は以下の様です。

サイトの英語ビデオ番号	DVD にあるビデオ番号
Module 4	Tape41
Module 5	Tape33
Module 6	Tape21
Module 7	Tape20
Module 8	Tape31
Module 9	Tape35

6つのビデオ全てで採点が終了したら
Scoring Form をクリック

Training Modules:

- Module 0 (Overview of the CDR) ▼
- Module 1 (Interview) ▼
- Module 1 (Scoring Review) ▼
- Module 2 (Interview) ▼
- Module 2 (Scoring Review) ▼
- Module 3 (Interview) ▼
- Module 3 (Scoring Review) ▼

Reliability Modules:

- Module 4 ▼
- Module 5 ▼
- Module 6 ▼
- Module 7 ▼
- Module 8 ▼
- Module 9 ▼
- Scoring Form

クリックして採点入力に進む

画面が遷移します。

Public CDR Training Scoring Form (Training A - Full)

Please enter your information below. Enter your name EXACTLY as you would like it to appear on your certificate if you pass. Make sure that you enter your email address correctly. An incorrect email might delay information regarding your training.

First Name:
Enter text here

Middle Name or Initial:
Enter text here

Last Name:
Iwata

Email Address:
Email

Why did you take the public training? Choose the best response.

Please Select -->

Next

に必要情報を入力下さい。

Middle Name Or Initial は空欄で大丈夫です。

Why did you take the public training? Choose the best response.

は Professional Development or Personal Interest を選択。

Next をクリックすると次のような採点画面になります。

Public CDR Training Scoring Form (Training A - Full)

In the next set of questions, you will be asked to submit your scores for Public CDR Training (Training A - Full) Modules 4-9. In order to submit your Global CDR Score for each module, you are encouraged to use the [CDR Scoring Algorithm](#). You should retain a copy of your scores until you receive a certificate.

Module 4 (Box Scores) - Personal Care cannot be a 0.5

	0	0.5	1	2	3
Memory	<input type="checkbox"/>				
Orientation	<input type="checkbox"/>				
Judgment & Problem Solving	<input type="checkbox"/>				
Community Affairs	<input type="checkbox"/>				
Home & Hobbies	<input type="checkbox"/>				
Personal Care (Cannot be 0.5)	<input type="checkbox"/>				

Module 4 (Global CDR Score)

Please Select -->

該当のスコアをクリックしていきます。

下の Global CDR Score はここでは自動計算してくれないので、予め自動計算していたものを入力

各 Module ずつ最後まで入力したら最後の

Finish ボタンをクリック

合格基準(未公開)を満たすと

Thank you for completing the Public CDR Training Scoring Form (Training A - Full). If you have passed, a certificate will appear. Make sure that you print or save this page for your records. If you failed, you will see instructions to take remedial modules.

Passing Score Certificate - PRINT AND SAVE!

Washington University School of Medicine
Knight Alzheimer's Disease Research Center
Memory & Aging Project
St. Louis, Missouri, USA

Certifies that

Atsushi Iwata

on

10/06/2022

dd/mm/yyyy

*Has fulfilled the requirements for certification as a
"CDR Rater"*

*Having passed the Brief Training & Reliability Protocol for the Clinical
Dementia Rating (CDR) via the on-line training system at knightadrc.wustl.edu*

John C. Morris
John C. Morris, M.D., Director, ADRC & Memory & Aging Project

KnightADRC
Alzheimer's Disease Research Center
WASHINGTON UNIVERSITY
ST. LOUIS

のように認定されます。画面キャプチャの上保存されることをお勧めします。

3) Certified within past 5 years を選択した場合は、次のページの最後に出てくる Begin CDR Public CDR Training B (Refresher) をクリックしてトレーニングとテスト画面に移行。

Training Module

Refresher Module 1 (Interview) 

Refresher Module 1 (Scoring) 

Reliability Modules

Module 2 

Module 3 

Module 4 

Module 5 

Scoring Form 

まずは Refresher Module 1 (Interview) と Refresher Module 1(Scoring) で練習し、
下の Module2 から 5 までを採点して初心者の場合と同様に Scoring Form から採点結果を送信。Module
番号と DVD に入っている字幕付きビデオとの対応は以下の様です。

サイトの英語ビデオ番号	DVD にあるビデオ番号
Refresher Module 1 (Interview)	Tape11
Refresher Module 1 (Scoring)	Tape11_Morris
Module 2	Tape 35
Module 3	Tape 34
Module 4	Tape 28
Module 5	Tape 42

4) Certified More than 5 years ago の場合は

Begin CDR Public CDR Training A (Full) をクリックして新規認定と同じビデオセットをご覧頂き、全く同じ試験の採点結果を提出する事で認定されます。

以上

東京都健康長寿医療センター
脳神経内科
岩田淳

ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)実施手順

はじめに

ADAS は学習、記憶、発話、言語理解、構成と見当識を評価するための短い認知試験バッテリーである。

ADAS の認知項目の試験項目は指示された順番で施行する事。

語再生課題を一番最初に施行し、語の再認課題は最後に施行する。その他の課題はその間に施行する。これら二つの語の記憶課題をこの様に分離する事で被験者が二つの試験の単語を混乱することを最小限にできる。客観的な試験に続いて、言語能力と教示を記憶する能力の主観的な臨床評価が評価者によって行われる。

ADAS は速さを競う試験ではなく、被験者の点数はその試験がどれだけ規約施行できたかでは決まらない。認知試験の項目は、それぞれの項目が円滑かつ迅速に移行できるように施行されるべきだが、被験者がすぐに良答えなければならないのではないかとプレッシャーがかからないようしなければならない。

被験者へのフィードバックは中立でなければならず、通常は答えが正しいか否かを示してはならない。

「その調子です」、であるとか「頑張っておられますね」の様なコメントは被験者が進んで施行に取り組んでいる時には適切である。被験者が具体的に正しいかどうかを聞いた場合は、フィードバックを与えても良い。

試験を始める

一連の試験を始めるにあたり、語再生試験を始める前に、被験者と中立的な話題について会話をする(天気や趣味について)。この海良によって被験者が検査を始める前にリラックスできるようになるし、評価者は被験者の言語使用及び理解能力について観察する機会となる。記憶に関係するような会話内容は被験者が試験を始めるにあたって不安になるために勧められない。

被験者の言語能力(たとえば発話、喚語困難や理解)はこの導入部の会話と ADAS 全体を通じた会話内容によって評価する。

ADNI より提供されるワークシートと物品を用いて試験を施行する事。

語再生試験

この課題では、被験者は 10 個の高頻度に使用され、思いつくことが容易な単語を学習する機会が 3 回与えられる。10 個の単語は白いカードに書かれている。

最初の施行に際しては、評価者は以下の様な教示を行う

「あなたに、これからこれらの白いカードに印刷したいくつかの単語をお示しします。後で覚えて頂いた単語すべてを思い出して頂く様にお願いをしますので、それぞれの単語を大きな声で読んで覚えるようにして下さい。用意は良いですか?単語を読んで覚えるようにして下さい。」

評価者は必要ならば次のように促しても良い

「大きな声で読んで覚えるようにして下さい」

もし被験者が単語を読めないかゆっくりしか読めない場合は、評価者が単語をおおきな声で読んで被験者に繰り返させても良い。斜視の場合などでは、評価者が全ての単語を読み、被験者に繰り返させる必要があるかもしれない。いずれにせよ、繰り返す際には被験者が単語カードをしっかりと見ているようにする事。

それぞれの単語を示す時間は測定しない。

10個の単語を示した後は、被験者にはできるだけ多くの単語を思い出させる様にするため以下の様に言う。

「はい、今おっしゃった単語をできるだけ沢山思い出して言って下さい。」

もし被験者が可能な限り単語を言った様であれば、以下の様に促す。

「他にはありませんか?」

被験者が神経質になっていたり諦めそうになっていたら励ましても良い。

第2,第3施行では被験者に以下の様に言う。

「先ほどと同じ単語をお示しします。それぞれの単語を大きな声で読んで覚えるようにして下さい。」

さらに、「はい、リストにあった全ての単語を言って下さい」

被験者が神経質になっていたり諦めそうになっていたら励ましても良い。

採点

正しく再生できた単語の数をそれぞれの施行毎に数える。

命令、指示

この課題は言語理解を評価することを意図している。被験者は1段階から5段階ある5つの異なる命令に従うように指示される。

それぞれの命令は一度だけ言うこと。ハッキリとした声で十分な大きさを言うこと。被験者が反応しない、混乱している様子、もしくは繰り返すように望んだ場合、評価者は命令全体をもう一度言う。そして次の命令へと移行する。

試験を始める際には、以下の様に言う

「さて、これからいくつかのことをやって頂く用をお願いします。まずは、」

被験者には全ての命令を言わなければならない。それぞれの命令は一気に言わなければならない。もし被験者が反応しない、もしくは繰り返すように望んだ場合、評価者は一度のみ繰り返して良い。

被験者の聴力や注意力に問題がある場合は以下の様に言って注目させる。

「用意はいいですか?」、もしくは「さて、あなたにやって頂きたいのは、」命令を続ける。

命令は2回より多く言ってはならない。

3番目と4番目の命令では被験者の目の前のテーブルの上に刺激物品を必要とする(鉛筆、紙とカード).

鉛筆、時計、カードのそばにはペンや紙などの他の物品があってはならない.

それぞれの下線が引かれた要素が一つの段階を指す.

最後の命令を与える前に机の上から全ての物品をしまうこと.

採点

それぞれの命令は部分点を与えず全体で採点する. それぞれが正しいと採点するためには全ての項目ができていなければならない.

それぞれの命令が正しく遂行できたかを採点する.

構成

この試験では単純な円が難しい立方体までの4つの図形を模写する能力を評価する.

図形は一度に一つずつ示さなければならない

評価者は図に加えて黒鉛筆と消しゴムを与える.

被験者に対して以下の様に言う.「この紙には図形が描かれています. この紙のどこでも良いですから上と同じような図形を描いて下さい.」評価者は図形を指し示しても良い.

もし被験者の反応が早かったり、ずさんであった場合は以下の様に言っても良い.

「これと同じように描くようにゆっくりと描いて下さい」

被験者はそれぞれの図形について2回模写を施行してもよい(どちらが最初か二回目であるかがわかようにすること). 被験者は必要であれば消しゴムを使って消しても良い. もし被験者が元の図の上に描こうとした場合は、これを第1施行とし、紙の何も描かれていない部分に描くよう指示をする. もし被験者が模写が下手だと指摘した場合はもう一度描きたいかを尋ねる. 2回目が終了した後に、被験者にどちらが良いかを占めさせ、その施行を採点する.

被験者が二回の施行で模写できなかった場合、評価者は次の図に進む事.

注意:被験者が描画に際してどのように頑張ったかの説明やコメントを記載しても良い.

刺激は以下の順番で提示されなければならない

円

重なった長方形

菱形

立方体

採点

それぞれの図は被験者が元の絵の図形の本質的な幾何学的特徴を模写できた場合に採点する.

大きさの違いは間違いとは採点しない.

形が模写できていれば線と線との間の小さい隙間は間違いとはしない.

「努力の形跡」は図形の一方か一部分に該当するような最低一本の線を描いたかどうかで評価する。

円

閉じた円形の図が描けているか

重なる二つの長方形

図形は四角形であること。また、重なりは元の図形と同様であること。大きさの変化については問わない。

菱形

図は四角形であること。角が上下にあり、横方向の広がりは同等であること。たとえば、長さが長い方が短い方の 1.5 倍以上とはならないこと。

立方体

図形は三次元であり、正面を向いていること。内部の線は角の間に正しく描かれていること。相対する面はおおよそ平行であること。

正解と間違いの描画の例

重なる長方形

正解

不正解

菱形

正解

不正解

立方体

正解

不正解

オンラインの CRF では、それぞれの図形が正しく描画できたか、正しく描画できなかったか、図形の一方や一部の描画を全く試みようとしなかったか、を入力すること。

語の遅延再生

語の遅延再生は語の再生課題の第 3 施行の約 5 分後に施行しなければならない。その間には ADAS の命令や構成課題を施行しても良い。これらの課題が 5 分以内に終了した場合は、言語能力や集中力などを検討する為の面接を続けて時間を待ち、その後に語の遅延再生課題を施行する

語の遅延再生課題を始めるにあたって以下の様に言う。

「数分前にこのカードに書かれた言葉をいくつか読んで頂きました」と言う。図のリストを指差しながら、「カードに書かれていた単語をできるだけたくさん思い出して私に教えて下さい。」

促しは 「他にはありませんか?」と必要に応じて尋ねる。

それ以上答えがない場合、もしくは被験者がこれ医事用思い出せないといった場合中止する。

採点

オンライン CRF において正しく再生できた単語にすべてチェックする。

呼称

この課題では被験者はランダムに示された 12 の実物物体の呼称を認められ、その語は

高(花, ベッド, 笛, 鉛筆)

中(ガラガラ, お面, はさみ, くし)

低(財布, ハーモニカ, 聴診器, トング)頻度語である。

被験者はまた利き手の指の名称を答えることも求められる。

物品はランダムな順番で提示される必要がある。被験者に物品を触らせてはならない。

以下のような教示を被験者に行う。「いまからあなたにいくつかの物をご覧に入れます。それらの名前を私に教えて下さい。これはなんですか?」物品を提示する。

引き続きランダムな順番で物品を提示する。それぞれの物品における一番最初の質問は、「これはなんと呼ばれる物ですか?」もしくは「この者の名前はなんですか?」

もし被験者が物品の機能を答えた場合は「そうです、使い道はそうです。それでは名前はなんといいますか?」

もし、被験者が反応しない場合、評価者は以下に示すような意味のヒントを与える。それでも被験者が反応しない場合、もしくは間違えた場合は次の物品に移る。

被験者はまた聞き手の指の名前を答える事をもとめられる(すなわちおや指, 人差し指, 中指, 薬指, 小指)。

被験者に、以下の様に指示をする。「あなたの右(左)手を机の上に置いて下さい。私はこれからあなたの手の一部を指差しますのでなんという名前か教えて下さい。この指はなんという名前ですか?」

おや指以外では必要に応じて「この指の他の名前は何ですか?」と言う。

採点

おや指

人差し指

中指

薬指

こ指

呼称課題の祭典で最も難しい部分は、被験者の文化や地理的背景に基づいて、正しい応答の範囲を決定する点である。被験者と同じ文化的背景を持つ非認知症の人によって使用される名前である場合は、リスト以外の応答でも正しいとして採点されるべきである。

例えば

物品の説明、意味性もしくは音韻性錯誤は正解として採点してはならない。

不正解の例は 聴診器を「聞くもの」、鋏を「切る物」、等である。

オンラインの CRF では物品、指について正しく答えられたものにチェックをする。

観念性行為

この項目では被験者がやり慣れてはいるが複雑な一連の動作が可能かを判断する。被験者の前に長封筒、A4の紙と鉛筆を置く。まだ被験者にそれらを触らせてはならない。

以下のような教示を被験者に行う。

「ご自分自身に手紙を書くふりをして頂きたいのです。この紙を手にとって、封筒に入るように折り、封筒に入れて下さい。そして封をして宛先に自分の住所を書いてからどこに切手を貼るのかを教えてください。」

この課題は5つの部分から構成される。

もし、被験者が動作の一部を忘れた、もしくは難しくてできない場合は、評価者はその部分の教示を繰り返す。

例えば

もし被験者が紙を折って封筒に入れてから止まった場合は、評価者は被験者に次のように思い出させるように促す

「では封筒に封をしてください」

もし被験者がこの部分ができなければ、

「では自分宛てに宛名を書いて下さい」

最初の完全な教示の後には、それぞれの構成部分に対して繰り返して指示して良いのは一回のみである。

被験者に切手を貼る場所に X を付けさせる。もし被験者が切手を貼る場所を指差しただけの場合は、評価者がその場所に X を付ける。

例え被験者の現在の住所と異なるものであっても、郵便業者が封筒を配達するのに必要な住所が書いて

あれば正解とする。

住所には、宛名、番地、市町村、都道府県があれば良い。郵便番号は必須ではない。

採点 課題の一つ一つの構成部分が正しく行われたかを採点する。

注意 被験者の匿名性を保つため、封筒はアップロードしないこと。臨床モニターがサイトを訪問して封筒を確認する。

見当識

この項目は、時間と場所について被験者がどの程度良く認識しているかを判断する事が意図される
見当識を構成する要素は

人物、月、年、時刻、曜日、日付、季節、場所である。

被験者にこれらについて一つ一つ質問する。

それぞれの答えについては一度だけは訂正が許可される(例えば曜日と日付を間違えた場合など)。

腕時計、置き時計、カレンダーなどが被験者の眼に入らないようにする。

時刻についての質問の前に、「時計を見ないで今大体何時くらいか教えてください」と言う。場所についての質問は、「私たちは今どこにいますか?」もしくは『この場所はなんと言いますか?』と尋ねる。

『この病院の名前はなんと言いますか?』のような場所についてのヒントを与えるような質問はしない。

採点

正しく答えられたものについてチェックする。正解の範囲についての目安を示す。

氏名(正確でなければならない)

月(正確でなければならない)

日(+1日の範囲で正解とする)

年(正確でなければならない)

曜日(正確でなければならない)

気切(今後1週間以内にやってくる季節、もしくは過去2週間前までの季節は正解とする)

場所(病院や医院の名前、建物の名前などの部分的な名称は許容されるが「病院」や「診察室」のような一般的な名称は許容されない。)

時間(+1時間の範囲で正解)「時計を見ないで今大体何時くらいか教えてください」と言う。

季節

別紙参照(根拠不明)

単語再認

この課題では被験者が12単語を学ぶために1回の施行与えられ、白いカードに印刷された単語が一つ

一つ提示される。

学習課題は以下の様に始める。「私はこれから、この白いカードに書かれた単語をいくつかお示しします。後で全部思い出すようにお願いしますので、大きな声で読んで覚えて欲しいのです。容易は良いですか?単語を読んで覚えるようにして下さい。」

評価者は、「大きな声で読んで覚えて下さい」と促しても良い。

もし被験者が単語を読めないかゆっくりしか読めない場合は、評価者が単語をおおきな声で読んで被験者に繰り返させても良い。斜視の場合などでは、評価者が全ての単語を読み、被験者に繰り返させる必要があるかもしれない。いずれにせよ、繰り返す際には被験者が単語カードをしっかりと見ているようにする事。

注意 それぞれの単語の提示には制限時間はない。

再認施行

最後の単語を読んだ直後、評価者は以下の様に言う。

「さて、私はこれから別の単語リストをお見せします。いくつかの単語はたった今ご覧に入れたものの中にありましたが、新しいものもあります。それぞれの単語について、最初にお見せしたのものの中にあつた単語かどうかを教えてください。」

評価者は最初の単語を見せて、「これは前にご覧に入れた単語ですか?」もしくは「この単語は前にご覧に入れましたか?」と言う。

二番の単語の後に、同様の教示を与える。

それ以降は「これはどうですか?」という

以下の様に励ましても良い。「がんばって当てて下さい」

もし被験者が課題を覚えていない場合(例えば「はい」い「いいえ」で答えるのではなく、単語を読んだ場合)評価者は質問全体を繰り返すか言い直し、該当する場所の「思い出し」の列にチェックをする。被験者が課題を続行できるかは ADAS の質問 9 に反映される。

被験者が標準的な教示として最初の単語については促しがある事に注意すること。質問 9 の採点ではそれら最初の二つでの促しは計算されない。

採点 それぞれの項目について「はい」か「いいえ」の反応をチェックする。

試験の教示に対する記憶と理解

試験の教示に対する記憶

この項目は単語再認課題時の観察(質問 8)のみに基づき、被験者の単語認識課題の要求を記憶する能力を評価する。これは、ADNI では自動的に EDC 内で計算される。参加者が認識施行で応答しない場合(例えば、はい/いいえ)、これは命令が忘れられている事を示し、教示を繰り返す事になる。最初の 2 つの項目の後の失敗毎を記録する。君での記録が ECRF と合致することを確認する事。

障害程度の照合

なし 被験者は一度も追加の指示を思い出させる必要がなかった。

ごく軽度 一度のみ忘れた

軽度 2回思い出させる必要があった

中等度 3-4回思い出させる必要があった

高度 5-6回思い出させる必要があった

高度 7回以上思い出させる必要があった

理解

この項目では被験者の言語理解能力を評価する。この項目を評価するためには、評価者は、被験者が自由会話と課題中にどの程度評価者の発話を理解できたかを考慮する必要がある。命令への反応を含めない事。

障害程度の照合

なし 理解障害の徴候なし

ごく軽度 1-2回の理解の間違い

軽度 3-5回の理解の間違い

中等度 数回の繰り返しや言い直しが必要だった

やや高度 被験者は時々しか正しく反応しなかった。すなわち、「はい」、「いいえ」の質問にしか答えになかった。

高度 被験者はほとんど質問に対して正しく答えられない。ただし失語のためではない。

喚語困難

この項目では言語表現での障害を評価する。評価者は、自発会話や試験中に望んだ単語を探すのに困難があったかどうかの程度を評価する。

注意: 被験者は錯語によって喚語困難を隠そうとするかもしれない(物の説明をしたり、近い同義語を使用したりして)。物品呼称、指の故障での被験者の反応し考慮しないこと。

障害程度の照合

ごく軽度 1-2度で臨床的な意味はなし

軽度 迂遠な表現や同義語の置換が目立つ

中等度 時に埋め合わせることなく単語が抜ける

やや高度 しばしば埋め合わせなく単語が抜ける

高度 ほぼすべて単語が失われる。言葉は空虚で1-2語の発語

発話能力

この項目では、明瞭さや自らを理解してもらうための困難さなどの発話の質を全般的に評価するものである。この項目を評価するにあたっては、評価者は被験者が発した全ての発話内容を考慮しなければならない。発話の量や喚語困難、即ち錯語はこの項目では評価しない。この評価でのやや高度と高度の評価は困難を伴わずに会話できない程に会話能力が障害されている被験者に限る事に注意が必要である。

障害程度の照合

なし 被験者のことを理解するのに困難なことはなかった

ごく軽度 一度だけ理解できないことがあった

軽度 全体の 25%未満で理解する事が難しかった

中等度 全体の 25-50%理解することが困難であった。

やや高度 全体の 50%で理解する事が困難であった

高度 1-2 語文。流暢ではあっても空虚な内容、発話無し。

数字の消去

例題での教示

例題を被験者の前に置き、以下の様に言う

この紙の上の方には二つの番号が書いてあります。その下にはそれらの番号が他の番号と混ざっています。ここから初めて頂きたいのですが(最初の行の初めを指差しながら)、行ごとに上にある番号と合う番号に斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやって下さい。」と言う。30 秒後に例題を終了する。

課題の教示

課題を被験者のまっすぐ前に置き、以下の様に言う。

「この紙の上の方には二つの番号が書いてあります。その下にはそれらの番号が他の番号と混ざっています。ここから初めて頂きたいのですが(最初の行の初めを指差しながら)、行ごとに上にある番号と合う番号に斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやって下さい。」

最初に間違えた番号を消してしまった場合、「これらが正しい消す番号ですよ」と言いながら紙の上にある番号を指差す。

被験者が混乱する、もしくは試験の最中にやめてしまったら、必要に応じて標準的な教示を繰り返す。

45 秒後に試験を中止する。

採点

以下を入力する

13a 数字の消去 正しく消せた個数

13b 数字の消去 間違えて消した個数

13c 数字の消去 検査内容を思い出す必要のあった回数

数字消去には二つのバージョンがある.

<p>ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験) Translated and adapted from the Alzheimer's Disease Assessment Scale, 1994 Revised Edition, Richard C. Mohs, Ph.D. Copyright © 1994 by The Mount Sinai School of Medicine page1 / 17</p>				
被験者 ID	検査者イニシャル	検査日		
□□□M□□□□□□	□□	20□□年□□月□□日		

ADAS 最初の会話についての注意

手順：具体的なやり方については、手順書を参照すること。最初の 10 分間は、被験者の会話の表現力や理解力の様々な側面を評価するために、自由に会話を行う。その後、残りの認知機能試験を施行する。言語能力は面接や特定の試験によって評価される。「はい」か「いいえ」を尋ねる質問では、非常に基本的な段階での理解を評価する。その他の質問では、具体的な情報と優れた会話能力が求められる。

被験者と会話を開始する際には、例えば、「天気」「病院まで来院する道すがらのこと」「どんな朝食を食べたか」など、当たり障りのない話題についての簡単な会話をする。この会話によって被験者は検査が始まる前に心を落ち着けることができ、評価者が被験者にどの程度の言語の使用及び理解能力があるのかを観察する良い機会となる。ADAS の認知機能項目では、言語能力の臨床評価には 3 つの項目がある。このページに面接についてのメモを記録すること。発話能力（項目 10）、喚語困難（項目 11）、理解（項目 12）の評価の裏付けとなるようにこの用紙に記録をすること。また、障害についてのどのような評価も、この文書に記入されたメモに基づいて行わなければならない。

話題	食欲	睡眠	運動	その他
----	----	----	----	-----

1. 理解
2. 発話
3. 喚語

評価者のコメント： _____

ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)

page2 / 17 被験者 ID _____ 検査日 _____

1. 単語再生 (単語再生リスト1)

試験を始めるにあたって、次のように述べる。「これからあなたに、これらの白いカードに印刷した単語をいくつか示します。後で、覚えて頂いた単語をすべて思い出ししてもらいますので、それぞれの単語を声に出して読みながら覚えるようにして下さい。用意はいいですか？単語を読みながら、覚えるようにして下さい。」

それぞれの単語を被験者に示し、声を出して読むように指示をする。10個の単語全てが読み終わったら、「はい。今度は、リストにあった単語をできるだけたくさん思い出して言ってみて下さい。」と言う。必要に応じて、「他にはありませんか？」と促す。第2試行、第3試行では「先程と同じ単語を示します。それぞれの単語を声に出して読み上げ、覚えるようにして下さい。」と言う。評価者は正しく再生できた単語の「はい」の欄に印を付けること。

再生できたか？		再生できたか？		再生できたか？	
試行 1	はい	試行 2	はい	試行 3	はい
1. バター		1. 棒 (ぼう)		1. 岸 (きし)	
2. 腕 (うで)		2. 手紙 (てがみ)		2. 手紙 (てがみ)	
3. 岸 (きし)		3. バター		3. 腕 (うで)	
4. 手紙 (てがみ)		4. 女王 (じょうおう)		4. 小屋 (こや)	
5. 女王 (じょうおう)		5. 腕 (うで)		5. 棒 (ぼう)	
6. 小屋 (こや)		6. 岸 (きし)		6. 切符 (きっぷ)	
7. 棒 (ぼう)		7. 草 (くさ)		7. エンジン	
8. 切符 (きっぷ)		8. 小屋 (こや)		8. 草 (くさ)	
9. 草 (くさ)		9. 切符 (きっぷ)		9. バター	
10. エンジン		10. エンジン		10. 女王 (じょうおう)	
合計		合計		合計	

終了時刻 (24 時間表記)

		:		
--	--	---	--	--

もし単語再生の試行のどれか一つでも施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため3つの試行を完遂できず

2. 命令/指示

この課題は、言語理解を評価することを意図している。被験者は、第1段階から第5段階までの5つの異なる命令・指示に従うように指示される。それぞれの命令・指示は一度だけ読むこと。ハッキリと大きな声で言うこと。もし被験者が反応しない、または、混乱している様子であったり、もしくは繰り返すように望んだりした場合には、評価者はもう一度**命令・指示全体**を読むこと。そして、次の命令・指示へと移行する。被験者には全ての命令・指示を与えなければならない。**評価者は全ての命令・指示に対する反応を、「はい」か「いいえ」で記録すること。**

試験を始める際に、次のように述べる。「さて、これからいくつかのことをやって頂きます。まずは……」

- | | 反応は正しいか？ | |
|---|--------------------------|--------------------------|
| | はい | いいえ |
| a. 「 ゲンコツを作って下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| b. 「 天井を指さしてから床を指さして下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 机の上に鉛筆、腕時計、カードの順に置く。 | | |
| c. 「 鉛筆をカードの上に置き、元に戻して下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| d. 「 腕時計を鉛筆の反対側に置き、カードを裏返して下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 机から鉛筆、腕時計、カードを取り除く。 | | |
| e. 「 目を閉じたまま、二本の指で左右の肩を二度ずつたたいて下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

3. 構成行為

この試験では被験者が4つの図形を模写する能力を評価する。図形は一度に一つずつ提示しなければならない。もし被験者が混乱しているようであったり、自分で描いた絵に納得がいかないようであったり、または、もう一度描きたいと望む場合は、それぞれの図形を再度描いても良い。二番目の絵を描いたら、被験者にどちらがより良いかを選ばせ、その試行に対してのみ採点する。

開始にあたって、「この紙には図形が描かれています。この紙のどこでも良いので、これと同じような図形を描いて下さい。」と述べる。

手順：それぞれの図形に対して適切な反応にチェックをする。ただし、以下のことに注意されたい。「認識できる試み」では、図形の一辺や一部分を表現するような線が少なくとも1本示されている必要がある。

a. 円：閉じた円形の図が描けていること。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

b. 重なる二つの長方形：図形は四角形であること。また、元の図形と同じように重なっていること。大きさの変化については問わない。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

c. 菱形：図形は四角形であること。角が上下にあり、横方向の広がりと同程度であること。

(例えば、長さが長い方が短い方の1.5倍以上とはならないこと。)

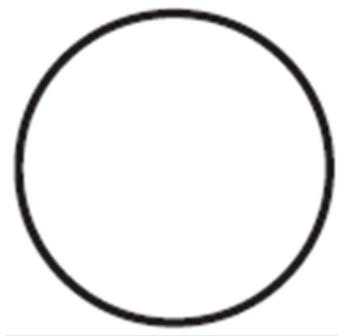
- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

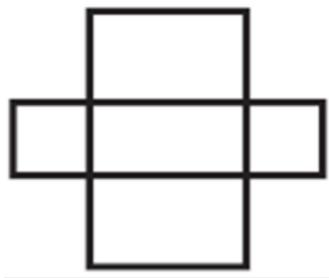
d. 立方体：図形は三次元であり、正面が正しい方向を向いていること。内部の線は角の間に正しく描かれていること。相対する面はおおよそ平行であること。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

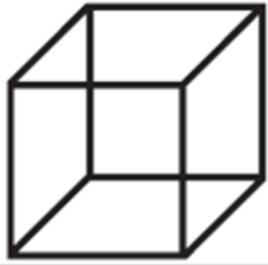
もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず









開始時刻 (24 時間表記)

		:		
--	--	---	--	--

4. 単語の遅延再生課題

被験者に、先程の即時単語再生課題の中で提示した単語からできるだけ多くの単語を想起させる。

始めるにあたって、「数分前にこのカードに書かれた言葉をいくつか読んでいただきました。」と述べる。図のリストを指差しながら、「カードに書かれていた単語を、できるだけたくさん思い出して教えてください。」また、必要に応じて「他にはありませんか?」と促す。反応がない場合、もしくは促しても被験者がそれ以上思い出せない場合はそこで終了とする。評価者は、正しく再生できた全ての単語に対して、「はい」にチェックを入れること。

再生できたか?

試行 1	はい
1. バター	
2. 腕 (うで)	
3. 岸 (きし)	
4. 手紙 (てがみ)	
5. 女王 (じょうおう)	
6. 小屋 (こや)	
7. 棒 (ぼう)	
8. 切符 (きっぷ)	
9. 草 (くさ)	
10. エンジン	
合計	

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)

page10 / 17 被験者 ID _____ 検査日 _____

5. 物品と指の呼称

5A では、被験者はランダムに提示された 12 個の実際の物品の呼称を求められる。物品はランダムな順番で提示されなければならない。次のような教示を被験者に行う。「**今からあなたにいくつかの物をお見せします。それらの名前を覚えて下さい。これは何ですか？**」（物品を提示する。）もし被験者が物品の機能を答えた場合は、「**そうですね、使い道はそうです。それでは名前は何と言いますか？**」と聞く。もし被験者が反応しない場合は、評価者は以下に挙げた意味手掛かりを与える。それでも被験者が反応しない場合、もしくは間違えた場合は、次の物品に移る。評価者は、全ての物品と指についての反応を、「はい」または「いいえ」で記録する。

反応は正しいか？

5A：物品の名前（意味手掛かり）	はい	いいえ
花（庭で育つ）		
ベッド（寝るときに使う）		
笛（吹くと音が出る）		
鉛筆（字を書くために使う）		
ガラガラ（赤ちゃんのおもちゃ）		
お面（顔を隠す）		
はさみ（紙を切る）		
くし（髪の毛に使う）		
さいふ（お金をしまう）		
ハーモニカ（楽器）		
聴診器（医者が心臓の音を聞くために使う）		
ピンセット（物をつまむ）		

5B では、被験者の利き手の指の名前を答えさせる。「**あなたの右（左）手を机の上に置いて下さい。これからあなたの指を差していきますので、何というか教えて下さい。この指は何と言いますか？**」と聞く。

反応は正しいか？

5B：指	はい	いいえ
親指		
中指		
薬指		
人差し指		
小指		

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

6. 観念性行為

この課題は、被験者がやり慣れてはいるが、複雑な一連の動作を行うことが可能かどうかを判断することを目的としている。この課題には5つの動作が含まれる。被験者の前に長封筒、A4の紙と鉛筆を置く。

そして、次のような教示を被験者に与える。「**ご自身に宛てて手紙を書くとします。この紙を手にとって、それを封筒に入るように折り、封筒の中に入れて下さい。そして、封をして宛先に自分の住所を書いてから、どこに切手を貼るのかを教えてください。**」

もし被験者が動作の一部を忘れていたり、もしくは難しくできなかつたりした場合は、評価者はその部分の教示を繰り返す。完全な教示を与えた後は、それぞれの動作に対して一度だけしか教示を繰り返してはならない。評価者はすべての動作に対して、「はい」または「いいえ」の反応を記録する。

動作	動作は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 紙を折る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 紙を封筒に入れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 封筒に封をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 封筒に自分の住所を書く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 切手を貼る場所を示す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

7. 見当識

この項目は、時間と場所について被験者がどの程度良く認識しているかを判断することを目的としている。被験者に、以下の質問を**ひとつずつ**行う。それぞれの質問に対して、一度だけ言い直しが許される（例えば、曜日と日付を間違えた場合など）。評価者は全ての質問に対する反応を、「はい」または「いいえ」にチェックして記録する。

	反応は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 氏名（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 月（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 日（±1日の範囲で正解）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 年（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 曜日（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f. 季節 （今後1週間以内にやってくる季節、もしくは過去2週間前までの季節は正解）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g. 場所（部分的な名称は許容されるが一般的な名称は許容されない。） （「 私たちは今どこにいますか？ 」 もしくは「 今いる場所はなんというところですか？ 」と聞く。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h. 時間（±1時間の範囲で正解） （「 時計を見ないで、だいたい今何時くらいか教えてください 」と聞く。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

8. 単語再認 (リスト1)

被験者の反応にチェックする

この課題の学習部分では、被験者は12個の単語のリストを覚えてもらう試行を1回行う(刺激カードの使用方法については、手順書を参照すること)。「これから、この白いカードに書かれた単語をいくつかお見せします。声を出して読んで覚えてください。」と述べる。

この課題の再認部分では、評価者は「では、これから別の単語リストをお見せします。この中には、たった今お見せした単語もありますし、新しい単語も入っています。それぞれの単語について、最初にお見せしたリストの中にあった単語かどうかを答えて下さい。」と述べる。

評価者は最初の単語を示して、「これは前にお見せした単語ですか? はいか、いいえでお答え下さい」もしくは「この単語は前にお見せしましたか?」と聞く。二番目の単語の前にも同様の教示を与える。それ以降は、「これはどうですか?」もしくは「推測で構いません」と言う。

それぞれの単語についての被験者の反応を聞き、「はい」または「いいえ」にチェックする。試験施行中にも被験者が教示を忘れてしまい、再度確認する必要がある場合は、評価者は質問を繰り返し、「R」の欄にチェックを入れる。

単語	はい	いいえ	R
1. 看護師 (かんごし)			
2. 雑誌 (ざっし)			
3. 魔女 (まじょ)			
4. トラック			
5. 豹 (ひょう)			
6. 販売 (はんばい)			
7. 海 (うみ)			
8. 列車 (れっしゃ)			
9. 硬貨 (こうか)			
10. 船 (ふね)			
11. 施設 (しせつ)			
12. 地図 (ちず)			
13. 斧 (おの)			
14. 板 (いた)			
15. 人参 (にんじん)			
16. 牛乳 (ぎゅうにゅう)			
17. 体積 (たいせき)			
18. 森 (もり)			
19. 錨 (いかり)			
20. 宝石 (ほうせき)			
21. 猫 (ねこ)			
22. 資金 (しきん)			
23. 端 (はし)			
24. ケーキ			

R: 再教示

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること:

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

9. 試験の教示に対する記憶 (単語再認課題の際の観察のみに基づいて評価する。)

この項目では、単語再認課題で求められていることを記憶する能力を評価する。この項目の評価では、**単語再認課題**において教示を思い出させた回数を数える。単語再認課題が完遂できない場合、もしくは全く施行できなかった場合は、この項目を採点してはならない。

3つ目の単語以降で、試験の教示を覚えていられなかった回数を記録する。

- なし：被験者は一度も追加の教示を必要としない
- ごく軽度：一回だけ忘れる
- 軽度：2回思い出させる必要がある
- 中等度：3-4回思い出させる必要がある
- やや重度：5-6回思い出させる必要がある
- 重度：7回以上思い出させる必要がある

10. 理解

この項目では、被験者の言語理解能力を評価する。この項目の評価では、評価者は、試験開始前の面談と試験中に被験者がどの程度評価者の話を理解できたかを検討しなければならない。**命令・指示への反応を含めないこと。**

- なし：理解が悪いという徴候なし
- ごく軽度：1-2回の理解の間違い
- 軽度：3-5回の理解の間違い
- 中等度：数回の繰り返しや言い直しが必要である
- やや重度：被験者は時々しか正しく反応しない。すなわち、「はい」／「いいえ」の質問にしか答えられない
- 重度：被験者は質問に対してほとんど正しく答えられない。ただし会話が貧困なためではない

11. 喚語困難

この項目の評価では、評価者は、被験者が面談や試験の際の自発的発話において、言おうとする単語を探すのに困難があった程度を評価する。**この評価には、指と物品呼称課題における発話を含めないこと。**また、0より上の評価を支持するような根拠は、1ページ目に明確に記載しなければならない(手順書参照のこと)。

- なし：自発的発話において喚語困難の徴候なし
- ごく軽度：1、2度あるが、臨床的な意義はなし
- 軽度：迂遠な表現や同義語の置換が目立つ
- 中等度：ときどき埋め合わせることなく単語が抜ける
- やや重度：しばしば埋め合わせることなく単語が抜ける
- 重度：ほぼすべて単語が失われる。発話は空虚で1-2語の発話のみ

12. 発話能力

この項目は、明瞭さや自らの考えを理解させることの困難さなど、発話の質を全般的に評価するものである。この項目を評価するには、最初の面談と試験の際に被験者が発した全ての発話内容を検討しなければならない。0 より上の評価を支持するような根拠は、1 ページ目に明確に記載しなければならない（手順書参照のこと）。

- なし：被験者の言うことを理解するのに困難なことはない
- ごく軽度：一度だけ理解できないことがある
- 軽度：全体の 25%未満を理解することが難しい
- 中等度：全体の 25-50%を理解することが難しい
- やや重度：全体の 50%ほどを理解することが難しい
- 重度：1、2 語文。流暢ではあっても空虚な発話、あるいは発話なし

13. 数字の消去（バージョン A）

例題への教示：

例題を表にして被験者の前に置き、「この紙の上の方には 2 つの数字が書いてあります。その下にはそれらの数字が他の数字と混ざっています。ここから始めて頂きますが（最初の行の初めを指差しながら）、行ごとの上に書いてあるどちらかの数字と一致する数字に、斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやして下さい。」と述べる。30 秒後に例題を終了する。

課題への教示：

課題を被験者の前に置き、「この紙の上の方には 2 つの数字が書いてあります。その下にはそれらの数字が他の数字と混ざっています。ここから始めて頂きますが（最初の行の初めを指差しながら）、行ごとにある 2 つの数字と一致する数字に、斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやして下さい。」と述べる。

最初に間違えた番号を消してしまった場合は、「これらが消していただきたい数字です。」と言いながら、紙の上に書いてある数字を指差す。被験者が混乱したり、もしくは試験の途中で止まったりした場合、必要に応じて標準的な教示を繰り返す。45 秒後に試験を中止する。

--	--

13a 数字の消去：正しく消した回数

--	--

13b 数字の消去：間違えて消した回数

--	--

13c 数字の消去：課題の再教示が必要であった回数

もし数字の消去課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

"6" and "1"

1 2 2 4 5 9 5 6 6 9 1 9 6 7 8 3 2 4 3 7 2 1 4 2 2 1 2 6 6 3

"2" and "8"

6 2 6 7 2 3 1 3 8 5 5 5 8 1 7 9 1 7 2 7 4 5 7 6 1 3 9 6 2 1
9 4 6 9 5 7 1 8 9 5 6 5 4 2 7 1 5 2 7 9 1 7 1 1 1 4 2 8 5 8
1 9 7 9 7 1 6 7 8 6 5 5 7 2 9 6 5 9 5 4 7 3 2 4 5 6 1 4 3 4
4 6 8 4 1 4 1 7 2 4 7 1 7 6 7 5 4 9 8 7 5 6 2 1 6 9 3 1 4 8
7 8 6 7 1 7 1 3 4 3 9 8 6 5 1 8 3 4 2 6 9 9 6 1 6 4 3 9 3 4
4 9 3 8 7 2 5 4 4 8 7 6 4 1 4 7 2 6 8 7 5 6 3 2 6 4 4 6 8 4
4 8 3 4 7 5 4 4 7 9 7 3 6 8 6 5 4 7 4 3 4 9 2 5 3 5 4 7 3 5
4 9 3 3 8 1 8 4 2 6 5 6 6 1 7 2 4 2 9 7 9 7 6 1 5 1 4 1 9 8

A

<p>ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)</p> <p>Translated and adapted from the Alzheimer's Disease Assessment Scale, 1994 Revised Edition, Richard C. Mohs, Ph.D. Copyright © 1994 by The Mount Sinai School of Medicine page1 / 17</p>				
被験者 ID	検査者イニシャル	検査日		
<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> M <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/>	20 <input type="text"/> <input type="text"/> 年 <input type="text"/> <input type="text"/> 月 <input type="text"/> <input type="text"/> 日		
<p>ADAS 最初の会話についての注意</p> <p>手順：具体的なやり方については、手順書を参照すること。最初の 10 分間は、被験者の会話の表現力や理解力の様々な側面を評価するために、自由に会話を行う。その後、残りの認知機能試験を施行する。言語能力は面接や特定の試験によって評価される。「はい」か「いいえ」を尋ねる質問では、非常に基本的な段階での理解を評価する。その他の質問では、具体的な情報と優れた会話能力が求められる。</p> <p>被験者と会話を開始する際には、例えば、「天気」「病院まで来院する道すがらのこと」「どんな朝食を食べたか」など、当たり障りのない話題についての簡単な会話をする。この会話によって被験者は検査が始まる前に心を落ち着けることができ、評価者が被験者にどの程度の言語の使用及び理解能力があるのかを観察する良い機会となる。ADAS の認知機能項目では、言語能力の臨床評価には 3 つの項目がある。このページに面接についてのメモを記録すること。発話能力（項目 10）、喚語困難（項目 11）、理解（項目 12）の評価の裏付けとなるようにこの用紙に記録をすること。また、障害についてのどのような評価も、この文書に記入されたメモに基づいて行わなければならない。</p>				
話題 _____ 食欲 _____ 睡眠 _____ 運動 _____ その他 _____				
1. 理解 2. 発話 3. 喚語				
評価者のコメント： _____ _____ _____ _____ _____				

ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)

page2 / 17 被験者 ID _____ 検査日 _____

1. 単語再生 (単語再生リスト1)

試験を始めるにあたって、次のように述べる。「これからあなたに、これらの白いカードに印刷した単語をいくつか示します。後で、覚えて頂いた単語をすべて思い出ししてもらいますので、それぞれの単語を声に出して読みながら覚えるようにして下さい。用意はいいですか？単語を読みながら、覚えるようにして下さい。」

それぞれの単語を被験者に示し、声を出して読むように指示をする。10個の単語全てが読み終わったら、「はい。今度は、リストにあった単語をできるだけたくさん思い出して言ってみて下さい。」と言う。必要に応じて、「他にはありませんか？」と促す。第2試行、第3試行では「先程と同じ単語を示します。それぞれの単語を声に出して読み上げ、覚えるようにして下さい。」と言う。評価者は正しく再生できた単語の「はい」の欄に印を付けること。

再生できたか？		再生できたか？		再生できたか？	
試行 1	はい	試行 2	はい	試行 3	はい
1. 瓶 (びん)		1. 森 (もり)		1. 少女 (しょうじょ)	
2. じゃがいも		2. 寺 (てら)		2. 寺 (てら)	
3. 少女 (しょうじょ)		3. 瓶 (びん)		3. じゃがいも	
4. 寺 (てら)		4. 星 (ほし)		4. 動物 (どうぶつ)	
5. 星 (ほし)		5. じゃがいも		5. 森 (もり)	
6. 動物 (どうぶつ)		6. 少女 (しょうじょ)		6. 湖 (みずうみ)	
7. 森 (もり)		7. 時計 (とけい)		7. 会社 (かいしゃ)	
8. 湖 (みずうみ)		8. 動物 (どうぶつ)		8. 時計 (とけい)	
9. 時計 (とけい)		9. 湖 (みずうみ)		9. 瓶 (びん)	
10. 会社 (かいしゃ)		10. 会社 (かいしゃ)		10. 星 (ほし)	
合計		合計		合計	

終了時刻 (24 時間表記)

		:		
--	--	---	--	--

もし単語再生の試行のどれか一つでも施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため3つの試行を完遂できず

2. 命令/指示

この課題は、言語理解を評価することを意図している。被験者は、第1段階から第5段階までの5つの異なる命令・指示に従うように指示される。それぞれの命令・指示は一度だけ読むこと。ハッキリと大きな声で言うこと。もし被験者が反応しない、または、混乱している様子であったり、もしくは繰り返すように望んだりした場合には、評価者はもう一度**命令・指示全体**を読むこと。そして、次の命令・指示へと移行する。被験者には全ての命令・指示を与えなければならない。**評価者は全ての命令・指示に対する反応を、「はい」か「いいえ」で記録すること。**

試験を始める際に、次のように述べる。「さて、これからいくつかのことをやって頂きます。まずは……」

	反応は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 「 ゲンコツを作って下さい 」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 「 天井を指さしてから床を指さして下さい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
机の上に鉛筆、腕時計、カードの順に置く。		
c. 「 鉛筆をカードの上に置き、元に戻して下さい 」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 「 腕時計を鉛筆の反対側に置き、カードを裏返して下さい 」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
机から鉛筆、腕時計、カードを取り除く。		
e. 「 目を閉じたまま、二本の指で左右の肩を二度ずつたいて下さい 」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

3. 構成行為

この試験では被験者が4つの図形を模写する能力を評価する。図形は一度に一つずつ提示しなければならない。もし被験者が混乱しているようであったり、自分で描いた絵に納得がいかないようであったり、または、もう一度描きたいと望む場合は、それぞれの図形を再度描いても良い。二番目の絵を描いたら、被験者にどちらがより良いかを選ばせ、その試行に対してのみ採点する。

開始にあたって、「この紙には図形が描かれています。この紙のどこでも良いので、これと同じような図形を描いて下さい。」と述べる。

手順：それぞれの図形に対して適切な反応にチェックをする。ただし、以下のことに注意されたい。「認識できる試み」では、図形の一辺や一部分を表現するような線が少なくとも1本示されている必要がある。

a. 円：閉じた円形の図が描けていること。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

b. 重なる二つの長方形：図形は四角形であること。また、元の図形と同じように重なっていること。大きさの変化については問わない。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

c. 菱形：図形は四角形であること。角が上下にあり、横方向の広がりと同程度であること。

(例えば、長さが長い方が短い方の1.5倍以上とはならないこと。)

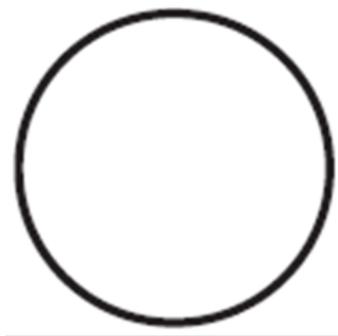
- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

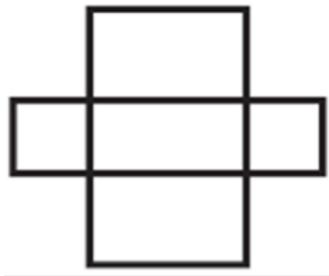
d. 立方体：図形は三次元であり、正面が正しい方向を向いていること。内部の線は角の間に正しく描かれていること。相対する面はおおよそ平行であること。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

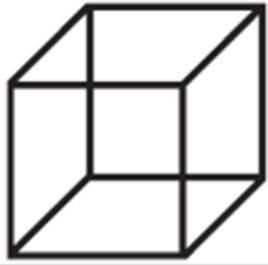
もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず









開始時刻 (24 時間表記)

		:		
--	--	---	--	--

4. 単語の遅延再生課題

被験者に、先程の即時単語再生課題の中で提示した単語からできるだけ多くの単語を想起させる。

始めるにあたって、「数分前にこのカードに書かれた言葉をいくつか読んでいただきました。」と述べる。図のリストを指差しながら、「カードに書かれていた単語を、できるだけたくさん思い出して教えてください。」また、必要に応じて「他にはありませんか?」と促す。反応がない場合、もしくは促しても被験者がそれ以上思い出せない場合はそこで終了とする。評価者は、正しく再生できた全ての単語に対して、「はい」にチェックを入れること。

再生できたか?

試行 1	はい
1. 瓶 (びん)	
2. じゃがいも	
3. 少女 (しょうじょ)	
4. 寺 (てら)	
5. 星 (ほし)	
6. 動物 (どうぶつ)	
7. 森 (もり)	
8. 湖 (みずうみ)	
9. 時計 (とけい)	
10. 会社 (かいしゃ)	
合計	

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること :

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

開始時刻 (24 時間表記)

		:		
--	--	---	--	--

4. 単語の遅延再生課題

被験者に、先程の即時単語再生課題の中で提示した単語からできるだけ多くの単語を想起させる。

始めるにあたって、「**数分前にこのカードに書かれた言葉をいくつか読んでいただきました。**」と述べる。図のリストを指差しながら、「**カードに書かれていた単語を、できるだけたくさん思い出して教えて下さい。**」また、必要に応じて「**他にはありませんか？**」と促す。反応がない場合、もしくは促しても被験者がそれ以上思い出せない場合はそこで終了とする。評価者は、正しく再生できた全ての単語に対して、「はい」にチェックを入れること。

再生できたか？

試行 1	はい
1. 瓶 (びん)	
2. じゃがいも	
3. 少女 (しょうじょ)	
4. 寺 (てら)	
5. 星 (ほし)	
6. 動物 (どうぶつ)	
7. 森 (もり)	
8. 湖 (みずうみ)	
9. 時計 (とけい)	
10. 会社 (かいしゃ)	
合計	

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)

page10 / 17 被験者 ID _____ 検査日 _____

5. 物品と指の呼称

5A では、被験者はランダムに提示された 12 個の実際の物品の呼称を求められる。物品はランダムな順番で提示されなければならない。次のような教示を被験者に行う。「**今からあなたにいくつかの物をお見せします。それらの名前を覚えて下さい。これは何ですか？**」(物品を提示する。)もし被験者が物品の機能を答えた場合は、「**そうですね、使い道はそうです。それでは名前は何と言いますか？**」と聞く。もし被験者が反応しない場合は、評価者は以下に挙げた意味手掛かりを与える。それでも被験者が反応しない場合、もしくは間違えた場合は、次の物品に移る。評価者は、全ての物品と指についての反応を、「はい」または「いいえ」で記録する。

反応は正しいか？

5A : 物品の名前 (意味手掛かり)	はい	いいえ
花 (庭で育つ)		
ベッド (寝るときに使う)		
笛 (吹くと音が出る)		
鉛筆 (字を書くために使う)		
ガラガラ (赤ちゃんのおもちゃ)		
お面 (顔を隠す)		
はさみ (紙を切る)		
くし (髪の毛に使う)		
さいふ (お金をしまう)		
ハーモニカ (楽器)		
聴診器 (医者が心臓の音を聞くために使う)		
ピンセット (物をつまむ)		

5B では、被験者の利き手の指の名前を答えさせる。「**あなたの右 (左) 手を机の上に置いて下さい。これからあなたの指を差していきますので、何というか教えて下さい。この指は何と言いますか？**」と聞く。

反応は正しいか？

5B : 指	はい	いいえ
親指		
中指		
薬指		
人差し指		
小指		

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること :

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

6. 観念性行為

この課題は、被験者がやり慣れてはいるが、複雑な一連の動作を行うことが可能かどうかを判断することを目的としている。この課題には5つの動作が含まれる。被験者の前に長封筒、A4の紙と鉛筆を置く。

そして、次のような教示を被験者に与える。「**ご自身に宛てて手紙を書くとします。この紙を手にとって、それを封筒に入るように折り、封筒の中に入れて下さい。そして、封をして宛先に自分の住所を書いてから、どこに切手を貼るのかを教えてください。**」

もし被験者が動作の一部を忘れていたり、もしくは難しくできなかつたりした場合は、評価者はその部分の教示を繰り返す。完全な教示を与えた後は、それぞれの動作に対して一度だけしか教示を繰り返してはならない。評価者はすべての動作に対して、「はい」または「いいえ」の反応を記録する。

動作	動作は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 紙を折る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 紙を封筒に入れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 封筒に封をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 封筒に自分の住所を書く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 切手を貼る場所を示す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

7. 見当識

この項目は、時間と場所について被験者がどの程度良く認識しているかを判断することを目的としている。被験者に、以下の質問を**ひとつずつ**行う。それぞれの質問に対して、一度だけ言い直しが許される（例えば、曜日と日付を間違えた場合など）。評価者は全ての質問に対する反応を、「はい」または「いいえ」にチェックして記録する。

	反応は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 氏名（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 月（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 日（±1日の範囲で正解）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 年（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 曜日（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f. 季節 （今後1週間以内にやってくる季節、もしくは過去2週間前までの季節は正解）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g. 場所（部分的な名称は許容されるが一般的な名称は許容されない。） （「 私たちは今どこにいますか？ 」 もしくは「 今いる場所はなんというところですか？ 」と聞く。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h. 時間（±1時間の範囲で正解） （「 時計を見ないで、だいたい今何時くらいか教えてください 」と聞く。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

8. 単語再認 (リスト1)

被験者の反応にチェックする

この課題の学習部分では、被験者は12個の単語のリストを覚えてもらう試行を1回行う(刺激カードの使用方法については、手順書を参照すること)。「これから、この白いカードに書かれた単語をいくつかお見せします。声に出して読んで覚えてください。」と述べる。

この課題の再認部分では、評価者は「では、これから別の単語リストをお見せします。この中には、たった今お見せした単語もありますし、新しい単語も入っています。それぞれの単語について、最初にお見せしたリストの中にあった単語かどうかを答えて下さい。」と述べる。

評価者は最初の単語を示して、「これは前にお見せした単語ですか?はいか、いいえでお答え下さい」もしくは「この単語は前にお見せしましたか?」と聞く。二番目の単語の前にも同様の教示を与える。それ以降は、「これはどうですか?」もしくは「推測で構いません」と言う。

それぞれの単語についての被験者の反応を聞き、「はい」または「いいえ」にチェックする。試験施行中にも被験者が教示を忘れてしまい、再度確認する必要がある場合は、評価者は質問を繰り返し、「R」の欄にチェックを入れる。

単語	はい	いいえ	R
1. 費用 (ひよう)			
2. 国 (くに)			
3. 煙突 (えんとつ)			
4. 雀 (すずめ)			
5. 損害 (そんがい)			
6. 交通 (こうつう)			
7. サンドイッチ			
8. 奉仕 (ほうし)			
9. 貝 (かい)			
10. 解決 (かいけつ)			
11. メートル			
12. 筒 (つつ)			
13. 身体(しんたい)			
14. 地面 (じめん)			
15. 小枝 (こえだ)			
16. エンジン			
17. 富 (とみ)			
18. 重力 (じゅうりょく)			
19. 夏 (なつ)			
20. 知恵 (ちえ)			
21. 男 (おとこ)			
22. 食事 (しょくじ)			
23. 乗客 (じょうきやく)			
24. 酸 (さん)			

*R: 再教示

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること:

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

9. 試験の教示に対する記憶 (単語再認課題の際の観察のみに基づいて評価する。)

この項目では、単語再認課題で求められていることを記憶する能力を評価する。この項目の評価では、**単語再認課題**において教示を思い出させた回数を数える。単語再認課題が完遂できない場合、もしくは全く施行できなかった場合は、この項目を採点してはならない。

3つ目の単語以降で、試験の教示を覚えていられなかった回数を記録する。

- なし：被験者は一度も追加の教示を必要としない
- ごく軽度：一回だけ忘れる
- 軽度：2回思い出させる必要がある
- 中等度：3-4回思い出させる必要がある
- やや重度：5-6回思い出させる必要がある
- 重度：7回以上思い出させる必要がある

10. 理解

この項目では、被験者の言語理解能力を評価する。この項目の評価では、評価者は、試験開始前の面談と試験中に被験者がどの程度評価者の話を理解できたかを検討しなければならない。**命令・指示への反応を含めないこと。**

- なし：理解が悪いという徴候なし
- ごく軽度：1-2回の理解の間違い
- 軽度：3-5回の理解の間違い
- 中等度：数回の繰り返しや言い直しが必要である
- やや重度：被験者は時々しか正しく反応しない。すなわち、「はい」／「いいえ」の質問にしか答えられない
- 重度：被験者は質問に対してほとんど正しく答えられない。ただし会話が貧困なためではない

11. 喚語困難

この項目の評価では、評価者は、被験者が面談や試験の際の自発的発話において、言おうとする単語を探すのに困難があった程度を評価する。**この評価には、指と物品呼称課題における発話を含めないこと。**また、0より上の評価を支持するような根拠は、1ページ目に明確に記載しなければならない(手順書参照のこと)。

- なし：自発的発話において喚語困難の徴候なし
- ごく軽度：1、2度あるが、臨床的な意義はなし
- 軽度：迂遠な表現や同義語の置換が目立つ
- 中等度：ときどき埋め合わせることなく単語が抜ける
- やや重度：しばしば埋め合わせることなく単語が抜ける
- 重度：ほぼすべて単語が失われる。発話は空虚で1-2語の発話のみ

12. 発話能力

この項目は、明瞭さや自らの考えを理解させることの困難さなど、発話の質を全般的に評価するものである。この項目を評価するには、最初の面談と試験の際に被験者が発した全ての発話内容を検討しなければならない。0 より上の評価を支持するような根拠は、1 ページ目に明確に記載しなければならない（手順書参照のこと）。

- なし：被験者の言うことを理解するのに困難なことはない
- ごく軽度：一度だけ理解できないことがある
- 軽度：全体の 25%未満を理解することが難しい
- 中等度：全体の 25-50%を理解することが難しい
- やや重度：全体の 50%ほどを理解することが難しい
- 重度：1、2 語文。流暢ではあっても空虚な発話、あるいは発話なし

13. 数字の消去（バージョン A）**例題への教示：**

例題を表にして被験者の前に置き、「この紙の上の方には 2 つの数字が書いてあります。その下にはそれらの数字が他の数字と混ざっています。ここから始めて頂きますが（最初の行の初めを指差しながら）、行ごとと上に書いてあるどちらかの数字と一致する数字に、斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやして下さい。」と述べる。30 秒後に例題を終了する。

課題への教示：

課題を被験者の前に置き、「この紙の上の方には 2 つの数字が書いてあります。その下にはそれらの数字が他の数字と混ざっています。ここから始めて頂きますが（最初の行の初めを指差しながら）、行ごとと上にある 2 つの数字と一致する数字に、斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやして下さい。」と述べる。

最初に間違えた番号を消してしまった場合は、「これらが消していただきたい数字です。」と言いながら、紙の上を書いてある数字を指差す。被験者が混乱したり、もしくは試験の途中で止まったりした場合、必要に応じて標準的な教示を繰り返す。45 秒後に試験を中止する。

--	--

13a 数字の消去：正しく消した個数

--	--

13b 数字の消去：間違えて消した個数

--	--

13c 数字の消去：課題の再教示が必要であった回数

もし数字の消去課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

"6" and "1"

1 2 2 4 5 9 5 6 6 9 1 9 6 7 8 3 2 4 3 7 2 1 4 2 2 1 2 6 6 3

"4" and "9"

7 8 7 5 2 2 1 6 9 3 1 4 8 7 9 3 5 4 7 5 1 6 8 7 3 2 3 9 3 7
3 9 2 6 4 3 9 3 4 1 2 1 6 1 6 3 2 3 4 7 3 2 6 3 1 3 7 8 6 7
1 7 1 3 6 3 9 8 6 5 1 8 3 4 2 6 9 5 6 1 9 3 6 8 7 2 5 4 6 8
8 6 8 1 4 7 2 6 8 7 5 6 3 2 6 4 1 6 8 4 5 3 4 7 9 7 3 6 8 6
2 3 9 6 5 3 5 6 7 3 5 5 9 3 3 8 1 8 2 2 6 2 6 6 1 7 2 8 2 9
7 9 3 8 1 7 6 1 5 1 8 4 3 3 8 7 5 4 2 7 9 7 3 6 8 6 5 4 7 4
3 6 1 6 3 5 4 8 3 9 3 4 7 1 3 4 3 6 1 6 7 1 7 6 7 3 5 2 9 8
7 5 2 2 1 6 9 3 1 4 8 7 9 3 4 1 7 5 2 2 1 6 8 3 1 4 8 7 9 3

B

<p>ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)</p> <p>Translated and adapted from the Alzheimer's Disease Assessment Scale, 1994 Revised Edition, Richard C. Mohs, Ph.D. Copyright © 1994 by The Mount Sinai School of Medicine page1 / 17</p>									
被験者 ID □□□ M □□□□□□	検査者イニシャル □□	検査日 20□□年□□月□□日							
<p>ADAS 最初の会話についての注意</p> <p>手順：具体的なやり方については、手順書を参照すること。最初の 10 分間は、被験者の会話の表現力や理解力の様々な側面を評価するために、自由に会話を行う。その後、残りの認知機能試験を施行する。言語能力は面接や特定の試験によって評価される。「はい」か「いいえ」を尋ねる質問では、非常に基本的な段階での理解を評価する。その他の質問では、具体的な情報と優れた会話能力が求められる。</p> <p>被験者と会話を開始する際には、例えば、「天気」「病院まで来院する道すがらのこと」「どんな朝食を食べたか」など、当たり障りのない話題についての簡単な会話をする。この会話によって被験者は検査が始まる前に心を落ち着けることができ、評価者が被験者にどの程度の言語の使用及び理解能力があるのかを観察する良い機会となる。ADAS の認知機能項目では、言語能力の臨床評価には 3 つの項目がある。このページに面接についてのメモを記録すること。発話能力（項目 10）、喚語困難（項目 11）、理解（項目 12）の評価の裏付けとなるようにこの用紙に記録をすること。また、障害についてのどのような評価も、この文書に記入されたメモに基づいて行わなければならない。</p>									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border-bottom: 1px solid black;">話題</td> <td style="width: 20%; border-bottom: 1px solid black;">食欲</td> <td style="width: 20%; border-bottom: 1px solid black;">睡眠</td> <td style="width: 20%; border-bottom: 1px solid black;">運動</td> <td style="width: 20%; border-bottom: 1px solid black;">その他</td> </tr> </table>					話題	食欲	睡眠	運動	その他
話題	食欲	睡眠	運動	その他					
<p>1. 理解</p>									
<p>2. 発話</p>									
<p>3. 喚語</p>									
<p>評価者のコメント： _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>									

ADAS-cog (アルツハイマー病評価尺度認知行動試験)

page2 / 17 被験者 ID _____ 検査日 _____

1. 単語再生 (単語再生リスト1)

試験を始めるにあたって、次のように述べる。「これからあなたに、これらの白いカードに印刷した単語をいくつか示します。後で、覚えて頂いた単語をすべて思い出ししてもらいますので、それぞれの単語を声に出して読みながら覚えるようにして下さい。用意はいいですか？単語を読みながら、覚えるようにして下さい。」

それぞれの単語を被験者に示し、声を出して読むように指示をする。10個の単語全てが読み終わったら、「はい。今度は、リストにあった単語をできるだけたくさん思い出して言ってみて下さい。」と言う。必要に応じて、「他にはありませんか？」と促す。第2試行、第3試行では「先程と同じ単語を示します。それぞれの単語を声に出して読み上げ、覚えるようにして下さい。」と言う。評価者は正しく再生できた単語の「はい」の欄に印を付けること。

再生できたか？		再生できたか？		再生できたか？	
試行 1	はい	試行 2	はい	試行 3	はい
1. 海岸 (かいがん)		1. 馬 (うま)		1. 唇 (くちびる)	
2. 人形 (にんぎょう)		2. 椅子 (いす)		2. 椅子 (いす)	
3. 唇 (くちびる)		3. 海岸 (かいがん)		3. 人形 (にんぎょう)	
4. 椅子 (いす)		4. 学生 (がくせい)		4. 林檎 (りんご)	
5. 学生 (がくせい)		5. 人形 (にんぎょう)		5. 馬 (うま)	
6. 林檎 (りんご)		6. 唇 (くちびる)		6. パイプ	
7. 馬 (うま)		7. 谷 (たに)		7. 岩 (いわ)	
8. パイプ		8. 林檎 (りんご)		8. 谷 (たに)	
9. 谷 (たに)		9. パイプ		9. 海岸 (かいがん)	
10. 岩 (いわ)		10. 岩 (いわ)		10. 学生 (がくせい)	
合計		合計		合計	

終了時刻 (24 時間表記)

:

もし単語再生の試行のどれか一つでも施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため 3 つの試行を完遂できず

2. 命令/指示

この課題は、言語理解を評価することを意図している。被験者は、第1段階から第5段階までの5つの異なる命令・指示に従うように指示される。それぞれの命令・指示は一度だけ読むこと。ハッキリと大きな声で言うこと。もし被験者が反応しない、または、混乱している様子であったり、もしくは繰り返すように望んだりした場合には、評価者はもう一度**命令・指示全体**を読むこと。そして、次の命令・指示へと移行する。被験者には全ての命令・指示を与えなければならない。**評価者は全ての命令・指示に対する反応を、「はい」か「いいえ」で記録すること。**

試験を始める際に、次のように述べる。「さて、これからいくつかのことをやって頂きます。まずは……」

- | | 反応は正しいか？ | |
|--|--------------------------|--------------------------|
| | はい | いいえ |
| a. 「 ゲンコツを作って下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| b. 「 天井を指さしてから床を指さして下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 机の上に鉛筆、腕時計、カードの順に置く。 | | |
| c. 「 鉛筆をカードの上に置き、元に戻して下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| d. 「 腕時計を鉛筆の反対側に置き、カードを裏返して下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 机から鉛筆、腕時計、カードを取り除く。 | | |
| e. 「 目を閉じたまま、二本の指で左右の肩を二度ずつたいて下さい 」 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

3. 構成行為

この試験では被験者が4つの図形を模写する能力を評価する。図形は一度に一つずつ提示しなければならない。もし被験者が混乱しているようであったり、自分で描いた絵に納得がいかないようであったり、または、もう一度描きたいと望む場合は、それぞれの図形を再度描いても良い。二番目の絵を描いたら、被験者にどちらがより良いかを選ばせ、その試行に対してのみ採点する。

開始にあたって、「この紙には図形が描かれています。この紙のどこでも良いので、これと同じような図形を描いて下さい。」と述べる。

手順：それぞれの図形に対して適切な反応にチェックをする。ただし、以下のことに注意されたい。「認識できる試み」では、図形の一辺や一部分を表現するような線が少なくとも1本示されている必要がある。

a. 円：閉じた円形の図が描けていること。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

b. 重なる二つの長方形：図形は四角形であること。また、元の図形と同じように重なっていること。大きさの変化については問わない。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

c. 菱形：図形は四角形であること。角が上下にあり、横方向の広がりと同程度であること。

(例えば、長さが長い方が短い方の1.5倍以上とはならないこと。)

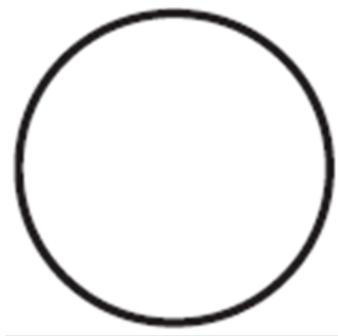
- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

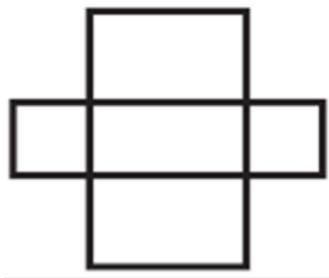
d. 立方体：図形は三次元であり、正面が正しい方向を向いていること。内部の線は角の間に正しく描かれていること。相対する面はおおよそ平行であること。

- 図形は正しく描かれた
- 図形は正しく描かれなかった（少なくとも図形の一辺や一部分が描かれている）
- 図形のいずれかの辺や部分を描こうとしたと認識できる試みは見られなかった

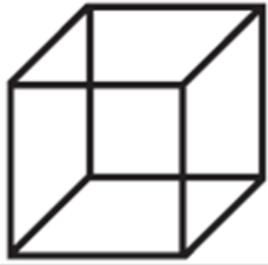
もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず









開始時刻 (24 時間表記)

		:		
--	--	---	--	--

4. 単語の遅延再生課題

被験者に、先程の即時単語再生課題の中で提示した単語からできるだけ多くの単語を想起させる。

始めるにあたって、「数分前にこのカードに書かれた言葉をいくつか読んでいただきました。」と述べる。図のリストを指差しながら、「カードに書かれていた単語を、できるだけたくさん思い出して教えて下さい。」また、必要に応じて「他にはありませんか?」と促す。反応がない場合、もしくは促しても被験者がそれ以上思い出せない場合はそこで終了とする。評価者は、正しく再生できた全ての単語に対して、「はい」にチェックを入れること。

再生できたか?

試行 1	はい
1. 海岸 (かいがん)	
2. 人形 (にんぎょう)	
3. 唇 (くちびる)	
4. 椅子 (いす)	
5. 学生 (がくせい)	
6. 林檎 (りんご)	
7. 馬 (うま)	
8. パイプ	
9. 谷 (たに)	
10. 岩 (いわ)	
合計	

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること :

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

5. 物品と指の呼称

5A では、被験者はランダムに提示された 12 個の実際の物品の呼称を求められる。物品はランダムな順番で提示されなければならない。次のような教示を被験者に行う。「**今からあなたにいくつかの物をお見せします。それらの名前を覚えて下さい。これは何ですか？**」(物品を提示する。)もし被験者が物品の機能を答えた場合は、「**そうですね、使い道はそうです。それでは名前は何と言いますか？**」と聞く。もし被験者が反応しない場合は、評価者は以下に挙げた意味手掛かりを与える。それでも被験者が反応しない場合、もしくは間違えた場合は、次の物品に移る。評価者は、全ての物品と指についての反応を、「はい」または「いいえ」で記録する。

反応は正しいか？

5A：物品の名前 (意味手掛かり)	はい	いいえ
花 (庭で育つ)		
ベッド (寝るときに使う)		
笛 (吹くと音が出る)		
鉛筆 (字を書くために使う)		
ガラガラ (赤ちゃんのおもちゃ)		
お面 (顔を隠す)		
はさみ (紙を切る)		
くし (髪の毛に使う)		
さいふ (お金をしまう)		
ハーモニカ (楽器)		
聴診器 (医者が心臓の音を聞くために使う)		
ピンセット (物をつまむ)		

5B では、被験者の利き手の指の名前を答えさせる。「**あなたの右 (左) 手を机の上に置いて下さい。これからあなたの指を差していきますので、何というか教えて下さい。この指は何と言いますか？**」と聞く。

反応は正しいか？

5B：指	はい	いいえ
親指		
中指		
薬指		
人差し指		
小指		

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

6. 観念性行為

この課題は、被験者がやり慣れてはいるが、複雑な一連の動作を行うことが可能かどうかを判断することを目的としている。この課題には5つの動作が含まれる。被験者の前に長封筒、A4の紙と鉛筆を置く。

そして、次のような教示を被験者に与える。「**ご自身に宛てて手紙を書くとします。この紙を手にとって、それを封筒に入るように折り、封筒の中に入れて下さい。そして、封をして宛先に自分の住所を書いてから、どこに切手を貼るのかを教えてください。**」

もし被験者が動作の一部を忘れていたり、もしくは難しくできなかつたりした場合は、評価者はその部分の教示を繰り返す。完全な教示を与えた後は、それぞれの動作に対して一度だけしか教示を繰り返してはならない。評価者はすべての動作に対して、「はい」または「いいえ」の反応を記録する。

動作	動作は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 紙を折る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 紙を封筒に入れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 封筒に封をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 封筒に自分の住所を書く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 切手を貼る場所を示す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

7. 見当識

この項目は、時間と場所について被験者がどの程度良く認識しているかを判断することを目的としている。被験者に、以下の質問を**ひとつずつ**行う。それぞれの質問に対して、一度だけ言い直しが許される（例えば、曜日と日付を間違えた場合など）。評価者は全ての質問に対する反応を、「はい」または「いいえ」にチェックして記録する。

	反応は正しいか？	
	はい	いいえ
a. 氏名（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 月（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 日（±1日の範囲で正解）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 年（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 曜日（正確でなければならない）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f. 季節 （今後1週間以内にやってくる季節、もしくは過去2週間前までの季節は正解）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g. 場所（部分的な名称は許容されるが一般的な名称は許容されない。） （「 私たちは今どこにいますか？ 」 もしくは「 今いる場所はなんというところですか？ 」と聞く。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h. 時間（±1時間の範囲で正解） （「 時計を見ないで、だいたい今何時くらいか教えてください 」と聞く。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

8. 単語再認 (リスト1)

被験者の反応にチェックする

この課題の学習部分では、被験者は12個の単語のリストを覚えてもらう試行を1回行う(刺激カードの使用方法については、手順書を参照すること)。「これから、この白いカードに書かれた単語をいくつかお見せします。声を出して読んで覚えてください。」と述べる。

この課題の再認部分では、評価者は「では、これから別の単語リストをお見せします。この中には、たった今お見せした単語もありますし、新しい単語も入っています。それぞれの単語について、最初にお見せしたリストの中にあった単語かどうかを答えて下さい。」と述べる。

評価者は最初の単語を示して、「これは前にお見せした単語ですか? はいか、いいえでお答え下さい」もしくは「この単語は前にお見せしましたか?」と聞く。二番目の単語の前にも同様の教示を与える。それ以降は、「これはどうですか?」もしくは「推測で構いません」と言う。

それぞれの単語についての被験者の反応を聞き、「はい」または「いいえ」にチェックする。試験施行中にも被験者が教示を忘れてしまい、再度確認する必要がある場合は、評価者は質問を繰り返し、「R」の欄にチェックを入れる。

単語	はい	いいえ	R
1. 沈黙 (ちんもく)			
2. 肘 (ひじ)			
3. 娘 (むすめ)			
4. 粉 (こな)			
5. 運河 (うんが)			
6. 額 (ひたい)			
7. 虎 (とら)			
8. 黄昏 (たそがれ)			
9. 竜 (りゅう)			
10. 部屋 (へや)			
11. 姉 (あね)			
12. 乞食 (こじき)			
13. こだま			
14. 甥 (おい)			
15. 義務 (ぎむ)			
16. 村 (むら)			
17. 角 (かど)			
18. オリーブ			
19. 音楽 (おんがく)			
20. 勇気 (ゆうき)			
21. リットル			
22. リボン			
23. 物 (もの)			
24. 襟 (えり)			

R: 再教示

もし課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること:

- 施行せず (身体または認知機能以外の理由のため)
- 被験者が拒否
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

9. 試験の教示に対する記憶 (単語再認課題の際の観察のみに基づいて評価する。)

この項目では、単語再認課題で求められていることを記憶する能力を評価する。この項目の評価では、**単語再認課題**において教示を思い出させた回数を数える。単語再認課題が完遂できない場合、もしくは全く施行できなかった場合は、この項目を採点してはならない。

3つ目の単語以降で、試験の教示を覚えていられなかった回数を記録する。

- なし：被験者は一度も追加の教示を必要としない
- ごく軽度：一回だけ忘れる
- 軽度：2回思い出させる必要がある
- 中等度：3-4回思い出させる必要がある
- やや重度：5-6回思い出させる必要がある
- 重度：7回以上思い出させる必要がある

10. 理解

この項目では、被験者の言語理解能力を評価する。この項目の評価では、評価者は、試験開始前の面談と試験中に被験者がどの程度評価者の話を理解できたかを検討しなければならない。**命令・指示への反応を含めないこと。**

- なし：理解が悪いという徴候なし
- ごく軽度：1-2回の理解の間違い
- 軽度：3-5回の理解の間違い
- 中等度：数回の繰り返しや言い直しが必要である
- やや重度：被験者は時々しか正しく反応しない。すなわち、「はい」／「いいえ」の質問にしか答えられない
- 重度：被験者は質問に対してほとんど正しく答えられない。ただし会話が貧困なためではない

11. 喚語困難

この項目の評価では、評価者は、被験者が面談や試験の際の自発的発話において、言おうとする単語を探すのに困難があった程度を評価する。**この評価には、指と物品呼称課題における発話を含めないこと。**また、0より上の評価を支持するような根拠は、1ページ目に明確に記載しなければならない(手順書参照のこと)。

- なし：自発的発話において喚語困難の徴候なし
- ごく軽度：1、2度あるが、臨床的な意義はなし
- 軽度：迂遠な表現や同義語の置換が目立つ
- 中等度：ときどき埋め合わせることなく単語が抜ける
- やや重度：しばしば埋め合わせることなく単語が抜ける
- 重度：ほぼすべて単語が失われる。発話は空虚で1-2語の発話のみ

12. 発話能力

この項目は、明瞭さや自らの考えを理解させることの困難さなど、発話の質を全般的に評価するものである。この項目を評価するには、最初の面談と試験の際に被験者が発した全ての発話内容を検討しなければならない。0 より上の評価を支持するような根拠は、1 ページ目に明確に記載しなければならない（手順書参照のこと）。

- なし：被験者の言うことを理解するのに困難なことはない
- ごく軽度：一度だけ理解できないことがある
- 軽度：全体の 25%未満を理解することが難しい
- 中等度：全体の 25-50%を理解することが難しい
- やや重度：全体の 50%ほどを理解することが難しい
- 重度：1、2 語文。流暢ではあっても空虚な発話、あるいは発話なし

13. 数字の消去（バージョン A）

例題への教示：

例題を表にして被験者の前に置き、「この紙の上の方には 2 つの数字が書いてあります。その下にはそれらの数字が他の数字と混ざっています。ここから始めて頂きますが（最初の行の初めを指差しながら）、行ごとと上に書いてあるどちらかの数字と一致する数字に、斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやして下さい。」と述べる。30 秒後に例題を終了する。

課題への教示：

課題を被験者の前に置き、「この紙の上の方には 2 つの数字が書いてあります。その下にはそれらの数字が他の数字と混ざっています。ここから始めて頂きますが（最初の行の初めを指差しながら）、行ごとと上にある 2 つの数字と一致する数字に、斜めに線を引いて消して下さい。できるだけ早くやして下さい。」と述べる。

最初に間違えた番号を消してしまった場合は、「これらが消していただきたい数字です。」と言いながら、紙の上を書いてある数字を指差す。被験者が混乱したり、もしくは試験の途中で止まったりした場合、必要に応じて標準的な教示を繰り返す。45 秒後に試験を中止する。

--	--

13a 数字の消去：正しく消した個数

--	--

13b 数字の消去：間違えて消した個数

--	--

13c 数字の消去：課題の再教示が必要であった回数

もし数字の消去課題が施行されなかった場合は、下記のいずれか一つにチェックすること：

- 施行せず（身体または認知機能以外の理由のため）
- 被験者が拒否
- 被験者の身体上の理由のため施行できず
- 被験者の認知機能上の理由のため施行できず

"6" and "1"

1 2 2 4 5 9 5 6 6 9 1 9 6 7 8 3 2 4 3 7 2 1 4 2 2 1 2 6 6 3

"3" and "7"

1 9 8 1 3 2 3 9 4 2 9 3 2 6 4 4 6 6 1 3 8 8 4 2 7 1 4 2 8 5
8 1 9 6 9 7 1 4 5 5 6 7 6 6 5 5 7 2 2 2 5 9 5 4 7 1 7 6 7 5
4 9 8 8 1 4 3 4 4 6 8 4 1 4 1 7 2 4 7 9 2 6 1 7 2 1 3 4 2 3
2 6 4 1 3 7 1 5 6 8 5 4 9 8 2 5 2 2 1 6 9 3 1 4 8 7 9 3 4 1
2 6 1 6 9 4 2 4 2 3 2 6 3 1 4 2 8 6 9 1 7 1 3 4 3 9 8 6 5 1
8 3 4 2 6 9 9 6 1 6 9 3 8 7 2 5 4 4 8 8 6 4 1 4 7 2 6 8 7 5
6 3 2 6 4 4 6 8 4 5 4 6 8 9 7 3 6 8 6 5 4 9 2 5 3 5 4 7 3 5
4 9 5 3 8 1 8 2 2 6 2 6 6 1 5 2 4 2 9 4 9 7 6 1 5 1 4 1 8 8

C

アルツハイマー病評価尺度(ADAS-cog)の施行と採点のための規格統一

資格認定に関する問題

氏名 _____ 所属 _____ 日付 _____

結果受領 Email アドレス _____

次の文が正しいか間違っているか、選択肢の左にある線上に「○」あるいは「×」を記して、表して下さい。

- _____ 1. ADAS 検査では、被験者が検査に答えるのが遅ければ点数が減り、早ければ点数が増える。
- _____ 2. ADAS 検査の認知下位検査項目では促しや試行が何回まで許容されるかについて、それぞれの指針が定めてある。
- _____ 3. 単語再生課題の単語はそれぞれ2 秒間提示されることになっている。
- _____ 4. 単語再認課題の最初の2 項目の後は、検者は、教示を反復あるいは言い換えた回数を記録すること。
- _____ 5. 見当識の項目で得点するためには、被験者は正確な月と年を答えなければならない。しかし、場所については、部分的に答えられれば得点できる。
- _____ 6. 検者は、被験者がその課題を行うことができないと思ったとしても、すべてのADAS 項目を施行すべきである。

次の質問への最良の解答を選び、選択肢の左側にある線上に×印をつけてください。

7. 被験者の「話し言葉の能力」を評価するには、次の特徴のうちどれを考慮に入れますか？

_____ a) 被験者が試験中に表出した「話し言葉」の質（すなわち、明瞭性や他人に理解されることについての困難さ）。

_____ b) 被験者が試験中に表出した「話し言葉」の分量

_____ c) 被験者が言語部分の試験中に表出した「話し言葉」

_____ d) テスト中に明らかになった喚語困難

8. 被験者が小指の隣の指の名前を言うように求められている時、次の反応のうち正しくないものはどれですか？

_____ a) 紅差し指

_____ b) お姉さん指

_____ c) 薬指

_____ d) 指輪指

9. ADAS項目の施行の正しい順序はどれですか？

_____ a) 全ての言語課題(すなわち、単語再生、呼称、命令及び単語再認)を始めに行い、その後に行う課題、見当識を続け、検者の評価で終わる。

_____ b) ADAS検査の認知項目は、検者が各被験者により好ましいと考えた順序で施行してもよい。

_____ c) ADAS検査の認知項目は、検査に記載されている順序で常に行われなければならない。

_____ d) 行為検査は最初に施行され、それに言語項目、見当識及び検者の評価が続く。

10. 次のうち被験者の言語理解では評価されないものはどれか

_____ a) 被験者が自由会話中にどのくらいよく話し言葉を理解できるか？

_____ b) 被験者が、検査中に話し言葉をどのくらいよく理解できるか？

_____ c) 該当する場合、被験者が、非認知機能項目の施行中に話し言葉をどのくらいよく理解できるか？

_____ d) 被験者が、命令課題（すなわちADAS項目#2）をどのくらいよく理解できるか？

11. 命令課題で、次の文のうちのどれが誤りですか？

_____ a) それぞれの命令は、一度だけ読まれるべきである。

_____ b) もし、被験者がはじめの試行で誤った場合、検者は命令の全体をもう一度読むこと。

_____ c) すべての命令は、すべての被験者に対して行われるべきである。

_____ d) 命令の一部でもできない場合、命令全体ができないこととなる。

12. 観念運動行為の項目で、次の文のうちのどれが正しいですか？

_____ a) 検者は教示の各段階を一つ一つ与え、次の教示を与える前に各段階を被験者が終るのを待つべきである。

_____ b) もし、被験者が観念行為課題の、一部分でも失敗した場合、課題全体に失敗したことになる。

_____ c) 観念行為課題のすべての教示を、はじめに言った後では、課題の各構成要素につき1回だけ追加の教示を与えてもよい。

_____ d) 被験者の現在の住所は封筒に現れていなければならない。住所には名前、町、市、および県を含まなければならない。

最も正しい答えを×を付けて示して下さい。

13. ADAS-cogを施行する前に(--?--)について話すことで被験者の気持ちを落ち着かせることになる。
また検者は、同時に、示された自発語を用いて被験者の話し言葉、言語理解および喚語困難を評価する。

- _____ a) 天気
- _____ b) 病院への移動
- _____ c) 被験者の朝食
- _____ d) a) ~ c) のすべて

14. 喚語困難を評価するためには、検者は、被験者が(--?--)中に言おうとしていた単語を見出すのに困難があるかどうか判断しなければならない。

- _____ a) 自発話
- _____ b) 迂回操作と同意語探し
- _____ c) 手指および物品の呼称課題
- _____ d) 単語再生の刺激語の音読

15. (--?--)に関する検査用教示の記憶間違いが見られた場合は都度記録をし、テスト教示を思い出す被験者の能力を評価するために使用する。

- _____ a) 単語再認のみ (項目8)
- _____ b) すべての言語項目 (項目1, 2, 4, 5 と8)
- _____ c) すべての非言語項目 (項目3, 6)
- _____ d) 単語再生と単語再認 (項目1, 4, 8)

適切なすべての反応を選び、それらの左側の線の上に×印を付けなさい。

16. ADAS の認知項目の施行中に、次の句のうちどれが中性フィードバックとなり、使用されることがありますか？

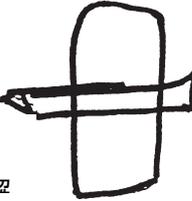
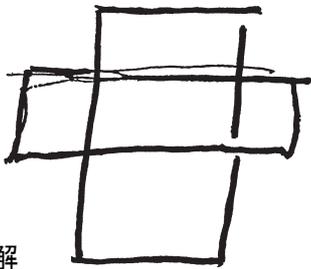
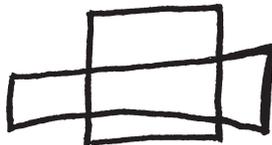
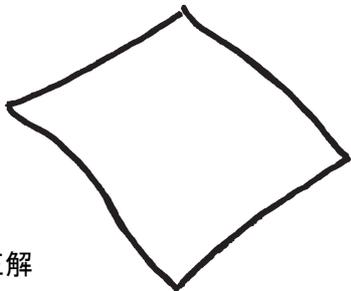
_____ a) いいですよ。

_____ b) よくやっていますよ。

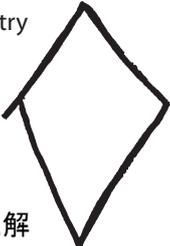
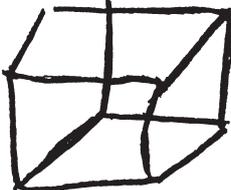
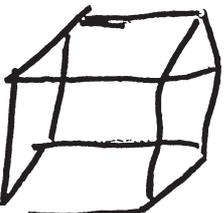
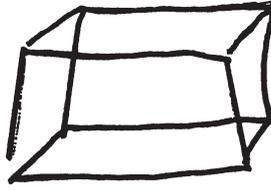
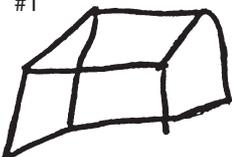
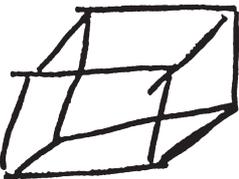
_____ c) もっとがんばって。

_____ d) がんばっていますね。いいですよ。

17. 以下のそれぞれの図形描画の例が正答、もしくは誤答かどうかを×を付けて示して下さい。

<p>Figure 1</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> 	<p>Figure 2</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> 
<p>Figure 3</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> 	<p>Figure 4</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> 
<p>Figure 5</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> 	<p>Figure 6</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> 
<p>Figure 7</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> <p>fail</p> 	<p>Figure 8</p> <p><input type="checkbox"/> 正解</p> <p><input type="checkbox"/> 不正解</p> <p>fail</p> 

17. (続き) 以下のそれぞれの図形描画の例が正答, もしくは誤答かどうかを×を付けて示して下さい.

<p>Figure 9</p> <p>1rst try  2nd try </p> <p>___ 正解 ___ 不正解</p>	<p>Figure 10</p> <p></p> <p>___ 正解 ___ 不正解</p>
<p>Figure 11</p> <p></p> <p>___ 正解 ___ 不正解</p>	<p>Figure 12</p> <p></p> <p>___ 正解 ___ 不正解</p>
<p>Figure 13</p> <p></p> <p>___ 正解 ___ 不正解</p>	<p>Figure 14</p> <p>#1 </p> <p>___ 正解 ___ 不正解</p> <p>#2 </p>

PACC ワークシート

Worksheet (Screening)
PACC

参加者ID : _____

前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法 Preclinical Alzheimer Cognitive Composite

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

PACC : 1/5 コンポーネント

論理的記憶I - 即時再生 Wechsler Memory Scale - Logical Memory Test

PACCの音声レコーダーのRECライトが点灯していることを確認した。

本評価は、必ず認定を受けたPACC評価者が実施してください。

注：すべての採点および実施ルールは、手順マニュアルで見ることができます。

開始時刻 : _____ [時分] 24 時間制を使用。

指示

次の様に言う。「これから私は、数行からなる短い話をあなたに読み上げます。よく聞いて、私が読んだ通りに記憶するように努めてください。その際、できるだけ同じ言葉であなたが覚えられるようにしてください。私が読み終わった後、私があなたに読み上げたすべてを私に話してもらいたいと思います。確信が持てない場合でも、あなたが記憶できたすべてを私に話してください。よろしいですか？」

以下の話を読む：

佐藤 / 一郎さんが / 夜 / 多摩川 / 河口の / 道路を / 10 トン / トラックに /

卵を積んで / 横浜に向けて / 走っていると / 車の車軸が / 折れた。 / 車は横滑りして / 道路をはずれ /

溝にはまった。 / 彼は計器盤の方に / 投げ出され / くらくらとした。 / ほかに行き交う車はなく /

助けが来るとは思えなかった。 / ちょうどそのとき、車の無線機が / 鳴った。 / 彼はすぐに答え /

「こちら2号車、助けてくれ」と言った。 /

指示

読み終わったら、次の様に言う。「今、私はあなたに何と読み上げましたか？ すべてを私に話してください。では最初から始めてください。」

このフォームの上部にある文章の行間に、被験者の回答を記録する。記録を簡略化するために、その通りに伝えられた各部分に下線を引き、その通りに伝えられていない部分を（文章の上に）書き足す。

「他にはありますか？」と催促することで、被験者が情報を追加することを常に可能にさせる。

被験者が話をそれ以上思い出せないように見えたなら、次の様に言う。「後ほど、あなたにこの話をもう一度私に話していただけるようお願いをします。ですから、それを忘れないようにしてください。」

即時再生の合計スコア : _____

注： 論理的記憶II - 遅延再生は、PACCを構成する別の検査（数符号化課題、MMSE、FCSRT）が完了した後
に実施する必要がある（約20～30分）。

出典：ウエクスラー記憶検査、改訂版（WMS-R） Copyright © 1945, 1974年、1987年に更新 renewed 1974, 1987. Copyright © 2008 NCS Pearson, Inc.
承諾を得て複製しています。無断複写・転載を禁じます。代用の物語は臨床神経心理学者、Morris et al によるものです。1997:11(4):370-374



J-TRC Onsite study

1

Version 03.10
Version Date 08/25/2020

参加者ID : _____

前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法
Preclinical Alzheimer Cognitive Composite

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

PACC : 2/5 コンポーネント

数字符号化課題 (DSST)

Wechsler Adult Intelligence Scale-Revised-
Digit Symbol Substitution Test

本評価は、必ず認定を受けた PACC 評価者が実施してください。

注 : すべての採点および実施ルールは、手順マニュアルで見ることができます。

開始時刻 : _____ [時分] 24 時間制を使用。

指示

被験者の前にワークシートを置きます。検査項目の上の手掛かりを指して、次のように言います。「これらの四角を見てください。それぞれが上には番号を、下には特別な記号を持っていることに注目してください。それぞれの番号はそれ自体の記号を持っています」 1番とその記号を差し、2番とその記号を指します。

例題を指して、次のように言います。「さて、ここを見てください。上部の四角に数が記されていますが、下の四角は空白となっています。あなたに、それぞれの空の四角に入るべき記号を入れて頂きます。このように」最初の例題を指して、次のように言います。「ここに6があります」次に、手掛かりの中の6とその記号を指して、次のように言います。「6はこの記号を持つため、私はこのように四角の中にそれを入れます」その例の中にある6の下に記号を記入します。次の2つの例題で繰り返します。

最初の3つの例題に印を付けた後で、最後の例題の後の太線を指して、次のように言います。「では、この太線まで四角の中に記入してください」被験者に残りの4つの例題に記入してもらいます。

被験者が例題で誤った場合は、すぐに誤りを修正させて、手掛かりの使用を見直させます。3つの例題が正しく記入されるまで、手助けを続けます(必要な場合)。被験者がはっきりと課題を理解するまで、検査に進まないでください。被験者が例題に正しく記入したら、「その通りです」や「正解です」と言って励まします。または例題を終えた場合は、次のように言います。「よくできました。これで、やり方が理解できましたね」

被験者が例題を終了した際に、次のように言います。「私が“始め”と言ったら、あなたはそれらの残りをやってください。ここから始めて[最初の検査項目を指す]、1つもとばすことなく、順々にできるだけ多くの四角に記入してください。私が“止め”と言うまで、作業を続けてください。間違えないよう、できるだけ速く作業してください」

最初の行を指してサツとなぞりながら、次のように言います。「この行を終えたら、こちらに進みます」最初の検査項目を指して、次のように言います。「始め」時間計測を開始します。

被験者がある項目を抜かした場合や1つの種類のみ(例:1のもののみ)を実施し始めた場合は、次のように言います。「順番に行ってください。とばさないでください」最初のとばした項目を指して、次のように言います。「これを次に行ってください」「止め」の指示があるまで続けることを被験者に思い出させること(必要な場合)を除いて、それ以上の手助けは与えないでください。

検査に90秒間をあててください。

90秒の終わりに、次のように言います。「止め」

数字符号化課題の得点 : _____

Wechsler, David Wechsler Adult Intelligence Scale Revised Manual (ウェクスラー式成人用知能検査マニュアル改訂版) The Psychological Corporation, Harcourt, Brace, Jovanovich, Inc. 1981

参加者ID : _____

前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法
Preclinical Alzheimer Cognitive Composite

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

PACC : 2/5 コンポーネント
数数字号化課題 (DSST)

Wechsler Adult Intelligence Scale-Revised-
Digit Symbol Substitution Test

得点 : _____

数数字号化課題バージョン SC

1	2	3	4	5	6	7	8	9
(÷	⊥	┌	→	>	+)	÷

例

6	8	3	9	5	1	4	8	2	7	6	9	3	5
8	3	1	9	2	5	6	4	3	7	2	9	8	1
4	7	6	5	9	1	2	4	7	2	5	6	9	5
8	6	4	3	1	7	8	3	1	3	9	6	3	9
7	5	1	4	2	8	7	2	8	5	6	4	7	6
4	1	3	2	8	1	7	9	2	5	3	4	8	6
5	9	8	1	9	5	1	4	2	6	9	8	7	3

参加者ID : _____

前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法
Preclinical Alzheimer Cognitive Composite

PACC : コンポーネント4/5

自由想起及び手掛りによる選択的想起検査 (FCSRT)

Free and Cued Selective Reminding Test (FCSRT)

データ記録担当者

イニシャル : _____

日付 : _____

干渉 : 施行1の自由再生の前に、「これから100から3ずつ逆に引いていって下さい」という。被験者に20秒間数えてもらう。

自由再生 : 次の様に言う。「どのような順番でも良いですから思い出せる物を全ておっしゃって下さい。」

90秒間自由再生の時間を与える。15秒間続けて何も思い出すことが出来なければ中止する。採点用紙の2枚目の表に自由再生出来た項目についてFのボックスにチェックをつける。自由再生できなかったものだけ手掛りによる再生に移行する。

手掛りによる再生 : (必要であれば施行する) 次の様に言う。「(カテゴリーの手掛り)は何でしたか?」

それぞれの手掛りの再生に10秒まで与える。採点用紙の2枚目の表に手掛りによって再生できた項目についてCのボックスにチェックをつける。

もし被験者がカテゴリーの手掛りから正しく再生できない場合、次の様に言う。「(カテゴリーの手掛り)は(物)でした」そして、SR(選択的想起)のボックスにチェックを付ける。そして手掛りによる再生が必要な次の項目へと移動する。選択的想起による手掛り再生が終わったら施行2へと移行する。

施行2 : 干渉, 自由再生, 手掛り再生, 選択的想起を繰り返す。

施行3 : 干渉, 自由再生, 手掛り再生を繰り返す。施行3では選択的想起を施行する必要はない。

カテゴリーの手掛り	物	施行1			施行2			施行3		物
		F	C	SR	F	C	SR	F	C	
花	チューリップ									チューリップ
魚	鮫(さめ)									鮫(さめ)
ゲーム	トランプ									トランプ
地形	火山(かざん)									火山(かざん)
お正月の飾り	門松(かどまつ)									門松(かどまつ)
船の種類	ボート									ボート
洗面用具	剃刀(かみそり)									剃刀(かみそり)
物を留めておく物	クリップ									クリップ
おもちゃ	風船(ふうせん)									風船(ふうせん)
軽い食事	ドーナツ									ドーナツ
車の一部分	ハンドル									ハンドル
座るための物	ベンチ									ベンチ
病院にある物	車椅子(くるまいす)									車椅子(くるまいす)
物を測るのに使う物	定規(じょうぎ、ものさし)									定規(じょうぎ、ものさし)
物を見るのに使う物	望遠鏡(ぼうえんきょう)									望遠鏡(ぼうえんきょう)
赤ちゃんが使う物	おしゃぶり									おしゃぶり
	自由再生の合計									
	手掛り再生の合計									

評価者は試験施行後に録音した音声を確認しましたか? はい いいえ | 評価者のイニシャル : _____

参加者ID : _____

前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法
Preclinical Alzheimer Cognitive Composite

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

PACC : コンポーネント4/5
自由想起及び手掛りによる選択的想起検査 (FCSRT)
Free and Cued Selective Reminding Test (FCSRT)

本評価は、必ず認定を受けたPACC評価者が実施してください。

注 : すべての採点および実施ルールは、手順マニュアルで見ることができます。

開始時刻 : _____ [時分] 24 時間制を使用。

指示

次の様に言う。「これから、あなたがいくつかの一般的な物の名前をどのくらい記憶できるか評価させていただきます。まず、覚えて頂きたい16個の物の絵をお見せします。それぞれの物は異なるカテゴリーに分類されます。たとえば、「読み物の種類」はカテゴリーの一つです。あなたには4つの物を同時にお見せして、どれがどのカテゴリーに入るかを答えて頂きます。そして、私がカテゴリーを申し上げたら、その物の名前をすぐに思い出して頂きます。

その後、私がお見せした物の名前をすべて思い出して頂く様をお願いします。あなたがより多くの物の名前を思い出すように、あなたが思い出せなかった物の名前のカテゴリーをヒントとしてお教えします。あなたは物の名前を思い出すチャンスが3回あります。

制御された学習

学習用紙1を被験者の前に置き、次の様に言う。「この学習用紙には4つの絵が描かれています。私がカテゴリー名を言ったら、そのカテゴリーに属する物を指さして、その名称を言って下さい。(カテゴリーの手掛かり)を指差してその名前を言って下さい。」下の採点用紙の表に示された順番でそれぞれのカテゴリーの手掛かりについて施行する。正しく出来た物について「指さし」と「呼称」にチェックをつける。

学習用紙1を取り除き、次の様に言う。「私がカテゴリーをあなたにお伝えしたら、先ほどお見せしたもので、それに入る物の名前を言って下さい。(カテゴリーの手掛かり)は何でしたか? それぞれのカテゴリーの手掛かりについて下の採点用紙の表の順番で施行する。正しく思い出せたものについて「即時手掛かり再生」にチェックを付ける。

もし被験者が手掛かりに対するもの名前を思い出せない場合、学習用紙を再び示して不正解だった項目だけについて次の様に言う。「(カテゴリーの手掛かり)を指差してその名前を言って下さい」そして、用紙を取り除き、不正解だった項目について次の様に言う。「(カテゴリーの手掛かり)は何でしたか?」

学習用紙2、3、4についても【制御された学習】を繰り返してください。

	カテゴリーの手掛かり	物	指さし	呼称	即時手掛かり再生
1 学習用紙 採点表	花	チューリップ			
	魚	鮫(さめ)			
	ゲーム	トランプ			
	地形	火山(かざん)			
2 学習用紙 採点表	お正月の飾り	門松(かどまつ)			
	船の種類	ボート			
	洗面用具	剃刀(かみそり)			
	物を留めて置く物	クリップ			
3 学習用紙 採点表	おもちゃ	風船(ふうせん)			
	軽い食事	ドーナツ			
	車の一部分	ハンドル			
	座るための物	ベンチ			
4 学習用紙 採点表	病院にある物	車椅子(くるまいす)			
	物を測るのに使う物	定規(じょうぎ、ものさし)			
	物を見るのに使う物	望遠鏡(ぼうえんきょう)			
	赤ちゃんが使う物	おしゃぶり			

前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法
Preclinical Alzheimer Cognitive Composite

PACC : 5/5 コンポーネント

論理的記憶II - 遅延再生 Wechsler Memory Scale - Logical Memory Test

本評価は、必ず認定を受けた PACC 評価者が実施してください。

注： すべての採点および実施ルールは、手順マニュアルで見ることができます。

注： 論理的記憶II - 遅延再生は、PACC を構成する別の検査（数字符号化課題、MMSE、FCSRT）が完了した後
に実施する必要がある（約 20～30 分）。

開始時刻 : _____ [時分] 24 時間制を使用。

指示

次の様に言う。「数分前に私があなたに読み上げた短い話を覚えていますか。では、その話をもう一度私に話してもら
いたいと思います。すべてを私に話してください。では最初から始めてください。」

このフォームの下部にある文章の行間に、被験者の話を記録する。記録を簡略化するために、その通りに伝えられた各
部分に下線を引き、その通りに伝えられていない部分を（文章の上に）書き足す。

被験者が話を思い出せない場合は、次のようなヒントを与えてもよい。次の様に言う。「それは、道路でトラブルに遭遇
した男性についての話です。」ヒントを与えたかどうかをこのフォームに書き留め、その項目には点数を与えない。

被験者が再生したことを下に記録する。

佐藤 / 一郎さんが / 夜 / 多摩川 / 河口の / 道路を / 10 トン / トラックに /

卵を積んで / 横浜に向けて / 走っていると / 車の車軸が / 折れた。 / 車は横滑りして / 道路をはずれ /

溝にはまった。 / 彼は計器盤の方に / 投げ出され / くらくらとした。 / ほかに行き交う車はなく /

助けが来るとは思えなかった。 / ちょうどそのとき、車の無線機が / 鳴った。 / 彼はすぐに答え /

「こちら2号車、助けてくれ」と言った。 /

指示

被験者がその話を再生し終えた後に、「ほかにありますか?」と促す。

遅延再生の合計スコア : _____

ヒントを与えたか? _____はい _____いいえ

評価者は試験施行後に録音した音声を確認しましたか? _____はい _____いいえ 評価者のイニシャル : _____

出典：ウエクスラー記憶検査、改訂版（WMS-R）Copyright © 1945, 1974 年, 1987 年に更新 renewed 1974, 1987 Copyright © 2008 NCS Pearson, Inc.
承諾を得て複製しています。無断複製・転載を禁じます。代用の物語は臨床神経心理学者、Morris et al によるものです。1997-11(4) 370-374

Frontal Assessment Battery (FAB)

FTLD-J No.()

類似性	◇概念化	3	3つとも正答
	「次の2つは、どのような点が似ていますか？」 ①バナナとオレンジ(果物) ②机と椅子(家具) ③チューリップとバラとヒナギク(花)	2	2つ正答
		1	1つ正答
	①のみヒント可:完全な間違いの場合や「皮がある」など部分的な間違いの場合は「バナナとオレンジはどちらも・・・」とヒントを出す。②③はヒントなし	0	正答なし
語の流暢性	◇柔軟性	3	10語以上
	「か」で始まる単語をできるだけたくさん行ってください。ただし、人の名前や固有名詞は除きます。「制限時間は60秒。最初の5秒間反応がなかったら「例えば、紙」とヒントを出す。さらに10秒間黙っていたら「か」で始まる単語なら何でもいいですから」と刺激する。	2	6-9語
	※同じ単語の繰り返しや変形(傘/傘の柄など)、人の名前、固有名詞は正答としない。※学習効果を防ぐため、ACE-Rの結果を利用して下さい。	1	3-5語
		0	2語以下
運動系列	◇運動プログラミング	3	被検者独りで、正しい系列を6回連続してできる
	「私がすることをよく見ておいてください」 検者は左手で Luria の系列「拳 fist-刀 edge-掌 palm」を3回実施する。 「では、右手で同じことをしてください。はじめは私と一緒に、次は独りでやってみてください。」と言う。	2	被検者独りで正しい系列を少なくとも3回連続してできる
		1	被検者独りでできないが検者と一緒に正しい系列を3回連続してできる
		0	検者と一緒でも正しい系列を3回連続してできない
葛藤指示	◇干渉刺激に対する感受性	3	間違いなく可能
	「私が1回叩いたら、2回叩いてください」 被検者が指示を理解したことを確かめてから、次の系列を試行する:1-1-1 次は、「私が2回叩いたら、1回叩いてください」被検者が指示を理解したことを確かめてから、次の系列を試行する:2-2-2 そして、つぎの系列を実施する 1-1-2-1-2-2-2-1-1-2	2	1,2回の間違いで可能
		1	3回以上の間違い
		0	被検者が4回連続して検者と同じように叩く
G o / N o / G o	◇抑制コントロール	3	間違いなく可能
	「私が1回叩いたら、1回叩いてください」 被検者が指示を理解したことを確かめてから、次の系列を試行する:1-1-1 次は、「私が2回叩いたら、叩かないでください」 被検者が指示を理解したことを確かめてから、次の系列を試行する:2-2-2- そして、つぎの系列を実施する 1-1-2-1-2-2-2-1-1-2	2	1,2回の間違いで可能
		1	3回以上の間違い
		0	被検者が4回連続して検者と同じように叩く
把握行動	◇環境に対する被影響性	3	被検者は検者の手を握らない
	「私の手を握らないでください」 被検者に両手の手掌面を上に向けて膝の上に置くよう指示する。検者は何も言わないか、あるいは被検者の方を見ないで、両手を被検者の手の近くに持っていて両手の手掌面に触れる。そして、被検者が自発的に検者の手を握るかどうかを見る。もし、被検者が検者の手を握ったら、「今度は、私の手を握らないでください」と言って、もう一度繰り返す。	2	被検者は戸惑って、何をすればいいのか尋ねてくる
		1	被検者は戸惑うことなく、検者の手を握る
		0	被検者は握らなくともいいと言われた後でも検者の手を握る



J-TRC Study
PACC マニュアル

前臨床アルツハイマー病
認知機能複合評価法 (ADCS-PACC)

J-TRC 研究事務局

版 番 号	第 1 版
作 成 年 月 日	2020 年 7 月 9 日

目次

CHAPTER 1	1
CHAPTER 2	1
2.1 PACC の実施	2
2.1.1 PACC の記録	3
2.2 1 番目:論理的記憶 IA—即時再生	3
2.2.1 所要時間	3
2.2.2 必要な資料	3
2.2.3 施行手順	3
2.2.4 採点	4
2.3 2 番目:WAIS-R DIGIT SYMBOL SUBSTITUTION TEST	4
2.3.1 所要時間	4
2.3.2 必要な資料	4
2.3.3 施行手順	5
2.3.4 採点	7
2.4 3 番目:ミニメンタルステート検査(MMSE)	7
2.4.1 所要時間	7
2.4.2 必要な資料	7
2.4.3 施行手順	8
2.4.3.1 見当識	8
2.4.3.2 記銘(即時再生)	8
2.4.3.3 注意	8
2.4.3.4 再生(遅延再生)	9
2.4.3.5 言語	9
2.4.3.6 描画	10
2.4.4 採点	10
2.5 4 番目:Free and Cued Selective Reminding Test	11
2.5.1 所要時間	11
2.5.2 必要な資料	11
2.5.3 施行手順	11
2.5.3.1 誘導学習-検査期	11
2.5.3.2 記憶検査	13



2.5.4 採点	14
2.5.5 FREE AND CUED SELECTIVE REMINDING TEST (FCSRT)の流れ.....	15
2.6 5 番目:論理的記憶 IIA—遅延再生.....	16
2.6.1 所要時間.....	16
2.6.2 必要な資料.....	16
2.6.3 施行手順.....	16
2.6.4 採点	17

CHAPTER 1

一般指針

ばらつきを抑えるため、同一の被験者に対して、認知機能検査を同じ時刻に、同じ場所で、同じ評価者が実施するスケジュールを設定するように極力努めてください。また、検査は気を散らすものができるだけ少ない静かな場所で実施します。

一貫性のある検査の施行に努めます。できるだけ一貫性のある指示を与えてください。

神経心理検査実施に関する詳細は、Procedures Manual(手順マニュアル)の

「Assessments and Procedures(評価と手順)」の章もご参照ください。

CHAPTER 2

ADCS—前臨床アルツハイマー病認知機能複合評価法 (ADCS-PACC)

ADCS-PACCは認知機能複合評価法で、エピソード記憶に重点が置かれていますが、時間制限を設けた遂行機能検査や総合的な検査も含まれています。以下の評価法で構成されています。

➤ Free and Cued Selective Reminding Test (FCSRT) の合計再生スコア

Free and Cued Selective Reminding Test (FCSRT) (Grober 2009, Grober et al. 2008) は、16物品の単語記憶能力を評価する学習・記憶結合評価法です。覚える物品は、まず、コード化や検索を容易にするために意味的に想起させる統一学習手順を使って、視覚的に示します(4枚の刺激カードにそれぞれ4つの物品が書かれています)。各刺激カードに書かれた4つの物品の即時手掛かり再生は全16物品を想起した直後に誘導しますが、各検査で想起されなかった物品を選択的に想起させます。各想起検査の前に、関連しない課題(100から3を引いた数を順に言う、など)を20秒間行います。関心対象となる指標は、3施行全てで想起された単語[自由再生(free recall) + 手掛かり再生(cued recall)]の合計数です(最大48)。

➤ Wechsler Memory Scaleの論理的記憶IIa検査の遅延再生スコア

論理的記憶検査 IおよびII(Delayed Paragraph Recall)は、Wechsler Memory Scale-



Revised (WMS-R) (Wechsler 1987)のエピソード記憶評価法を改良したものです。この改良版では、25の要素から構成される短い話を読み上げ、その直後と約30分後に対象に自由に想起してもらいます。話に含まれていた情報のうち、直後(最高スコア25)と30分後(最高スコア25)に想起された情報の総数を記録します。本複合評価法では、遅延再生スコア(0~25)を使用します。

➤ Wechsler Adult Intelligence Scale-RevisedのDigit-Symbol Substitution Test
Digit-Symbol Substitution Test(Wechsler 1981)は、精神運動機能を評価する筆記検査です。この検査では、小さな空欄98個が7列に書かれ、各空欄の真上に9個の数字(1~9)のいずれかが無作為に印字された用紙を使用します。「凡例」は空欄の列の上に記載されています。「凡例」は、数字の1~9となじみのない記号が対になっています。初めの7個は、デモンストレーションと練習用の空欄です。被験者は、簡単な練習に続いて、残りの91の空欄に、凡例を使い、数と対になっている記号を記入しなければなりません(各列を左から右に進む)。被験者は90秒間でできるだけ速く作業しなければなりません。関心対象となる指標は、制限時間内に正しく記入された空欄の数です(最高スコア91)。本検査は、注意力、精神運動速度、複雑な読取、視覚追跡、即時記憶を含むいくつもの認知機能が関与します。

➤ ミニメンタルステート検査(MMSE)の総スコア
MMSE(Folstein et al. 1975)は、簡易な認知機能評価法です。MMSEスケールは、見当識、記憶、注意力、言語、視覚構成を評価します。MMSEでは、正確に記入された物品の数をスコアとし、スコアが低いほど能力が低く、認知機能が低下していることを意味します。総スコアの範囲は、0(不良)から30(満点、正常)までです。

2.1 PACC の実施

【重要】 PACCはトレーニングを受けたPACC評価者が実施しなければなりません。

PACCのトレーニングに関する情報は、Procedures Manualを参照のこと。
PACCに含まれる評価法の順序が重要であり、下述の順序に従わなければなりません。

1. Wechsler Memory Scale 論理的記憶—即時再生
2. Wechsler-Revised Digit-Symbol Substitution Test(90秒版)
3. ミニメンタルステート検査 (MMSE)
4. Free and Cued Selective Reminding Test
5. Wechsler Memory Scale 論理的記憶—遅延再生



2.1.1 PACC の記録

PACCの実施内容は、質の高いレビューを行うため、法規に従って、音声とワークシートを記録する必要があります。記録した音声とスキャンしたワークシートをEDCにアップロードします。アップロードの方法は、別途設けているeCRF Completion Guidelines に記載されています。

2.2 1 番目:論理的記憶 IA—即時再生

論理的記憶IAでは、被験者に短い話を聞かせ、直後にその話について記憶を頼りにできるだけ詳しく話してもらいます。

2.2.1 所要時間

5分間

2.2.2 必要な資料

➤ PACCワークシート

2.2.3 施行手順

次のように言います。

「これから私は、数行からなる短い話をあなたに読み上げます。よく聞いて、私が読んだとおりに記憶するように努めてください。その際、できるだけ同じ言葉であなたが覚えられるようにしてください。私が読み終わった後、私があなたに読み上げたすべてを私に話してもらいたいと思います。確信が持てない場合でも、あなたが記憶できたすべてを私に話してください。よろしいですか？」

被験者に話を読みます。続いてこう言います。

「今、私はあなたになんと読み上げましたか？すべてを私に話してください。では最初から始めてください。」

被験者の回答は話の行間にワークシートに直接記録します。



記録を簡略化するため、被験者が文字通りに再生した話の各单位又は単語に下線を引き、再生されたが、文字通りではない各单位を文章の上に記載します。
以下のような言葉で促すことで、被験者に情報を追加してよいことにします。

「他にはありますか？」

追加の「断片的な情報」があれば記録し、適切に採点します。
被験者が話についてこれ以上想起できないことがないように見えたら、次のように言います。

「後ほど、あなたにこの話をもう一度私に話していただけるようお願いをします。ですから、それを忘れないようにしてください。」

2.2.4 採点

節において斜線で区切られるフレーズや単語は、項目又は単位として扱い、正確に復唱された各項目を1点とします。正しく復唱された項目ごとに1点を付けます。許容可能で、得点に値する文字通りでない回答については、本マニュアルの付録にある論理的記憶採点ガイドを参照してください。

最高スコア=25

2.3 2 番目 : WAIS-R DIGIT SYMBOL SUBSTITUTION

TEST

WAIS-R Digit Symbol Substitution Testでは、速度、記憶、視覚走査を評価します。

2.3.1 所要時間

90秒間 ※WAIS-III・WAIS-IVとの違いに注意してください。

2.3.2 必要な資料

- PACCワークシート
- 鉛筆

2.3.3 施行手順

被験者の前にワークシートを置きます。検査項目の上部に記載されている凡例を指差し、こう言います。

「この欄を見てください。それぞれが上には番号を、下には特殊な記号を持っていることに注目してください。それぞれの番号はそれ自体の記号を持っています。」

1番とその記号を指差し、2番とその記号を指差します。例題を指差し、次のように言います。

「さて、ここを見てください。上部の四角に数字が書かれていますが、下の四角は空白となっています。あなたに、それぞれの空の四角に入るべき記号を入れていただきます。このように」

最初の例題の「6」を指差し、次のように言います。

「ここに6があります。」

凡例に記載されている「6」とそれに対応する記号を指差し、こう言います。

「6はこの記号を持つため、私はこのように四角の中にそれを記入します。」

例題で6の下に記号を記入します。次の2つの例題についても繰り返します。

最初の3つの例題に記号を記入したら、最後の例題の後にある太線を指差し、次のように言います。

「では、この太線のところまで四角の中に記入してください。」

被験者に残りの4つの例題に記入してもらいます。

もし被験者が例題で間違えたら、速やかに修正し、凡例の使い方を復習させます。3つの例題が正しく記入されるまで、(必要に応じて)手助けを続けます。被験者が課題を正しく理解するまで検査を進めてはいけません。

被験者が例題に正しく記入できたら、以下のように言って励まします。

「その通りです」または「できましたね」

もしくは、例題を終えたら、次のように言います。



「よくできました。これでもうやり方はわかりましたね。」

例題の練習中は、左利きの被験者が記号を記入する際に、凡例が完全に又は部分的に隠れていないかどうか注意します。もし隠れていたら、折り畳んで凡例の部分のみが見えるようにした別のワークシートを、被験者のワークシートの被験者から見て右隣に置いて、左手で隠れている凡例とそれ以外の凡例がつながるようにします。被験者には例題の記入や実際の検査で別々の凡例を使ってもらいます。

被験者が例題の記入を終えたら、こう言います。

「私が“始め”と言ったら、あなたはそれらの残りをやってください。ここから始めて[最初の検査項目を指差します]、1つも飛ばすことなく、順番にできるだけ多くの四角に記入してください。私が“やめ”というまで、作業を続けてください。間違えないように、できるだけ速く作業してください。」

一行目を指でなぞりながら、こう言います。

「この行が終わったら、こちらに進んでください。」

そして最初の検査項目を指差し、こう言います。

「始め」

時間の計測を開始します。

被験者がある項目を抜かした場合や、ある1つの種類のみ(例えば「1」のみ)を実施し始めた場合には、次のように言います。

「順番に行ってください。飛ばさないでください。」

最初の飛ばした項目を指差し、こう言います。

「これを次に行ってください。」

「やめ」の指示があるまで続けることを被験者に意識させる場合(必要に応じて)を除いて、それ以上の手助けは与えないでください。

検査の所要時間は90秒です。90秒が経過したら、こう言います。

「やめ」

2.3.4 採点

正しく記入された記号の総数を数えます。回答は、凡例にある記号としてはっきりと確認された場合、記入が不完全な場合（例えば「u」の代わりに「v」）、正しくない記号が自発的に訂正されている場合は、正解として採点します。順番通りに記入されなかった項目は得点となりません（例えば「1」のすべての項目に記号が記入されている）。記入済みの項目に挟まれた空白の欄は得点の対象になりません。一つの欄に複数の記号が書かれており、そのうちの一つが正しい場合は、得点の対象とします。

90秒の制限時間内に正しく記入された各項目に1点を与えます。例題はスコアに含まれないものとします。

とりうる最高スコア=91

2.4 3番目：ミニメンタルステート検査(MMSE)

ミニメンタルステート検査(MMSE)は、内科、精神科の両患者の認知機能を評価する簡易で実用的な手法として考案されました。いくつかの認知機能の非常に簡単に採点しやすい検査法です。 **本研究では日本文化科学社版MMSE-J記録用紙を用いますが、本研究固有の施行手順がありますので、このマニュアルをよく読んでから施行してください。**それぞれの項目ごとの施行手順は、記録用紙に記載に従ってください。

2.4.1 所要時間

10分間

2.4.2 必要な資料

- 日本文化科学社版 MMSE-J 記録用紙 **※PACCワークシートに含まれません。**
- 白紙2枚
- 鉛筆(又はペン)

2.4.3 施行手順

2.4.3.1 見当識

被験者に対して、ワークシートに記載されている項目1～10を一つずつ質問します。10項目のそれぞれについて該当する欄(正解、不正解)にチェックを入れ、空いたスペースに被験者の回答を文字通りに記録します。

季節に関しては、日本では春:3-5月、夏6-8月、秋:9-11月、冬:12-2月と定義されますが、季節の変わり目にある場合(新しい季節の1週間前や2週間後)、どちらの季節でも正解とします。年や季節の変わり目にある場合、「それは確かですか?」と問うことで正しい答えを導くこともできます。

病院(クリニック、場所)の名称を質問した場合、「医療センター」や「病院」のような一般名を除き、正しい名称を正解とします。施設に特有の正解として認められる場合もありますので(病院、国、市の名称など)、所属の施設に特有の回答を確認してください。

その他すべての項目では正確な答えが必要です。

2.4.3.2 記銘(即時再生)

3つの単語を、それぞれ1秒間ではっきり、ゆっくり言います。3つの単語をすべて言ったら、被験者にそれらを繰り返してもらいます。この初回の復唱でスコアを決定しますが(0～3、正解か不正解)、単語を正しく復唱できるようになるまで最大6回試行することができます。

被験者が3つの単語をすべて覚えるまで何回試行したか記録します。

2.4.3.3 注意

日本文化科学社版MMSE-Jの「注意と計算」課題では、シリアル7課題と逆唱課題が併記されていますが、本研究では逆唱課題のみを施行してください。

課題を読み上げたあと、被験者が復唱を求めたり、混乱している様子が見られたりしたら、指示を繰り返します。

被験者が最後に回答した実際の文字を回答欄に記録します。

被験者が「ズ、チ、カ」と言ったら、1文字目を「ズ」、2文字目を「チ」、3文字目を「カ」、4文字目と5文字目は「ー」と記録します。

被験者が「ズ、うーん何か分かりません、イ、カ」と言ったら、1文字目を「ズ」、2文字目を「ー」、3文字目を「イ」、4文字目を「カ」、5文字目を「ー」と記録します。



被験者がこの課題は「わかりません」と言ったか、実施しようとしていない場合、その旨を記載し、0点と記録します。

2.4.3.4 再生(遅延再生)

記銘課題から(2〜)3分経過したら、3つの単語の再生に戻ります。この3分間の間隔を意識して守るようにしてください。

単語ごとに該当する欄(正解、不正解)にチェックを入れます。

必要であれば、これらの3単語についてこう説明します。

「少し前に3つの単語を覚えておいてくださいと言いました。それらを今思い出すことはできますか？」

被験者が名前を想起できなかつたら、「不正解」として評価します。

注意課題まで終わった時点で3分が経過していない場合、MMSEの残りの非言語的課題(下記の★のついた課題、すなわち理解(25、26、27)、描画(30))を先に進め、記銘課題から必ず3分経過するようにします。

2.4.3.5 言語

物品ごとに該当する欄(正解、不正解)にチェックを入れます。

呼称(22番と23番)：

もし被験者が機能を言った場合、こう言います。

「そうですが、これは何と呼ばれていますか？」または「その名前は何ですか？」

腕時計と鉛筆の代わりに別の物品で置き換えないでください。

復唱(24番)：

検査は1回のみとします。

理解(25番、26番、27番)★：

被験者の前に白紙を1枚置き、指示をします。



被験者の求めがあればもう一度繰り返すことができますが、その際は命令の内容を全て復唱しなければなりません。被験者は紙を折り畳むのに両手を使ってよいものとします。

読字(28番):

被験者には、文書を読む(読み上げる)だけでなく、それに従うことも忘れないように意識してもらってください。

書字(29番):

被験者に鉛筆(又はペン)と白紙の紙を1枚差し出します。
自発的に書いてもらうことになっていますので、言った言葉を書き取らせてはいけません。被験者に自力で文章を作成するように促しますが、被験者が自発的に書くのが困難な様子であるときには、必要に応じて次のように言って導きます。

「天気に関する文を書いてください。」

被験者が検査者の指示と同じような文章を書いた場合(「文を書いてください」と書く)、あるいは挨拶のような定型文を書いた場合、違う文を書いてもらうようお願いします。
文章は主語と述語で構成され、意味が通じるものでなければなりません。文法や句読点を修正する必要はありません。

2.4.3.6 描画 ★

記録用紙に含まれている図形のページ(重なり合う五角形)を被験者に示します。
採点の際には、それぞれの五角形は5辺でなければならず、交差する部分は4辺の形を成していなければなりません。線の揺れや回転方向は無視します。書いたものを消すことは認めません。もし被験者が自分の描いたものに不満があるように見えたり、書き直すことを希望したりした場合、図形をもう一度描くことを認めます。この際、1番目の図形と2番目の図形に、はっきりとラベルします。良く描けた方を評価対象とします。

2.4.4 採点

30項目のそれぞれについて該当する欄(正解、不正解)にチェックを入れ、適宜、空いたスペースに被験者の逐語的回答を記録します。EDCに入力する際は、各課題ごとの小計点を記載します。

2.5 4 番目 : Free and Cued Selective Reminding Test

Free and Cued Selective Reminding Testは、カテゴリと関連する16単語を記憶する能力を評価する学習・記憶結合評価法です。単語は統一された学習方法を使って提示し、記憶は特定の想起手順を使って3回の施行で検査します。これらの記憶検査の間隔は20秒間です。

2.5.1 所要時間

15分間

2.5.2 必要な資料

- PACCワークシート
- Free and Cued Selective Reminding Test刺激カード冊子。バージョン固有の設問カード4枚が必要になります(各カードには物品の絵4枚が含まれています)。**AMEDプレクリニカル研究のFCSRT刺激カードを用いる場合、カードセットCを用います。**

2.5.3 施行手順

次のように言います。

「これから、あなたがいくつかの一般的な物の名前をどのくらい記憶できるか評価します。まず、覚えていただきたい16個の物の絵をお見せします。それぞれの物は異なるカテゴリに分類されます。例えば、「読み物の種類」はカテゴリの一つです。4つの物を同時にお見せしますので、どれがどのカテゴリに属するかを答えていただきます。そして、私がそれらのカテゴリを言ったら、そのカテゴリに属する物の名前をすぐに思い出していただきます。その後、私がお見せした物の名前をすべて思い出していただくようお願いいたします。あなたがより多くの物の名前を思い出せるように、思い出せなかった物の名前のカテゴリをヒントとしてお教えします。3回トライして、物を思い出していただきます。」

2.5.3.1 誘導学習-検査期

被験者の前に刺激カード1を置き、こう言います。

「このシートには4つの絵が描かれています。私がカテゴリ名を言ったら、そのカテゴリに属する物を指差して、その名前を教えてください。[カテゴリの手掛かり]を指差し、その名前を言っ



てください。」

ワークシートの表に書かれた順番でそれぞれのカテゴリ手掛かりについて実施します。正しく認識された物について「指さし」と「呼称」の欄にそれぞれチェックを入れます。刺激カード1を取り除き、そのカードの即時手がかり再生に進み、こう言います。

「私がカテゴリを言ったら、先ほどお見せた物の中で、そのカテゴリに属する物の名前を言ってください。[カテゴリ手掛かり]は何でしたか？」

ワークシートの表に書かれた順番でそれぞれのカテゴリ手掛かりについて実施します。正しく想起された物については「即時手掛かり再生」の欄にチェックを入れます。もし被験者が手掛かりに対する物の名前を思い出せない場合、すみやかに刺激カードを再び示して、不正解だった項目についてのみ、こう言います。

「[カテゴリ手掛かり]を指差して、その名前を言ってください。」

続いてそのカードを取り除いて、こう言います。

「[カテゴリ手掛かり]は何でしたか？」

残りの刺激カード2、3、4の誘導学習では、次のように言って指示を直ちに開始することができます。

「[カテゴリ手掛かり]を指差して、その名前を言ってください。」

そして、こう続けます。

(即時手掛かり再生に移行する際)「[カテゴリ手掛かり]は何でしたか？」。

すなわち、冒頭の説明を全て(「4枚の絵が描かれていて...」、「私がカテゴリを言ったら...」など)言う必要があるのは、最初の刺激カードのみです。

- もし被験者がワークシートに記載されていない名前を回答した場合、カテゴリの名称と物の名前を結び付ける標準的な訂正を行う必要があります。例えば、もし被験者がドミノを「サイコロ」と呼んだら、「ゲームはドミノです」といって訂正します。



- 手順を統一するため、たとえ被験者の回答が、絵に描かれた物の代替の名前として妥当であっても(例えば望遠鏡のことを「小型望遠鏡」、ハンドルのことを「ダッシュボード」、カヌーのことを「漕ぎ舟」、かみそりのことを「髭剃り」と言う)、又は当該国の特定地域のみで認知されている名称であっても[例えばガラガラ(rattle)のことを「rattler」と言う]、ワークシートに記載されている単語に訂正する必要があります。代替の名前を挙げた場合に訂正する際は、残りの検査が終了するまで、正しくない名前を挙げた場合と同じ手順を行う必要があります。つまり、誘導学習の即時手掛かり再生において正しくない名前が挙げられたら、その項目が含まれている刺激カードを見せ、その後の自由又は手掛かり再生で正確な名前が挙がらなかったら、手掛かりを提示および/または選択的想起を施行します。
- 被験者がワークシートに書かれている名前よりやや詳細な名前を挙げた場合(ベンチを「公園のベンチ」、ハンドルを「ハンドルとダッシュボード」と言うなど)、評価者は、「ハンドルで十分です」、「ベンチでいいです」と言って簡略化を助ける必要があります。標準的な訂正よりも簡略化した表現であることに注意してください。
- FCSRTのどの段階でも、評価者がカテゴリー名の手掛かりを出そうとして物の名前をうっかり言ってしまった場合、その旨をワークシートに書き留めて、検査者のミスとして「疑わしきは罰せず」の原則で、その物の再生について被験者に得点を与えます。

2.5.3.2 記憶検査

記憶検査の段階では、自由再生、手掛かり再生、選択的想起の3つの検査を行います。検査は20秒間の干渉課題で分かれています(100から3を繰り返して引く減算)。誘導学習の段階で全16物品を提示したら、以下のように進めていきます。

干渉: 施行1 自由再生の前にこう言います。

「それでは100から3ずつ逆に引いていってください。」

被験者に20秒間で引き算をしてもらいます。

自由再生: 次のように言います。

「どのような順番でも良いですから、思い出せる物を全ておっしゃってください。」



全物品の自由再生時間は90秒間とします。それ以上の正しい物品の名前が15秒間思い出されなかったら、中止します。自由に再生できた物品については、ワークシートの「F(自由再生)」の欄にチェックを入れます。自由に再生されなかった物品については、それぞれ手掛かり再生に進みます。

手掛かり再生: (必要に応じて)次のように言います。

「[カテゴリーの手掛かり]は何でしたか？」

各物品の手掛かり再生時間は最長10秒間とします。手掛かりを出して再生できた項目については、ワークシートの「C(手掛かり再生)」の欄にチェックを入れます。カテゴリーの手掛かりを出しても被験者が物を正しく再生できなかったら、こう言います。

「[カテゴリーの手掛かり]は[物]でした。」

そして「SR(選択的想起)」の欄にチェックを入れます。それから、手掛かり再生が必要な次の項目に進みます。手掛かり再生と必要に応じて選択的想起が終了したら、施行2に進みます。

施行2:

干渉、自由再生、手掛かり再生、選択的想起の手順を繰り返します。

施行3:

干渉、自由再生、手掛かり再生の手順を繰り返します。

施行3の終了時に選択的想起を行う必要はありません。

2.5.4 採点

施行1～3ごとに、手掛かりがなくても自由に再生された物の数を数えます。これがワークシート上の自由再生の合計となります。

次に、手掛かりを与えたら再生された物の数を数えます。これがワークシート上の手掛かり再生の合計となります。

各施行で被験者がとりうる点数の合計は16です(自由再生の合計と手掛かり再生の合計の和)。

とりうる3施行の最高合計スコア=48。

2.5.5 FREE AND CUED SELECTIVE REMINDING TEST (FCSRT)の流れ

検査の概略(冒頭の指示)を読み、刺激カード1を見えるように提示します。

このシートには4つの絵が描かれています。私がカテゴリー名を言ったら、そのカテゴリーに属する物を指差して、その名前を言ってください。 **誘導学習**

- [カテゴリーの手掛かり]を指差して、その名前を言ってください。(4つの物全てについて繰り返し、刺激カードを取り除きます)
- 私がカテゴリーを言ったら、先ほどお見せした物の中で、そのカテゴリーに属する物の名前を言ってください。[カテゴリーの手掛かり]は何でしたか？(4つの物全てについて繰り返します)

物が再生されなかった場合、速やかに刺激カードを見せて、こう言います。

- ・ [再生されなかった物のカテゴリーの手掛かり]を指差して、その名前を言ってください。

次いで、刺激カードは見えないように隠します。

- ・ [再生されなかった物のカテゴリーの手掛かり]は何でしたか？

残りの刺激カード2、3、4についても、簡略化した表現「[カテゴリーの手掛かり]を指差して、その名前を言ってください」や「[カテゴリーの手掛かり]は何でしたか？」を使って誘導学習手順を繰り返します。

これから100から3ずつ逆に引いていってください(20秒間)。

- どのような順番でも良いですから、思い出せる物を全ておっしゃってください。 **自由再生**
(最長90秒間。最後に正しい物を再生してから15秒を超える間が空いたら中止します)

自由に再生されなかった項目についてはこう言います。

- ・ [再生されなかった物のカテゴリーの手掛かり]は何でしたか？ **手掛かり再生**

手掛かりを出して再生されなかった項目についてはこう言います。

・ [再生されなかった物のカテゴリの手掛かり]は[物]でした。

選択的想起

これから100から3ずつ逆に引いていってください(20秒間)。
(自由再生、手掛かり再生、選択的想起の手順を繰り返します)

これから100から3ずつ逆に引いていってください(20秒間)。
(最後の施行では選択的想起の部分を省略して、自由再生、手掛かり再生の手順を繰り返します。)

2.6 5番目:論理的記憶 IIA—遅延再生

論理的記憶 IIA は、論理的記憶 IA—即時再生の続きです。

2.6.1 所要時間

5 分間

2.6.2 必要な資料

➤ PACC ワークシート

2.6.3 施行手順

このサブテストは、論理的記憶 IA—即時再生や他の PACC を構成する他の検査が終了してから施行します。**順番通り行くと、論理的記憶 IA—即時再生から約 20～30 分後に実施することになります。この間隔を意識するようにし、20 分経過していないときは軽い雑談を挟むなどして、間隔を調整してください。**

次のように言います。

「数分前に私が読んだ短い話を覚えていますか？これからあの内容を私に教えてください。全て教えてください、最初から始めてください。」

被験者が話を想起できなかつたら、手がかりを与えることができます。

次のように言います。



「その話は道路でトラブルに遭遇した男性に関するものでした。」

ワークシートに手がかりを出したかどうかを書き留めて、該当する項目には点数を与えないでください。被験者の回答は話の行間にワークシートに直接記録します。記録を簡略化するため、被験者が逐語的に繰り返す話の各单位又は単語に下線を引き、再生されたが、**文字通りではない**各单位を文章の上部に記載します。

以下のような言葉で促すことで、被験者に情報を追加してよいことにします。

「他にありますか？」

追加の「断片的な情報」があれば記録し、適切に採点します。

2.6.4 採点

節において斜線で区切られるフレーズや単語は、物品又は単位として扱い、正確に復唱された各項目を 1 点とします。正しく復唱された項目ごとに 1 点を付けます。許容可能で、得点に値する文字通りでない回答については、本マニュアルの付録にある論理的記憶採点ガイドを参照してください。

最高スコア=25

J-TRC 論理的記憶採点ガイド

Story Component	General Rule / Correct Response	Examples of Alternative 1 Point Responses	Examples of 0 Point Responses
佐藤	「佐藤」という語が必要	—	—
一郎さんが	「一郎」という語が必要	—	—
夜	日が暮れた後であることを表す表現があること	ある夜; 暗くなってから; 夕方; 昨夜	ある日; ある朝
多摩川	「多摩川」という語があること(どのような文脈でもよい)	多摩川に沿って; 多摩川で; 多摩川に行く途中; 多摩川の	隅田川
河口の	「河口」という語が必要	河口地域; 河口を	川岸; 低地; 平地; 平野; 中州
道路を	トラックが舗装してある道路を走っていたことを表す表現があること	道路を通って; 有料道路にそって; 高速道路で	泥道を; 通りを; 途中で
10トン	「10トン」という語が必要	—	半トン; 2トン; 大きい
トラックに	「トラック」という語が必要	トラックで; トラックを; トレーラートラックに	車; ワゴン; バン; トレーラー
卵を積んで	「卵」が積み荷の一部であることを示す表現とともに「卵」という語が必要	卵を載せて; 卵を運んで; 卵を運送して; 卵を配達して; 卵を輸送して; 積荷は卵でした	何か荷物を運んで; そして、彼は卵を持っていた
横浜に向けて	「横浜」という語があること(どのような文脈でもよい)	横浜からの途中; 横浜方面へ; 横浜に住んでいて、た	川崎へ
走っていると	佐藤さんがトラックの運転手であることを表す表現があること	運転して(いると); ハンドルを握って; 走っている途中; 走らせていると	トラックに乗っていると
車の車軸が	「車軸」という単語が必要	シャフト	トラックが; 車輪が; タイヤが; スプリングが
折れた	「折れた」ことを意味する語や句があること	ぼきんと折れた; 壊れた; ダメになった; 外れて	滑った; はまり込んだ
車は横滑りして	トラックが制御できなくなったことを示す表現があること	トラックは滑った; 車は方向を変えて; 車はスリップして; 車は道をそれて	(彼が)トラックを引っ張って; トラックは止まった; 彼がトラックを運転して; トラックはひっくり返った; 彼は衝突した; 彼は事故をおこし
道路をはずれ	トラックが道路をそれたことを表す表現があること	高速(道路)をはずれて; 道から落ちて; 道路を飛び出して; 道路脇に	道路を横切って; 高速道路で
溝にはまった	「溝」あるいはそれを表す言葉や句が必要	土手を下って; 溝の中へ; 穴にはまった; 溝に落ちてしまった; 側溝にはまってしまった; 溝に転落した; 溝につっこんだ	ぬかるみにはまった; 野原へ; 塚にぶつかって
彼は計器盤の方に	「計器盤」あるいは「計器」という語が必要	計器にドンとぶつかり; 計器盤に; 計器盤を見ていたために	フロントガラス(の方)へ; ハンドル(の方)へ; トラックの外へ

投げ出され	彼が無理に動かされたことを示す表現があること	ドンとぶつかり;ほうり上げられた;飛ばされたら;たたきつけられた;ぶつかり	倒れ;どすんと倒れる
くらくらとした	ぎくりとしたり, 気が動転したりしているが, けがはないことを表す語や句があること	ふらふらになった;ショック状態だった;めまいがした;ふらふらとした	頭を打った;傷ついた;血が出た;気絶した;あざがついた;腕を折った;衝撃を受けた;けがはしなかった
ほかに行き交う車はなく	他の車が通らなかったということが述べられていること	車もトラックも来なかった;他には車は見えなかった;通る車はなくて;通りには車もなく;そこには車も通っておらず	あたりには誰もいなかった;明かりはなかった;誰も彼を助けるために止まってはくれなかった
助けが来るとは思えなかった	誰か助けに来るかどうかわからないことを表す語や句があること	そして, 彼は助けが来るとは思わなかった;助けを期待しなかった;誰も来ないと確信していた;助けが来そうもないと思った;まわりに助ける人がいなかった	助けを得る手段は何もなかった;何の助けも得られなかった;彼は運が悪かった;まわりに自動車修理場はなかった;彼は立ち往生したと思った
ちょうどそのとき, 車の無線機が	彼が無線(電信機, 機)を持っていることを示す表現があること	突然無線(機)が;その時, 無線(機)が;彼は無線(機)を持っていた;無線(機)で助けを呼んだ;途方に暮れていたところ無線(機)が	—
鳴った	音や声など何らかの音の信号を受け取ったことを表す語や句があること	(何かの音, あるいは誰かの声)聞こえた;誰かが言った;呼び出しを(受信した, 受けた);ついた;音がした;スイッチがはいった;ガーガー鳴った;ピーツという音がした;信号を出した;入った	光った;点滅した
彼はすぐに答え	声を出して彼が応答したことを意味する表現があること	彼は答えた;彼はすぐに応答し;2号車は答えた;彼は言った;(彼は)彼はマイクをつかんで言った;すぐに言った	無線が言った;誰かがすぐに答えた;彼はすぐにボタンを押した
「こちら2号車, 助けてくれ」と言った	「2号車」という語があること(どのような文脈でもよい)	2号車です;2号車を呼んでいます;こちら2号車;2号車ですか;2号車は応答した	こちら3号車;助けてくれ;こちら2号

GDS(Geriatric depression scale) BATON

BATON

GDS-15- J

老年期うつ検査-15-日本版 (GDS-15-J)	
MULNIAD ID:	MUL_ 施行日: 年 月 日 曜日
CUPAB ID:	CU_N_ 被検者氏名: 男 / 女
ADSAT ID:	SAT_N_ 検査者氏名:

はい いいえ	
1.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたは、あなたの人生に、ほぼ満足していますか？
2.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> これまでやってきたことや、興味があったことの多くをやめてしまいましたか？
3.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたは、あなたの人生は空しいと感じていますか？
4.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> しばしば、退屈になりますか？
5.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたは、たいてい、機嫌がよいですか？
6.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたに、何か悪いことが起ころうとしているのではないかと、心配ですか？
7.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> たいてい、幸せだと感じていますか？
8.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたは、しばしば無力であると感じていますか？
9.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 外出して新しいことをするよりも、自宅にいるほうが良いと思いますか？
10.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> たいていの人よりも、記憶が低下していると思いますか？
11.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 現在、生きていることは、素晴らしいことだと思いますか？
12.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたは、現在のありのままのあなたを、かなり価値がないと感じますか？
13.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたは、元気一杯ですか？
14.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> あなたの状況は絶望的だと、思いますか？
15.	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> たいていの方は、あなたより良い暮らしをしていると思いますか？

合計

GDS(Geriatric depression scale) J-TRC

Worksheet (Screening)
GDS

参加者ID : _____

老年用うつ尺度 Geriatric Depression Scale

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

開始時刻 : _____ 【時分】 24 時間制を使用。

それぞれの質問について、今日を含めた過去一週間の気持ちをもとに「はい」か「いいえ」で答えて下さい。

	はい	いいえ
1. あなたは、自分の人生に、基本的に満足していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 興味をもっていた活動などをやめたことがありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. あなたは自分の人生が無意味だと思えますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. よく退屈になりますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. ほとんどいつも、元気ですか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 何か悪いことがあなたに起こるのではないかと心配ですか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. たいいてい幸せに感じていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. どうしようもないという無力感を感じるがよくありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 家の外に出て新しいことをするよりも、家の中にいる方が好きですか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 他の人よりも、あなたは記憶に問題があると感じていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 今の自分が生きていることは素晴らしいことだと感じていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. あなたは、現在のありのままの自分を、あまり価値がないと感じますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. あなたは気力に溢れていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 自分の状況は絶望的だと思いますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15. 他の人はあなたより良い暮らしをしていると思えますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

STAI-6

Worksheet (Screening)
STAI

参加者ID : _____

状態・特性不安検査 State-Trait Anxiety Inventory

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

人々が自分自身を表現するために使用したいいくつかの記述が下記に記載されています。各項目を注意深く読んだ後に、右側のボックスで過去7日間のあなたの感情に最も当てはまると思われるものをチェックしてください。回答に正解や不正解はありません。

	まったくそうでない	ややそうである	おおよそ、そうである	非常にそうである
	1	2	3	4
1. 穏やかさを感じた。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 緊張した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 動揺した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. リラックスした。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 満足感を感じた。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 心配だった。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

すべての質問に回答したことを確認してください。

modified Hachinski ischemic score

参加者ID

日付

修正ハチンスキースコア

有で加算、なし0点

- 1. 急速な発症 2点
- 2. 段階的な悪化 1点
- 3. 身体的な訴え 1点
- 4. 感情失禁 1点
- 5. 高血圧の既往 1点
- 6. 脳卒中の既往 2点
- 7. 自覚的神経症状 2点
- 8. 他覚的神経症状 2点

合計点

記入者

CFI (Cognitive Function Instrument)

Worksheet (Screening)
CFI - Participant

参加者ID : _____

認知機能指数 - 被験者 Cognitive Function Index - Participant

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

開始時刻 : _____ [時分] 24 時間制を使用。

指示 : 誰にも尋ねることなく、ご自身でこの質問票に記入してください。すべての質問は、1年前を参考に
して回答してください。

1. あなたは1年前と比べて記憶力が大幅に低下したと思いますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
2. あなたは他の人に何度も繰り返して同じ質問をするといわれますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
3. あなたは物を置き忘れることが増えていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
4. あなたは1年前と比べて買い物リストやカレンダーなどへのメモに頼るようになっていませんか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
5. 被験者は約束や、家族の特別な行事、祝日などを覚えるのにもっと他人の助けが必要ですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
6. あなたは人や物の名前を思い出したり、正しい言葉を探したり、文章を完成したりするのに問題が多くなっていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
7. あなたは運転の問題が増えていますか? 以前よりゆっくりまたは速度を出しすぎて運転するようになったり、夜に運転がしにくくなっていたり、道に迷いやすくなったり、事故を起こしやすくなったりしましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない <input type="checkbox"/> 該当しない
8. あなたは1年前と比べて、お金の管理の問題(例えば請求書を支払ったり、おつりを計算したり、税金の書類を記入したりすること)が多くなっていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない <input type="checkbox"/> 該当しない
9. あなたは社会活動への参加が減っていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
10. あなたは1年前と比べて仕事やボランティアでの能力が著しく低下しましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない <input type="checkbox"/> 該当しない



J-TRC Onsite study

1

Version 03.10
Version Date 08/25/2020

参加者ID : _____

認知機能指数 - スタディパートナー
Cognitive Function Index - Study Partner

データ記録担当者
イニシャル : _____
日付 : _____

開始時刻 : _____ [時分] 24 時間制を使用。

指示 : 被験者に尋ねることなく、ご自身でこの質問票に記入してください。被験者の家族、友人または仕事仲間に尋ねることは可能です。すべての質問は、1年前を参考にして回答してください。

1. 被験者は記憶力が大幅に低下したと思いますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
2. 被験者は他の人に何度も繰り返して同じ質問をしますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
3. 被験者は物を置き忘れることが増えていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
4. 被験者は1年前と比べて買い物リストやカレンダーなどへのメモに頼るようになっていように見えますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
5. 被験者は約束や、家族の特別な行事、祝日などを覚えるのにもっと他人の助けが必要ですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
6. 被験者は人や物の名前を思い出したり、正しい言葉を探したり、文章を完成したりするのに問題が多くなっていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
7. 被験者は運転の問題が増えていますか? 以前よりゆっくりまたは速度を出しすぎて運転するようになったり、夜に運転がしにくくなっていたり、道に迷いやすくなったり、事故を起こしやすくなったりしましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない <input type="checkbox"/> 該当しない
8. 被験者は1年前と比べて、お金の管理の問題 (例えば請求書を支払ったり、おつりを計算したり、税金の書類を記入したりすること) が多くなっていますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない <input type="checkbox"/> 該当しない
9. 被験者の社会活動への興味は低下していますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
10. あなた自身の観察や被験者の仕事仲間のコメントなど考慮した上で、被験者は1年前と比べて仕事やボランティアでの能力が著しく低下したと思われますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない <input type="checkbox"/> 該当しない
11. 被験者はニュースや映画、テレビ番組の内容を理解する事がむずかしくなりましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
12. 被験者にとって1年前と比べて著しく困難になった趣味の活動 (トランプゲームや手芸など) がありますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
13. 被験者は他の町に行ったときなどに方向感覚がなくなったり、道に迷ったりしやすくなりましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
14. 被験者は1年前と比べて、洗濯機や電子レンジなどの電化製品やコンピューターや携帯電話などのデジタル製品を使うのが難しくなりましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> そうかもしれない
15. 被験者は過去1年間に記憶の問題で医師の診察を受けましたか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

■ 自律神経の状態に関する質問

自律神経の症状について質問します。それぞれの質問に対し、最もあてはまる選択肢に一つずつ○をつけてご回答ください。

食事や排便に関する質問（7項目）

1. この1ヶ月で、飲み込みづらかったり、むせたりすることはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
2. この1ヶ月で、口からよだれがもれることはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
3. この1ヶ月で、食べ物をのどつまりしたことはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
4. この1ヶ月で、食事中にすぐに満腹になる感じがしたことはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
5. （便秘は排便が週に2回以下の状態としますが）この1ヶ月で便秘に関する問題はありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
6. この1ヶ月で、排便に負担がかかることはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
7. この1ヶ月で、便をもらすことはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある



排尿に関する質問（6項目）

8. この1ヶ月で、排尿を我慢できないことはありましたか？
全くない 時々ある 普通にある よくある カテーテルを使っている
9. この1ヶ月で、尿をもらすことはありましたか？
全くない 時々ある 普通にある よくある カテーテルを使っている
10. この1ヶ月で、排尿後に膀胱が空になっていない感覚を感じることはありましたか？
全くない 時々ある 普通にある よくある カテーテルを使っている
11. この1ヶ月で、尿の流れは弱くなりましたか？
全くない 時々ある 普通にある よくある カテーテルを使っている
12. この1ヶ月で、一度排尿してから2時間以内にまた排尿しなくてはならないことはありましたか？
全くない 時々ある 普通にある よくある カテーテルを使っている
13. この1ヶ月で、夜間に排尿に起きることはありましたか？
全くない 時々ある 普通にある よくある カテーテルを使っている



立ちくらみ、発汗や体温調節に関する質問（8項目）

14. この1ヶ月で、立ち上がった時に、めまいを感じたり、物がきちんと見られなかったり、考えがまとまらなかったりしたことはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
15. この1ヶ月で、しばらく立っていた後で、めまいがしたことはありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
16. 最近6ヶ月の間に、気を失ったことはありますか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
17. この1ヶ月で、日中に過度の汗をかいたことはありますか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
18. この1ヶ月で、夜間に過度の汗をかいたことはありますか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
19. この1ヶ月で、明るい光に対して目が過敏になったことはありますか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
20. この1ヶ月で、寒さを耐えるのが難しかったことはどのくらいありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある
21. この1ヶ月で、暑さを耐えるのが難しかったことはどのくらいありましたか？
全くない　時々ある　普通にある　よくある



性機能に関する質問（男女別）

<次の3問は男性だけ答えて下さい。性行為がない場合は「当てはまらない」を選んで下さい>

22. この1ヶ月で、インポテンツ（勃起できないあるいは続かない状態）はありましたか？

全くない 時々ある 普通にある よくある 当てはまらない

23. この1ヶ月で、射精できないことはどのくらいありましたか？

全くない 時々ある 普通にある よくある 当てはまらない

23a. この1ヶ月で、勃起障害に対する薬を飲んだことはありますか？（もしあれば、なんという薬ですか？）

いいえ はい（薬の名前 _____）

<次の2問は女性だけ答えて下さい。性行為がない場合は「当てはまらない」を選んで下さい>

24. この1ヶ月で、性行為中に膣が乾きすぎることはありましたか？

全くない 時々ある 普通にある よくある 当てはまらない

25. この1ヶ月で、オルガスム（性的絶頂感）に達するのが難しかったことはありましたか？

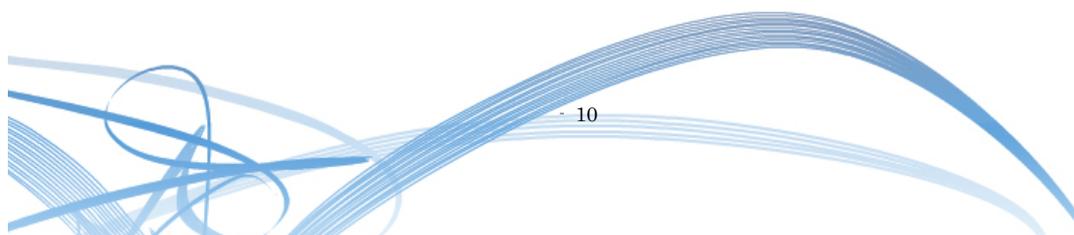
全くない 時々ある 普通にある よくある 当てはまらない



■ 日常のにおいに関する質問

以下の 20 のにおいについて、それぞれ最もあてはまる所に一つずつ○をつけて下さい。

	わかる	時々わかる	わからない	最近かいでない かいたことがない
1) 炊けたご飯	2	1	0	▲
2) 味噌	2	1	0	▲
3) 海苔	2	1	0	▲
4) 醤油	2	1	0	▲
5) パン屋	2	1	0	▲
6) バター	2	1	0	▲
7) カレー	2	1	0	▲
8) 炒めたニンニク	2	1	0	▲
9) みかん	2	1	0	▲
10) イチゴ	2	1	0	▲
11) 緑茶	2	1	0	▲
12) コーヒー	2	1	0	▲
13) チョコレート	2	1	0	▲
14) 家庭用ガス	2	1	0	▲
15) 生ゴミ	2	1	0	▲
16) 材木	2	1	0	▲
17) 汗	2	1	0	▲
18) 糞便	2	1	0	▲
19) 花	2	1	0	▲
20) 香水	2	1	0	▲



■ 睡眠の状態に関する質問

以下の質問について、「はい」または「いいえ」のどちらかに✓をつけてください。

質問	はい	いいえ
1. とてもはっきりした夢をときどき見る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 攻撃的だったり、動きが盛りだくさんだったりする夢をよく見る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 夢を見ているときに、夢の中と同じ動作をすることが多い。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 寝ている時にうでや足を動かしていることがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 寝ている時にうでや足を動かすので、隣で寝ている人にケガを負わせたり、自分がケガをしたりすることもある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 夢を見ているときに以下のできごとが以前にあったり、今もある。		
6.1 誰かとしゃべる、大声でどなる、大声でののしる、大声で笑う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.2 うでと足を突如動かす（けんかをしているように）。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.3 寝ている間に、身振りや複雑な動作をする （例：手を振る、挨拶をする、何かを手で追い払う、ベッドから落ちる）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.4 ベッドの周りの物を落とす（例：電気スタンド、本、メガネ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 寝ているときに自分の動作で目が覚めることがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 眼が覚めた後、夢の内容をだいたい覚えている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 眠りがよく妨げられる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 以下のいずれかの神経系の病気を、以前患っていた、または現在患っていますか？（該当するものに○をつけて下さい） 脳卒中 頭部外傷 パーキンソン病 むずむず脚症候群 ¹ ナルコレプシー ² うつ病 てんかん 脳の炎症性疾患 ³	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 主に静かに横になっている時や座っている時に、脚がむずむずするような不快な異常感覚や痛みを覚え、脚を動かしたいという衝動にかられる病気
- 日中に場所や状況を問わず、耐え難い眠気や居眠り発作を繰り返す病気
- 脳炎や髄膜炎など

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

AMED 認知症研究用認知機能検査, 臨床評価尺度実施手引き

AMED

認知症研究開発事業

「疾患修飾薬の実用化を見据えた認知症性疾患の標準的診断方法の標準化と普及を目指す研究」

東京都健康長寿医療センター脳神経内科

岩田 淳、井原 涼子

目次

① 連絡先	170
② 概略.....	171
はじめに	171
検査の計画.....	171
生産的な検査環境をつくるために	171
検査内容の紹介	171
検査時間の管理	172
被験者の集中を絶やさない.....	172
被験者の理解度の評価	172
反応と刺激.....	172
採点と記録.....	172
③ 認知機能検査の順番とビジットごとのスケジュール	172
④ 検査実施スケジュール.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
⑤ 各種評価における認定.....	174
Clinical dementia rating(CDR)評価者.....	174
Washington 大学 St.Louis の web site でのトレーニングで認定を受ける場合.....	174
AMED Preclinical 研究のためだけの認定	174
ADAS-cog 評価者.....	174
⑥ 各バッテリー及び臨床評価尺度の施行手順.....	176
1. Everyday Cognition (E-cog).....	176
施行方法.....	176
2. アルツハイマー病評価尺度 (ADAS-cog13).....	177
はじめに.....	177
一般的な検査指針.....	177
用具と環境	177
被験者の管理.....	178
標準的手順	178
注意と「2度目の機会」	179
検査の実施.....	179
最初の会話	179
検査セッションへの導入：	180
1. 単語再生.....	180
2. 命令/指示	182
3. 構成行為	183

4. 単語の遅延再生	188
5. 物品と指の呼称	189
6. 観念性行為	191
7. 見当識.....	194
8. 単語再認.....	196
9. 検査教示の記憶	198
10. 理解	198
11. 喚語困難	199
12. 発話能力	200
13. 数字の消去	201
1. 単語再生	202
2. 命令/指示	203
3. 構成行為	203
4. 単語の遅延再生	203
5. 物品と指の呼称	203
6. 観念運動	204
7. 見当識.....	204
8. 単語再認.....	204
9. 検査教示の記憶	205
10. 理解	205
11. 喚語困難.....	205
12. 発話能力	206
13. 数字の消去	206
3. WMS-R 論理的記憶 IA, II A.....	207
4. WAIS-III 符号 (90 秒).....	207
5. Mini-Mental-State Examination (MMSE)	208
6. 自由及び手掛りによる選択的想起検査 (直後再生課題付) FCSRT (Free and Cued Selective Reminding Test - immediate recall)	209
施行時間.....	209
必要な資材.....	209
指示と施行の方法.....	209
制御された学習 試験段階.....	209
制御された学習 試験段階での注意事項.....	210
記憶検査	211
自由再生	211

手掛り再生（必要であれば施行する）.....	211
選択的想起.....	211
採点.....	212
自由及び手掛りによる選択的想起検査流れ.....	212
7. 言語流暢性.....	214
説明.....	214
実施方法.....	214
採点.....	214
8. トレイルメイキングテスト Trail making test.....	216
説明.....	216
パート A.....	216
パート B.....	216
施行方法.....	216
パート A.....	216
パート B.....	216
9. 多言語呼称テスト Multilingual naming test (MINT).....	218
教示及び合図.....	218
教示.....	218
実施法.....	218
誤答反応、注意（正答を促すための刺激）と意味/音韻手掛り.....	218
意味手掛り.....	219
音韻手掛り.....	220
特定の MINT 項目.....	220
10. WAIS-III 積木模様、数唱、知識.....	221
11. 時計描画/時計模写.....	222
時計描画.....	222
時計模写.....	222
採点方法.....	222
12. 老年期うつ尺度 Geriatric depression scale (GDS).....	226
指示.....	226
13. 機能評価質問紙法 Functional Activities Questionnaire (FAQ).....	227
施行方法.....	227
14. 臨床認知症評価尺度 Clinical Dementia Rating (CDR).....	228
CDR 評価者.....	228
施行方法.....	228

包括的 CDR 得点の決定	228
15. Neuropsychiatric Inventory (NPI)	229
I. 序論	229
II. 施行法	230
対象	230
検査実施上の注意事項	230
施行時間	230
検査概要	230
施行に必要なもの	230
施行方法	231
III. 施行上の留意点	231
施行に当たって	231
施行上の留意点	231
『適応なし』の表示について	232
IV. 採点法	232
a) 頻度	232
b) 重症度	232
c) 負担度	233
<u>NPI 得点の算出</u>	233
<u>負担度得点の算出</u>	233
V. 標準的基準と信頼性	233
標準的基準	233
信頼性	234
VI. 参考文献	235
MMSE 場所に関する見当識の質問に対する許容される正答リスト	236
ADAS-cog 指と物品の呼称 許容される正答リスト	237
CS スクエア入力及びワークシート送付に関する補足	238

本手順書は米国 ADNI2 研究手順書, ADAS-cog, FCSRT, MiNT, NPI などの検査手順書の許可を得た翻訳, 複製を含んでいます. 無断の複製を禁じます.

連絡先

AMED 疾患修飾薬の実用化を見据えた認知症性疾患の標準的診断方法の標準化と普及を目指す研究
代表 東京都健康長寿医療センター 脳神経内科 岩田淳、井原涼子

Email: iwata-tky@umin.ac.jp, ihara-tky@umin.jp

バッテリー，評価そのものについてのご質問については上記メールにお願いします。

概略

本資料作成の経緯

本資料はもともと AMEDPreclinical 研究のために作成されたものである。このため、現行の AMED 研究の中では使用されていないバッテリーについての記載などがあるが、適宜採用頂ければ幸いである。また、本「疾患修飾薬の実用化を見据えた認知症性疾患の標準的診断方法の標準化と普及を目指す研究」では「手引き」として本資料を発出するものであるが、各班においては独自の基準を持って評価される事もあると思う。その際には「参考」として使用頂ければ幸いである。現在進行中の 4 班で共通して採用されている指標は CDR であり、これについては可能中限り本手引きを参照の上データ取得頂ければ幸いである。

はじめに

認知症研究での認知機能検査の目的は、標準的な手順を用いて被験者の認知機能を客観的かつ再現性良く評価することにある。とはいえ、認知機能検査は機械的な手順ではない。検査者は試験結果に影響するような幅広い感情的、身体的問題に遭遇する。また、検査者の技量や判断力は被験者の意欲やどの程度努力するかを左右する。このため、実際の検査の最中には、検査者は検査を施行し、被験者を観察し、その行動を評価しつつ必要な修正を行わなければならない。以下の指針は評価手順において検査者間の信頼性を担保し、認知機能検査の標準的实施を確保するために提供される。各施設では、これらの指針に従うことで被験者の緊張や不快感を最小限にとどめ、有効かつ正確な測定が可能となるだろう。

検査の計画

可能であれば、採血や脳脊髄液検査の影響を避けるために、それらの後には認知機能検査を予定しないこと。日内変動による影響を避けるため、検査は毎ビジット同じ時間に計画するように出来るだけ努力すべきである。もし認知機能検査を他の検査の前に施行できない場合は、飲食を含めた適切な休憩を入れること。

生産的な検査環境をつくるために

たとえ標準的な方法で試行したとしても検査者の違いが検査結果に影響を与えうるため、全ての検査においては同一の心理測定者が担当する事が望ましい。どのような認知機能検査においても同じ事だが、静かな部屋の机の上で気が散らないような状態で行うべきである。検査前には、被験者及びスタディーパートナー双方に聴力や視力について質問し、必要な眼鏡や補聴器を装着しているかを確認するべきである。

検査内容の紹介

一日の予定を説明する際には、スタディーパートナー同席で行うべきである。検査の目的を説明し、どのような内容か、どのくらいの時間がかかるか、一日の予定がどのようなものであるか、いつ休憩がとれるかを説明する。必要な質問への受け答えの後、スタディーパートナーには部屋の外の所定の場所で待つように指示する(ほとんどの被験者は知っている人に見られていない場合の方が高得点を取得する)、被験者がどうしてもスタディーパートナーの同席がないと検査が出来ない場合は、スタディーパートナーには答えを言わない様に指示し、被験者が容易に反応を求められないような場所に着席するよう指示をする。

検査時間の管理

一連の検査はワークシート集に記載された順番で試行する。時間制限を守り、標準化された指示に従うこと。しかし、被験者には雑談が多くて話がそれる者もいるため、実現が困難な場合がある。その様な場合には、検査者は状況をしっかりと管理し、被験者が課題に戻るよう誘導する必要がある。

被験者の集中を絶やさない

被験者が挫折しかけたり検査を中断したいと言ったりした場合、検査者は被験者の懸念に耳を傾け、検査結果に影響する可能性があるような痛みや疲労などの身体的な症状を記載する。検査継続を拒否する被験者と身体的、認知機能的問題で完遂できない被験者は区別しなければならないだろう。これは、被験者が検査を遂行できないことへの不満から検査を拒否する時はより区別が困難となる。被験者が疲れたのか、いらいらしているのか、それとも単に気が散っているのか、それぞれの対処方法には万能なものはないが、検査者は臨機応変に被験者の懸念に同意し、検査への関心を再度持つように穏やかに誘導すべきである。

被験者の理解度の評価

検査者は、それぞれの検査を始める前から検査終了時まで、被験者が指示を理解していること確認する事に責任を持たなければならない。検査中に、新しい情報やヒント、答えを与えないように注意しつつ、それぞれの検査の指示が許す範囲で、被験者への指示を繰り返したり、単純化したりするようにしてもよい。

反応と刺激

被験者の答えが正しいか間違っているかを示唆することのないような「いいですよ」や「その調子です」などの中立的な反応をする事。上手く出来た場合だけでなく努力している場合にはすべて褒めること。被験者が二つ以上の答えを言う場合がしばしばある。そのような場合には、被験者には特定の反応の手掛りを与えないようにして、どちらかを選ぶように促す。「どちらですか?」や「一つ選んでください」と言う様な問いかけによって被験者は一つの答えを選ぶ事が出来る様になる。

採点と記録

誤反応を記載する方が無反応よりも良いため、もし答えに自信がなさそうでも「1番よさそうな答えは何ですか?」や「ためしに言ってみて下さい」などと問いかけることで何らかの答え引き出すべきである。間違った答えでも被験者が質問を理解していたかを知る何らかの手掛りとなるからである。

被験者の答えを全て言葉通りに記録すること。メモ書きも多い方が良い。

被験者の了解が得られ、必要であれば、セッションを録音し、そこから記載漏れを書き起こしても良い(ただし個別に IRB, 倫理委員会に申請すること。全体の倫理申請には記載されていない)。

被験者の個人情報はワークシートには絶対に記入しないこと。

認知機能検査の順番とビジットごとのスケジュール

認知機能検査の順番は論理記憶の遅延時間を確保するために設計されている。検査が予定より早く終わってしまったり、時間が多くかかってしまったりした場合には、遅延試験の順番の変更が必要な事がある。手順書から外れた場合は、いかなる変更も記録をすること。

論理記憶の遅延までの間は最低限 30 分あけ、最大でも 40 分を超えないこと。この間には施行すべきバッテリーが規定されている。

認知症研究で実施する認知機能検査は本手順書に記載されているものとなる。実施する同種の評価尺度としてはCDR(臨床認知症評定法日本語版)があるが、一連の認知機能検査を施行する者

とCDRを施行する者はそれぞれのビジット毎に別の評価者がお互いの結果を見ずに行うこと。また、各被験者の評価者はやむを得ない場合を除いて全ビジット同一の評価者が行うこととする。

被験者に対する認知機能検査の実施順については次に示す表の順番で行う。各検査はやむを得ない場合を除いて同一日に全部を施行する。MCI studyでは検査の分量が多いため、途中で休憩を可とするが、その場合はADAS-Cog13の後にのみ許可する。また、休憩は翌日まで検査を遅延することでも可とする。

CS²でダウンロードする際には検査記録用紙は施行順に構成された状態で出力される。

以下に検査についての注意点、実施要領を概説するが、実施手順は認知機能検査ワークシートを参照のこと。WMS-R, WAIS-IIIについては出版されているマニュアルも参照すること。

各種評価における認定

AMED Preclinical 研究では Clinical dementia rating 及び ADAS-cog について評価する者は臨床コアの認定を受ける必要がある。今までに J-ADNI1 等の臨床研究において評価者の認定を得ている者はその認定証のコピーを事務局まで送付すること。新規に認定を受ける者については以下に手順を示す。

Clinical dementia rating(CDR)評価者

新規に AMED Preclinical 研究において CDR 評価者として認定される方法は 2 種類ある。第 1 の方法は Washington 大学 St Louis の web site において public training を受け、同施設の発行する認定書を臨床コアに提出する方法である。第 2 の方法は、AMED Preclinical 研究臨床コアの設定する認定試験に合格する方法である。

Washington 大学 St.Louis の web site でのトレーニングで認定を受ける場合

CDRの評価者資格は

<http://knightadrc.wustl.edu/CDR/CDR.htm>

の左のonline public trainingから取得が可能となっている。全編英語のビデオを見て採点する試験であるが、その手順に則れば資格が取得可能である。

ただし、ビデオが英語のため、Washington大学の許可を受けた上で日本人の評価者の理解を補助する意味で字幕を作成し、画面に挿入したファイルを作成した。臨床コアから配布されるDVDに字幕ファイルとその使用方法、資格取得方法が記載されているため、それを参照の上資格取得が可能である。取得方法の詳細はDVD内のファイル、Readme.txtを参照されたい。本方法で資格取得をされた評価者はその資格認定証を研究事務局に送付し(Eメール添付を許可する)。臨床コアはその受け取りを持って認定することとする。この認定資格は各種治験や他の臨床研究においても評価者として認定される際に有利に働く可能性があるため、是非お勧めしたい。

AMED Preclinical 研究のためだけの認定

より広い意味での認定を必要としない場合は、簡易的に認定の取得が可能である。配布された DVD の「CDR 簡易認定用」フォルダに記録されているビデオを視聴しその CDR 判定を行い、研究事務局に送付されたい。この場合一定の基準以上の成績を残した者を評価者として認定する。

ADAS-cog 評価者

ADAS-cog 評価者は筆記試験をもって認定する。試験は心理講習会開催時に施行する予定であるが、適宜施設において受験し、その結果を臨床コアに送付し、認定を受けることができる。試験用紙は研究事務局に請求されたい。試験を受ける者はそれぞれ試験用紙に解答を記入し、研究事務局へ送付すること。臨床コアが採点し、認定を与える。

各バッテリー及び臨床評価尺度の施行手順

Everyday Cognition (E-cog)

Farias ST, Mungas D, Reed BR, Cahn-Weiner D, Jagust W, Baynes K, Decarli C. The measurement of everyday cognition (ECog): scale development and psychometric properties. Neuropsychology. 2008 Jul;22(4):531-44.

E-cog は被験者が正常な日常課題を行う能力を 10 年前と比べてどのように変化したかを 5 段階評価する短い質問集である。3 つの領域、すなわち記憶、言語、遂行能力を評価する。E-cog は被験者及びスタディーパートナーの双方に対してベースライン、及びその後の各来院ビジットにおいて施行する。

- 来院時に被験者及びスタディーパートナーは各々別個に用紙に記入する。
- ビジットが終わり帰宅する前に E-cog 用紙の記入に漏れのないことを確認すること。必要な場合は追加の記入を促すこと。
- 被験者の認知機能の低下が高度で用紙に記入できない場合も想定される。そのような場合は被験者用紙の質問事項 1 に記載の上スタディーパートナーの用紙のみ記入すること。

施行方法

現在の被験者が日常生活で行う課題をこなす能力について 10 年前と比べてどうであるかを被験者、スタディーパートナー双方に対して問う。言い換えれば、10 年前の日常生活で被験者がどうであったかを思い出し、現在の能力にどのような変化があるのかを答えさせる。

評価点は変化の程度を 5 点の尺度で表す。

- 1 変わらない、あるいは 10 年前よりもうまく行っている
- 2 やや問題がある／常にではないが、時に劣っていることがある
- 3 10 年前と比較して、一貫してやや劣っている
- 4 10 年前と比較して、一貫してかなり劣っている
- 9 わからない

記入者の評価妥当性について記録する事が求められるため、検査者は被験者、スタディーパートナーが記入する際の様子を観察する事。

アルツハイマー病評価尺度 (ADAS-cog13)

Alzheimer's Disease Assessment Scale-cognitive subscale (ADAS-cog13)

Richard C. Mohs et al. Development of Cognitive Instruments for Use in Clinical Trials of Antidementia Drugs: Additions to the Alzheimer's Disease Assessment Scale That Broaden Its Scope. Alzheimer Disease and Associated Disorders. 11 (suppl2) S13-S21, 1997.

はじめに

ADAS-cog の認知機能に関する検査項目は、以下の順に実施する：

最初の会話（全般的な言語能力の評価）

能力項目：

1. 単語再生
2. 命令/指示
3. 構成行為
4. 単語の遅延再生
5. 物品と指の呼称
6. 観念性行為
7. 見当識
8. 単語再認
9. 検査教示の記憶

全般的言語項目：

10. 理解
11. 喚語困難
12. 発話能力
13. 数字の消去

ADAS-cog 評価者の資格認定

前述の様に、評価者は、AMED Preclinical 研究臨床コアが提示する認定試験に合格する必要がある。ADAS-cog は、適切な訓練を受け、経験を積んだ心理測定者によって行われる必要がある。

一般的な検査指針

用具と環境

- 評価者は検査キットを熟知しておく。検査を円滑に一定のペースで行うことができるよう、検査キットは事前に整理・準備しておく。
- 評価者はビジット時に必要となる用具がすべて揃い整頓されていることを確認する。
- **単語再生検査**と**単語再認検査**に、正しい単語カードが用意されていることを確認する。

- 特定の単語リストを半年に1回以上の頻度で繰り返し使用しないことが推奨されている。
- 検査キットは被験者から見えない場所で、評価者のすぐ手の届く場所に置く。
- ワークシートは被験者から見えないようにする（例：机の上に広げない）。
- 快適で静かな、集中できる環境を用意する。
- カレンダーや時計、電話、スマートフォンなど、検査の手掛りになったり、被験者の注意を妨げたりするものは部屋に置かない。
- 評価者と被験者は小さな机の中央に向かい合って座る。机の隅に座らない。

被験者の管理

- 検査に先立ち、被験者が必ず眼鏡や補聴器、義歯、その他補助機器を身に付けていることを確認する。
- 評価者は、各項目への教示を与えたり、注意を促したりする際は明確かつ坦々と話すこと。
- 被験者を急かさない。
- 被験者の第一言語は日本語でなければならず、被験者は必ず日本語で回答すること。日本語以外の言語での回答は認めず、日本語以外で回答があった場合は被験者に日本語で言いなおさせる。
- 評価者は被験者が最善を尽くし、やる気と集中力を維持できるよう努める。
- 被験者に対する励ましは中立的であること。被験者の回答の正誤は伝えない。「それでいいですよ」や「その調子です」といった努力を促す言葉は、被験者の努力につながるかぎり適切である。
- 被験者から回答が正解であるかどうかを聞かれた場合、評価者は「検査が終了するまで答えることはできません。各項目について最善を尽くしてください」と伝える。評価者は被験者の努力に目を向け、努力するようを促し、次の課題へと目を向けさせる。被験者が課題の正誤を知りたいと強く求める場合は正解を教えてもよいが、評価者はできるだけ滞りなく次の課題へと被験者を誘導すること。

標準的手順

- それぞれのビジット毎での検査セッションが一貫していることが非常に重要である。部屋、検査環境、時刻および手順が各検査セッションを通して同じ状態であること。
- ひとりの被験者のセッションは、すべて同じ評価者が行うことが望ましい。
- 評価者は ADAS-cog の実施に先立ち、各項目の教示を一語一句暗記することが必要不可欠である。
- 各項目の教示は、記載通りの文言で与えること。被験者が1度で教示を理解できない場合、評価者は必要に応じて言い換えてもよい。ただし、評価者が教示を言い換える場合は、逐語的教示に記載のない手掛りや要素、教示を付け加えてはいけない。

- ADAS-cog は時間配分の決まった検査ではないため、検査をどれだけ早く終了したかは被験者のスコアに影響を与えない。
- 各項目はセッションが滞りなくかつ迅速に進むよう提示すべきであるが、被験者の回答を急かすような精神的重圧は与えないこと。
- **数字の消去課題**に要した時間を測定すること。これのみが時間測定を要する項目である。評価者はストップウォッチを用いること。
- 各項目において、被験者は正しい回答をする機会が2度まで与えられる。あるテスト項目では、不正解の場合に、項目の反復を必要とすることもある。項目ごとに教示に従うこと。
- 被験者自身の自発的な修正は、特定の下位検査を行っている最中に限り許される。

注意と「2度目の機会」

- 注意および2度目の回答の機会を与える目的は、被験者が本当に課題を正確に完了することができないこと、また回答を誤る原因が聴覚や視覚、およびその他のなんらかの問題に起因するのではないことを明確にするためである。
- 各項目にはそれぞれ許可された特定の注意の言葉がある。本マニュアルには、いつ2度目の回答が許されるのかが示され、項目毎に注意の仕方およびタイミングが記載されている。2度目の回答は、ほとんどの項目において被験者本人がもう一度回答し直したいと希望する場合、または最初の回答に被験者が満足していない場合に自らの修正としてのみ許可される（例：被験者が最初の回答直後に「すみません、今の回答は間違えました」と言った場合）。2度目の回答がいつ許されるかについての指示を本マニュアルに記載した。

検査の実施

最初の会話

被験者の緊張をほぐして信頼関係を築き、同時に被験者がどの程度言語を理解し話すことができるかについて評価をするため、セッション冒頭の数分はあたり障りのない話題について自由に回答できる会話を行う。被験者の言語使用能力を判断する上で、この自由な回答が可能な会話に十分な時間を取ることが重要である。ここでの会話が評価者にとって全般的な言語項目を評価する主な方法となる。全般的な言語項目とは、**理解**、**喚語困難**、および**発話能力**を指す。また、検査中の自発的言語も全般的な言語評価の対象となる。

検査セッション冒頭における最初の会話の中で：

- 被験者が言葉を聞いたり使ったりできる、自由な回答が可能な質問をする。具体的には、はい、いいえで答えられる単純な質問は避け、以下のような質問をする：
 - 調子はいかがですか？
 - ここまでどうやって来られたのですか？

- どんな朝ご飯がお好みですか？
- 趣味は何ですか？
- 被験者の話や言葉を補ったりしない。被験者の言語機能障害の程度を見極めることが重要である（被験者に障害が確認される場合）。
- ADAS-cog の見当識の項目で尋ねる情報を被験者に思い出させるような質問はしない。
- 通常、評価者が被験者を良く知っている場合は、当人の発話を促すような話題で会話を始める。評価者が被験者を良く知らない場合は、一般的で自由な回答が可能な質問から会話を始める。
- ここでの会話中や検査中の自発的なやりとりにおける言語的問題や言い間違いの例は書き留めておくことが有用である。
- 資料の中またはメモ用紙に、喚語困難は「K」、理解困難は「R」などの様に略式でメモを取ると良い。
- 最初の会話は記憶力の検査ではない。評価者は全般的な言語項目を評価する際、被験者の記憶障害を理由とするマイナス評価を与えてはならない（例：身内の名前や最近の出来事を思い出せない）。
- この最初の会話に時間要件はない（最小も最大もない）。この会話の中で、評価者は被験者の自発的発話について適切なサンプルを得るまで質問をすること。質問の数は各被験者によって異なる。

検査セッションへの導入：

最初の会話終了後、評価者は

「今日はいくつかやってもらいたいことがあります。それぞれの課題に最善を尽くして回答してください。いいですか？それでは始めましょう。」

と被験者に伝え、検査を始める。

1. 単語再生

この課題において被験者には、使用頻度が高く、イメージを浮かべやすい名詞のリストを覚える機会が3度与えられる。白いカードには10の単語がブロック体で記載されている。

各ビジット時に単語リストと合致する単語カードを用いる。ビジット前に単語リストを決定し、正しい単語カードが用意されていることを確認する。

一回目を行う前に、評価者は一語一句変わらずに以下の教示を与える：

「これからあなたに、これらの白いカードに印刷した単語をいくつか示します。後で、覚えて頂いた単語をすべて思い出してもらいますので、それぞれの単語を声に出して読みながら覚えるようにして下さい。用意はいいですか？単語を読みながら、覚えるようにして下さい。」

それぞれの単語を提示する前に、評価者は必要に応じて上記の教示を復唱、または言い換えることができる。教示が言い換えられる場合、評価者は上記の教示を言い換えるのみとし、そこに新たな教示を追加してはならない。

単語カードは、ゆっくりと同じペースで被験者に提示する。それぞれのカードは約 2 秒間提示されることが推奨される（必須ではない）が、読むのが早い被験者の場合はペースを上げ、逆に読むのが遅い、あるいは時間を要する被験者には速度を落とす必要がある。ここで重要な点は、被験者が各カードを声に出して読み上げること、被験者を急かさないこと、そして単語カードを同じペースで提示することである。

評価者は必要に応じて、

「声に出して読み上げて、覚えてください。」

と注意してもよい。

被験者がカードを提示されてから 5 秒たっても読み上げることができない場合は、評価者がその単語を読み上げて被験者にそれを反復させる。場合によっては評価者がすべての単語を読み上げ、被験者がそれを反復する必要がある。この時、被験者が反復中に単語カードを見ていることを確認する。

被験者が単語を誤って読み上げた場合、評価者は正しい単語を読み上げてそれを被験者に反復させる。被験者が誤って単語を読み上げた場合、そのままにせず、必ず評価者が訂正すること。

10 の単語を提示した後、評価者は被験者に対し「はい。今度は、リストにあった単語をできるだけたくさん思い出して言ってみて下さい。」と述べ、できるだけ多くの単語を再生するよう指示する。

評価者は正しく再生できた単語の「はい」の欄に印を付けること。

被験者が単語の再生を終えた時点で、評価者は「他にはありませんか？」または「もう他には思い出せませんか？」と被験者に尋ねる。

続いて同様の学習と再生を 2 回行う。

2 回目および 3 回目には、以下の教示を一語一句変わらず被験者に与える：

「先程と同じ単語を示します。それぞれの単語を声に出して読み上げ、覚えるようにして下さい。」

単語カードの提示と注意の仕方は 1 回目と同様に行う。

被験者が緊張していたり、諦めていたりしそうな場合は励ましてよい。

単語遅延再生課題を行う場合、被験者には後にそれらの単語再生が指示されることは知らせない。

J-ADNI研究からの変更点が存在する。単語のリストが異なる3バージョンを使用する。それぞれのビジット毎にバージョンA→B→C→A→Bと変更して使用すること。予め使うバージョンを確認しておくこと。

終了時間を24時間制で記録すること。

採点に関する指針：

各単語について、被験者の再生の可否をケース報告書に記入する。

単語再生中、被験者が学習カードで提示された単語と全く同じ単語を再生した場合にのみ正解と見なす。

2. 命令/指示

この課題は被験者の言語理解能力を評価するためのものである。被験者は、5つの命令を実行する。命令はそれぞれ1つから5つまでの段階からなる。

それぞれの命令を一度だけ読み上げる。被験者が反応を間違えて、さらに間違えたことに気付いた場合は、評価者はもう一度その**命令全体**を読み上げる。命令は二度以上繰り返さない。自身の反応が誤りであることに気が付いた被験者から、もう一度やり直したいと求められたり、最初の反応は正しくなかった、満足いかなかったと言われたりする場合は考えられる。

被験者が自身の反応が誤りであることに気が付かなかった場合、評価者は命令を繰り返さない。

どの被験者にもすべての命令を与えること。

評価者は全ての命令に対する反応を「はい」または「いいえ」で記録すること。

a, b, eの命令を与える際は、被験者の目の前には何も置かない。

c, dの命令を与える際は、鉛筆、時計、A4の用紙の近くにそれ以外のものは置かない(ペンや他の紙等)。

一字一句変わらずに以下の教示を与える：「さて、これからいくつかのことをやって頂きます。まずは……」
命令を与える前は一呼吸おき、命令を記載通りに読み上げる。一定のペースではっきりと命令を読み上げることが重要である。被験者が容易に教示を理解できるようにする。

被験者に聴力や集中力の問題がある場合、命令を与える前に「準備はいいですか？」または「では次にあなたにしてもらいたいことは……（一呼吸おく）」と言い、被験者のペースに合わせる。命令は2回以上与えない。

これは言語理解能力の検査であるため、視覚的手掛りは与えない。評価者自身が拳を握る、指を指す、上や下を見るといったことはしない。

「ゲンコツを作ってください」（必要に応じて、命令課題完了後に「楽しんでください」と言う）。

「天井を指さしてから床を指さしてください」

鉛筆、時計、A4 の用紙を机の上に並べる（被験者から見て左から右に）。

これら 3 つをすべて使用すること。

以下の様に言う：

「鉛筆を紙の上に置き、元に戻して下さい」

次の命令に移る前に、評価者はこの 3 つを最初の位置に戻す。

「腕時計を鉛筆の反対側に置き、紙を裏返して下さい」

鉛筆、時計、A4 の用紙をしまってから以下のように言う：

「目を閉じたまま、二本の指で左右の肩を、二度ずつたたいて下さい」

採点に関する指針：

- 下線部をひとつの項目とする。
- 各命令は全体として採点する（部分的なスコアは付けない）。各命令に含まれるすべての項目が正しく実行された場合にのみそのコマンドを達成したと見なす。
- 第 1 の命令（拳を握る）では、被験者が両手で拳を握った場合も命令達成として採点する。
- 第 2 の命令（天井を指さした後に床を指さす）では、人差し指以外でもよい。被験者が正しい方向を手で指したら命令達成と見なす。ただし、「方向を指さす」という動作が拳を握ったまま行われた場合、それは第 1 の命令を保持しているとみなし、命令未達成とする。
- 肩を叩く命令では、命令達成とみなす場合が複数あるため注意して観察する。例えば、被験者が右手の二本の指で左右の肩を二回叩く、または右手の二本の指で右肩を二回叩いてから左手の二本の指で左の肩を二回叩いた場合、これらはいずれも命令達成とみなす。命令文に則った組み合わせはいかなる場合も許容する。左右の肩はそれぞれ合計二回叩かれる必要がある。肩の定義は首下から上腕上部とする。

3. 構成行為

構成行為障害とは、ひとつまたは複数のパーツを組み合わせたか、組み立てたり、描いたりしてひとつのまとまった構造（例：基本的形状）を作ることができない障害を指す。

構成行為検査では 4 つの幾何学図形を複写する能力を評価するが、非常に単純なもの（円）から比較的難易度の高いもの（立方体）までである。この検査の目的は被験者が幾何学図形の基本的形状を再生できる

か否かを見極めることである。したがって：

- 全体的に正しく描かれていれば、線と線の間になんか隙間があったり、やや対称性に欠けていたり、いいかげんであるなど元の図形と多少のずれがあっても正解とする。
- いいかげんであったり、急いだと思われるために被験者の描いたものが不完全であったりして、その評価が困難な場合、ただちに被験者に（以下のように）尋ね、不完全な箇所を修正してもらう。

図形は以下の順番でひとつずつ提示する：

円

重なる二つの長方形

菱形

立方体

評価者は最初の図形と共に鉛筆と消しゴムを被験者に渡す。

評価者は被験者に一語一句違わずに以下の教示を言う：

「この紙には図形が描かれています。この紙のどこでも良いので、これと同じような図形を描いて下さい。（評価者は見本の図形を指さしてもよい）」

図形を描き終わったら、その紙を机の上から取り除き、次の図形を被験者に渡して同じ教示を言う。

被験者に図形を提示する際、必要に応じて教示を繰り返したり言い換えたりしてもよい。

一般的な検査指針：

- 評価者は被験者が写している様子を注意深く観察する。
- 被験者が急いで、慌てて描いている場合は、（描き終る前に）その場で被験者に次のように声をかけ、注意をする：「急がず、できるだけ正確にこの図形を写してください。」この注意後に被験者が描いたものを最初に描いた図形と見なす。被験者が注意後に図形を修正したり、元の図形に描き加えたり、新たに描きなおしたりした際に、最初の図形がどれかを考える必要が出てくる。
- 被験者がスケッチをするように鉛筆を何度も往復させて描いている場合、（描き終る前に）その場で被験者に次のように声をかけ、注意をする：「スケッチするのではなく、できるだけ一本の線で描いてみてください。」注意後に被験者が描いたものを最初に描いた図形と見なす。被験者が注意後に図形を修正したり、元の図形に描き加えたり、新たに描きなおしたりした際に、最初の図形がどれかを考える必要が出てくる。
- 重度の障害がある被験者が、見本の図形を上からなぞろうとすることがある。この場合、その場で被験者に次のように声をかけ、注意をする：「この紙のどこか別の場所にこの図と同じものを描い

てみてください。」と紙の何も描かれていない場所を指す。被験者が見本の図形を完全になぞり終えた場合（例：評価者が指摘する間もなく素早く円を描いた）、それを最初に描いた図形と見なし、紙の別の場所に描いたものを2回目に描いた図形と見なす。見本の図形をなぞり終えていない場合、注意後に描いた図形を最初に描いた図形と見なす。

- 被験者は消しゴムで適宜修正して構わない。被験者から消してもよいかと質問があった場合はそれを許可する。
- 最初の図形を描いている際に、それをすべて消すことがあるかもしれない。被験者が描き終ったと言った場合に（被験者が自発的に、または評価者に尋ねられて）最初の模写が完了したと見なす。
- 被験者が描き終ったと言った時点で、描写がいいかげんであったり、急いだりしたことによる小さな誤り（例：多少の隙間）が確認され、評価者の評価が困難な場合、評価者はただちに次のように被験者に声をかける。「これは（被験者の描いたものの意）こちらの図と同じになっていますか？」被験者が違うと答えたら「では直して見てもらえますか？」と言い、不完全な箇所を修正させる。
- 被験者が最初に描いたものを自分から描き直しを始めたり、最初に描いたものに不満な様子を見せたりした際は、いずれの図形についてももう一度描き直してもよい。もし被験者が最初の図がうまく描けなかったと言ったり、不満な様子を見せたりした場合、もう一度やり直したいかを尋ねる。被験者が最初に描いたものに満足している場合は、図が誤っていてもやり直しを勧めたり求めたりしない。
- 2度目の模写中、被験者はそのすべてないしは一部を消して描き直してもよい。被験者が評価者に対して自発的または尋ねられて描き終わったと言った場合、2回目の模写が完了したとみなす。
- 2度目の模写が行われた場合、被験者に最初に描いたものとどちらがよく描けたかを尋ね、被験者が選択した方を評価する。どちらが最初でどちらが2番目に描いたものであるか、またどちらを被験者がよく描けたとして選択したかを記録に残すこと。
- 被験者が2度試みても図形を描くことができなかった場合、評価者は次の図形に進む。各図形において模写は2度まで試みることができる。

採点に関する指針:

- 被験者が図形の基本的な特徴を捉えている場合は正解として評価する。
- 図形全体の大きさが違っていても不正解としない。
- 図形が正しく描かれている限り、隙間なくつながっているべき線の上に非常に小さな隙間（線の長さの約10%以下）があってもよいものとする。いいかげんであったり、急いだりしたことによるそれ以上広い隙間が見られる場合は曖昧と見なし、注意をする（上記参照）。しかしそれでも被験者が修正しない場合は、その図は不正解とする。
- 図形が正しく描かれている限り、線が本来終るべき点より少し長すぎてもよいものとする（線の長さの約10%以下）。いいかげんであったり、急いだりしたことによる線のはみ出しが見られる場合は曖昧と見なし、注意をする（上記参照）。しかしそれでも被験者が修正しない場合は、その図は不正解とする。
- 被験者が見本の図と重ねて描いたり、見本の図とつなげて図を描いたりした場合（「接している」等）、その図は不正解とする。
- 見本の図にはない線が図に追加されている場合、その図は不正解とする（すなわち、追加された線により図が「異なる」ものになっている場合）。

上記の点を含む、それぞれの図における特定の指針：

- 円：
 - 丸味を帯びた線の始点と終点が繋がりが、線のどの点を取ってもそれが中心からほぼ同じ距離になっていなければならない。最も長い直径が最も短い直径の1.5倍以上になる楕円形である場合、それは不正解とする。
 - わずかな隙間によって円がしっかり閉じられていない場合は許容する。しかしながら、大きな隙間（直径のおおよそ10%）がある場合は曖昧と見なし、注意をし（上記参照）、被験者が修正しない場合はその図は不正解とする。
 - 最初に描いた円の上にさらに重ねて円を描いた場合（すなわち「固執的」な渦巻き状）、その図は不正解とする。
- 重なる二つの長方形：
 - 見本の図形と同様に、4つの角を持つ図が2つ重なり合う状態でなければならない。

- 縦長の長方形の上に横長の長方形が重ねて描かれている場合、横長の長方形の両はじが縦長の長方形の横幅より出ていれば、横長の長方形が（縦長の長方形に対して）多少左右にずれてもよいものとする。
- 同様に、縦長の長方形の上下が横長の長方形の縦幅より出ていれば、縦長の長方形が（横長の長方形に対して）多少上下にずれていてもよいものとする。
- 2つの長方形が交わっている線が図形の内側に確認できなければならない。
- 2つの長方形の大きさが多少違っていてもよいものとする。

- 菱形：

- 4つの辺の長さがおおよそ同じでなければならない（例：最も長い辺が最も短い辺の長さの1.5倍以下）。
- 上下の角度（それぞれの頂点）は鋭角（ 90° より狭い）であり、それぞれ同じ程度の大ききさで（ほぼ）対称でなければならない。
- 左右の角度は鈍角（ 90° より広い）であり、それぞれ同じ程度の大ききさで（ほぼ）対称でなければならない。
- 横よりも縦が長い図でなければならない。正方形を回転させたものは不正解である。

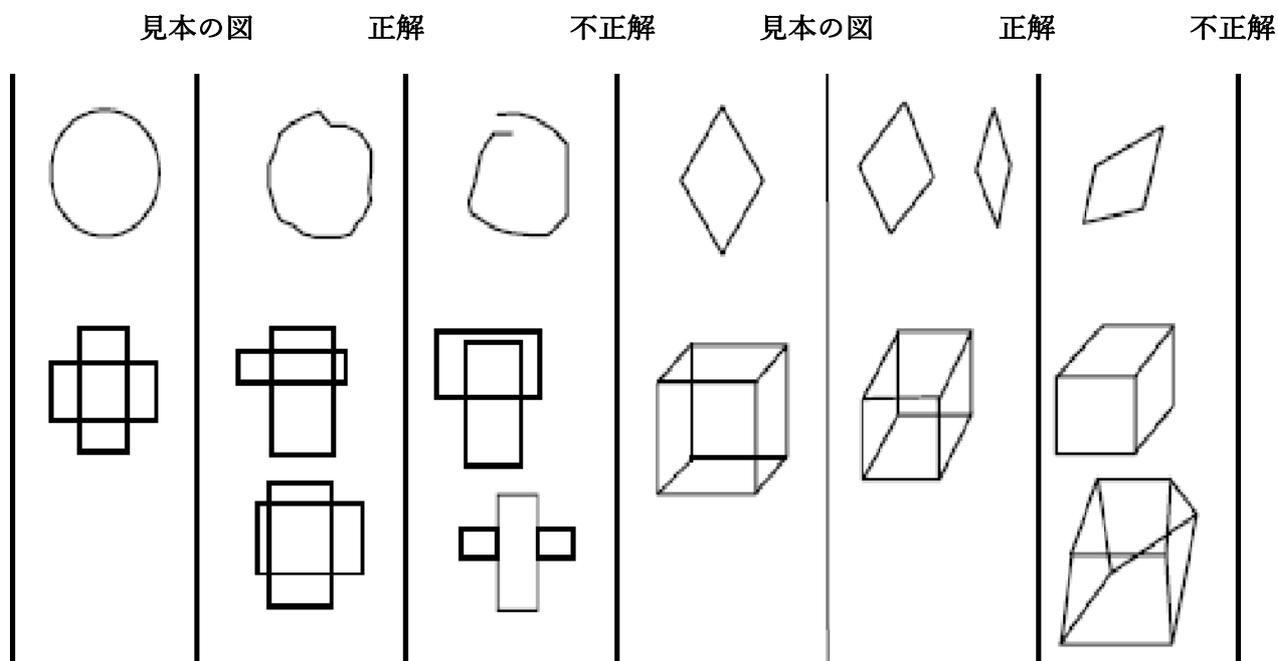
- 立方体：

- 前方の面が正しい向き（左下方向）にあり、角と角を繋ぐ内側の線が正しく描かれている（側面の線に繋がるのではなく、正しい角同士があまり隙間を開けずに繋がっている）三次元の図でなければならない。
- 対称となる面は、それぞれほぼ同じ大ききさで平行して位置していなければならない。
- これら図形の評価に関し、評価者はさまざまな被験者とビジットに対して一貫した評価を行わなければならない。

- ワークシートには以下の基準で各図の評価を行う：

- 図形が正しく描かれている。
- 図形が誤って描かれている（少なくとも図の一面/一部が誤って描かれている）、または正しく描かれているが見本の図と繋がっている（「接している」）。
- 図形のいかなる一面/一部も描こうとしない。

構成行為：採点の例



4. 単語の遅延再生

この課題では、被験者に**単語再生**課題中に提示した 10 の単語をできるだけたくさん思い出してもらい、再生に取り組む機会は一度だけ与える。この課題は**命令**と**構成行為**の検査終了後、ただちに行う。

まず、**開始時刻を 24 時間制で記録すること。**

はじめに、被験者に以下の教示を一語一句違わず与え、検査を開始する：

始めるにあたって、「数分前にこのカードに書かれた言葉をいくつか読んでいただきました。」と述べる。単語カードの冊子を指差しながら、「カードに書かれていた単語を、できるだけたくさん思い出して教えてください。」また、必要に応じて「他にはありませんか？」と促す。

被験者が何も思い出せないと言う場合、「もう少し頑張ってみてください。自信がなければ推測でも構いません」と一度だけ注意する。

注意後に被験者から何も反応がない場合、または被験者がそれ以上単語を思い出せないことが明確な場合は課題を終える。

5. 物品と指の呼称

この課題では、被験者に以下の12の物品をランダムに提示し、それらの名前を答えてもらう。提示する物品は、使用頻度の高いもの（花、ベッド、笛、鉛筆）、中程度のもの（ガラガラ、お面、はさみ、くし）、低いもの（財布、ハーモニカ、聴診器、ピンセット）である。

加えて、被験者には利き手の各指の名称を答えてもらう。

物品を用いた検査の一般的指針：

- 物品の提示
 - これらの物品は被験者の目に触れないようにし、ランダムにひとつずつ提示する。
 - 被験者に物品を提示する際は評価者がそれらを手に持って行うこと。
 - 被験者は物品に手を触れてはならない。被験者が物品を手を取ろうとしたり、触れようとした場合、「検査では私が持っていないから持てないのです」と被験者に言う。
 - 評価者は物品の使い方を被験者に説明してはならない。
- 被験者に一語一句変わらず以下の教示を与える：「今からあなたにいくつかの物をお見せします。それらの名前を答えて下さい。これは何ですか？」（物品を提示する。）
- 1つ目に続き、ランダムに物品を提示する。それぞれを提示する際に最初は次のように問うこと「これは何ですか？」あるいは「この名前は何か？」。
- 被験者が物品の用途を述べた場合、以下のように言う：「そうですね、使い道はそうです。それでは名前は何かと言いますか？」

評価者は、全ての物品と指についての反応を、「はい」または「いいえ」で記録する。

- 被験者が物品の名前について、極端に限定的な回答をした場合、例えば花に対して「カーネーション」と最初に答えた場合、「一般にこれは何と呼ばれる物ですか？」と言う。その後の被験者の回答を2度目の回答として評価する。
- 意味手掛り

- 初めに物品を提示した際、被験者の反応がない、適当に誤った回答をする、または「わかりません」という場合、評価者はその物品の意味手掛りを与え、「この名前はわかりますか？」と言って被験者にもう一度機会を与える。
- 被験者が自発的に正しく物の名前を言えない、または意味手掛りに反応がない場合、その物品の項目には不正解と記録して次の物品に進む。意味手掛りは以下を参照のこと：

物品	手掛り
花：	庭で育つ
ベッド：	寝る時に使う
笛：	吹くと音が出る
鉛筆：	字を書くために使う
ガラガラ：	赤ちゃんのおもちゃ
お面：	顔を隠す
はさみ：	紙を切る
くし：	髪の毛に使う
財布：	お金をしまう
ハーモニカ：	楽器
聴診器：	医者が心臓の音を聞くために使う
ピンセット：	物をつまむ

指の名前呼称検査の一般的指針：

- 被験者には利き手の指の名前も言ってもらう。指とは親指，人差し指，中指，薬指，小指を指す。利き手がどちらであるかは，何かを書く時どちらの手を使うかと被験者に尋ねて判断する。
- 次の教示を一字一句違わず被験者に与える：「あなたの右（左）手を机の上に置いて下さい。これからあなたの指を差していきますので，何というか教えて下さい。この指は何と言いますか？」
- 指はランダムに選び，それを指さす。
- 数での回答（例：1番目の指）は認めない。被験者が数で答えた場合，「それ以外には何と呼ばれますか？」と評価者は尋ねる。

- 被験者が指の名前を言えない、または別の指の名前を答えた場合はそれ以上尋ねない。

- 正解とする指の名前：

- ◇ 親指
- ◇ 人差し指
- ◇ 中指
- ◇ 薬指
- ◇ 小指

実施施設のある地域の方言等で物品及び指の名前について別の単語を正解として採用する場合は予め申請すること(手順書 86 ページ)、リストは Email 添付で研究事務局まで送付すること、該当しない場合はリストの送付は必要ない(word 形式のファイルを希望する場合事務局に問い合わせること)。

採点に関する指針：

物品名称課題で採点する際に最も難しいのは、被験者の文化や地域的背景が異なることを考慮した上で正しい回答の幅を決定することである。被験者の回答が規定の回答と異なる場合でも、同じ文化的背景を持つ認知障害のない人々も用いている名称であれば正解とする。

- 物品の説明、意味的または音韻性錯誤的回答は正解と認めない。不正解の例：聴診器に対して「(音を) 聴くもの」、はさみに対して「切るもの」、ピンセットに対して「突くもの」。
- 曖昧または特殊な回答の採点に関しては、各検査機関において最も妥当な判断を下すことが推奨される。ADAS-cog テストの実施に先立ち、各機関のスタッフは正解として容認できる地域特有の回答をリストアップし、評価が一律公平に行われるようにする必要がある。検査中にそれ以外の回答が出た場合、評価者はそれに対して下された判断を記録し、今後の採点判断における一貫性を保つために同回答を回答リストに追加する。これらの単語リストは予め、もしくは研究開始後でも事務局へ送付の上申請すること(申請用紙は本手順書の最後にある)。

6. 観念性行為

この課題は、被験者がよく知っているが、複雑な一連の行動を行うことができるかを判断するためのものである。

この課題は5つの要素からなり、各部分は教示中の下線箇所該当する。

一般的な封筒、便せん、鉛筆を被験者の前に置く。封筒はマーク等のない無地のものを用意する。具体的には、差出人や受取人記入欄としての罫線がなく、その他マークや文字が封筒に印刷されていないものとする。

被験者に対し、一字一句変わらず以下の教示を言う：

「ご自身に宛てて手紙を書くとします。この紙を手にとって、それを封筒に入るように折り、封筒の中に入れて下さい。そして、封をして宛先に自分の住所を書いてから、どこに切手を貼るのかを教えてください。」

一度すべての教示を言った後、下線部の教示はもう一度だけ繰り返してもよい。被験者が教示を理解していない様子を見せたり、理解に苦しんでいたりする場合に、課題の教示を繰り返す。例えば、被験者が宛先に単語をひとつだけ書いて終わったと言った場合、教示は繰り返さない。しかしながら、もし被験者が課題を理解しておらず、もう一度教示を繰り返して欲しいと言う場合、または教示を思い出そうとしている場合は教示を繰り返して良い。

教示を繰り返す場合、評価者は被験者が理解できていない部分に対してのみ教示を繰り返す。

各部分に対する教示の繰り返しは一度だけである。

評価者はすべての動作に対して、「はい」または「いいえ」の反応を記録する。

例：紙を折りたたみ、それを封筒に入れたところで被験者の動作が止まった場合、評価者は次の部分の教示を繰り返す：「それでは封筒に封をしてください。」被験者がこれを実行できない場合、次の部分の教示を繰り返す：「では自分宛に宛先を書いてみましょう。」

この課題ができないことは、記憶障害のためではなく、良く知っている、何度もやったことのある課題を行うことが困難であることを反映している必要がある。

被験者が自分の住所を覚えていないと述べた場合、評価者は「他の住所でも全部覚えているものがあれば、それを書いていただければ結構です」と言う。

上記のように言ってもやはり誤りが見られる場合、評価者は一切それを正したり手助けしたりしてはならない。被験者がその段階を正しく完了したか否かに関わらず、評価者は次の段階に移る。その後の被験者の様子を観察するためにも、被験者の間違いを正さないことが重要である。

- 例えば、被験者が手紙を正しく折りたたんだが、封筒を閉じられない方向に紙を入れた、または封筒に入れようとしない場合、評価者は「折りたたむ」作業には正解と記録し、「封筒に入れる」という作業には不正解と記録する。そして評価者は折りたたまれた紙を脇にやり、被験者を次の段階（封筒に封をする）に移るよう促す。検査の終わりに、評価者はクリップまたはホチキスで封筒の外側に折りたたまれた紙を留め、この段階が正しく行われなかったことが後の検証者に分かるようにしておく。

被験者が封をしない場合は減点対象となる。

被験者に切手を貼るべき場所に「×」と印を付けるよう教示をする。被験者が切手を貼る場所を指さすのみで「×」印をつけない場合、評価者は被験者が指さした場所として該当箇所に印をつける。この場合、評価者は自身のイニシャルと日付を記入し、「×」印が評価者によるものであることを明確にする。場所が正しければ、このような回答の仕方でも正解と見なす。

採点に関する指針：

- 紙の折りたたみ作業で正解するためには、封筒に入るように紙が折られている必要がある。被験者が自発的に修正をする場合はそれを許可する：具体的には、紙を折ってから封筒にそれが入らないことに被験者が気づき、自身でそれを修正するのであればそれを認める。この場合、紙を折りたたむ作業と封筒に入れる作業の2つとも正解とする。
- 封筒に紙を入れる作業で正解するためには、被験者は封筒の封が閉じるように紙を入れなければならない。
- 被験者自身の住所でなくとも、何かしら住所が書かれていれば正解とする。ADAS-cog のこの部分は、自身に対する見当識をテストする目的ではない。
- 住所を記入する場所と切手を貼る場所は、封筒の中のおおむね「一般的な」場所と言える部分でなくてはならない。例えば日本では：
- 正解とするためには、切手を貼る場所は封筒の前面の大体左上の角でなくてはならない。被験者が切手を貼る場所として裏面を指す場合、それは不正解とする。
- 正解とするためには、住所は前面のほぼ中心部から右よりに記入されなければならない。宛先住所を封筒の裏面や差出人が記入されるべき場所に記入した場合、それは不正解とする。
- 被験者自身の住所以外の住所を記入した場合も、郵便局員がそれを見て実際に届けることができる様式で記入した場合は正解とする。架空の住所であっても、郵便局員が配達するのに必要な様式の情報が記入されている場合は正解とする。宛先住所は都道府県、郡名または町名、字もしくは番地を必ず含まなければならない。郵便番号の記入は必須ではない。

被験者が郵便配達に番地指定を要さない地域に居住する場合は、観察した情報としてその旨を記録しておく。

7. 見当識

この課題では人物、時間、場所に対する被験者の見当識の程度を評価する。

見当識の項目構成は以下の通りである：

氏名
月
日（例、1日、2日、18日……）
年
曜日
季節
場所
時刻

評価者は被験者に上記をひとつずつ尋ねる。

腕時計、置時計、カレンダー等が被験者の目に触れないようにする。

被験者が質問を誤って理解した場合は、同じ質問をもう一度だけしてよい（例：被験者が曜日と日にちを混同した場合）。最初に質問をした際に被験者がそれを理解しなかった、または被験者が質問の繰り返しが希望する場合のみ質問を繰り返してよいが、誤った回答をした場合は繰り返さない。

被験者がひとつの質問に対して2つの回答をすることがある（例、「火曜日です…いや月曜日、違う、やっぱり火曜日だと思います。」）。この場合、評価者は次のように言って被験者に回答を決定させる（例、「ではどちらだと思いますか？」）。

採点に関する指針：

- 許容範囲：
 - 何日であるか：±1日
 - 時刻：±1時間
 - 各季節は春:春分から夏至の前日まで、夏:夏至から秋分の前日、秋:秋分から冬至の前日、冬:冬至から春分の前日までと定義する。2026年までの規定日を以下に示す。ただし、今後1週間以内にやってくる季節、もしくは過去2週間前までの季節は正解とす

る。紛らわしさを避けるためには特に季節の変わり目にビジットを設定しない事は考慮されてもよい。

西暦	季節	始まりの日	終わりの日
2022年	春	3月21日	6月20日
	夏	6月21日	9月22日
	秋	9月23日	12月21日
	冬	12月22日	3月20日
2023年	春	3月21日	6月20日
	夏	6月21日	9月22日
	秋	9月23日	12月21日
	冬	12月22日	3月19日
2024年	春	3月20日	6月20日
	夏	6月21日	9月21日
	秋	9月22日	12月20日
	冬	12月21日	3月19日
2025年	春	3月20日	6月20日
	夏	6月21日	9月22日
	秋	9月23日	12月21日
	冬	12月22日	3月19日
2026年	春	3月20日	6月20日
	夏	6月21日	9月22日
	秋	9月23日	12月21日
	冬	12月22日	3月20日
2027年	春	3月21日	6月20日
	夏	6月21日	9月22日
	秋	9月23日	12月20日
	冬	12月22日	3月19日

- 月，年，曜日，被験者の氏名は正確でなければならない。
- 被験者が旧姓を名乗っても，結婚後の氏名を名乗っても正解とする。
- 月，日，年を尋ねた際に被験者が日/月/年をまとめて回答した場合，具体的に尋ねた部分のみを評価の対象とする。例えば，月を尋ねているのに日，月，年すべてを回答した場合は，それ以外がすべて正しくとも月の部分だけを正解と記録する。例えば，検査日が2013年3月12日だとして，被

験者に今日は何月であるか尋ねるとする。仮に被験者が今日は 2011 年 3 月 16 日だと回答した場合、月の部分だけを正解とする。年と日はまた別にそれぞれ質問・評価する。

- 場所：正式名称の一部でも許容する（例：検査が行われている病院，クリニック，専門機関の正式名称の一部）。回答は，一般的過ぎてはならない。つまり「病院」，「クリニック」，「診察室」といった回答は正解としない。それぞれの機関で許容する範囲を定め，リストを作成し，その機関に属するすべての ADAS-cog 評価者がそれに則り評価することが推奨される。

8. 単語再認

この課題で被験者は 12 の単語リストを学習する機会を **1 度だけ**与えられ，リストに載っている 12 の単語と無関係な別の 12 の単語を混ぜ合わせたものから学習した 12 の単語を言い当てる機会を **1 度だけ**与えられる。

各ビジット時に単語リストと合致する単語カードを用いる。ビジット前に単語リストを決定し，正しい単語カードが用意されていることを確認する。

- ワークシートに単語毎に被験者のはい/いいえの回答を記録する。

この課題の学習部分は**単語再生**課題と似ている。被験者にそれぞれの単語を声に出して読み上げ，記憶するよう教示する。

単語を学習する前に，評価者は一語一句違わずに以下の教示を与える：

「これから，この白いカードに書かれた単語をいくつかお見せします。声に出して読んで覚えてください。」

単語カードはゆっくりと同じペースで被験者に提示する。それぞれのカードは約 2 秒間提示されることが推奨される（必須ではない）が，読むのが早い被験者の場合はペースを上げ，逆に読むのが遅い，あるいは時間を要する被験者には速度を落とす必要がある。ここで重要な点は，被験者が各カードを声に出して読み上げること，被験者を急かさないこと，そして単語カードを同じペースで提示することである。

評価者は必要に応じて「声に出して読み上げて，覚えてください」と注意してもよい。

学習中，被験者がカードを提示されてから 5 秒たっても読み上げることができない場合は，評価者がその単語を読み上げて被験者にそれを反復させる。場合によっては評価者がすべての単語を読み上げ，被験者がそれを反復する必要がある。この時，被験者が反復中に単語カードを見ていることを確認する。

被験者が単語を誤って読み上げた場合、評価者が正しい単語を読み上げてそれを被験者に反復させる。被験者が誤って単語を読み上げた場合、そのままにせず、必ず評価者が訂正すること。

学習過程の最後に評価者は被験者に対し、一語一句変わらず以下の教示を言う：「では、これから別の単語リストをお見せします。この中には、たった今お見せした単語もありますし、新しい単語も入っています。それぞれの単語について、最初にお見せしたリストの中にあった単語かどうかを答えて下さい。」

評価者は最初の単語を見せて「これは前にお見せした単語ですか？はいか、いいえでお答え下さい」または「この単語は前にお見せしましたか？」と尋ねる。

2つ目の単語についても同じように尋ねる。最初の2つの単語については上記のように尋ねることを必須とする。3番目以降の単語については「これはどうですか？」と尋ねる。

2つの単語を提示した後、被験者が課題を覚えていない場合（例：「はい」か「いいえ」で答える代わりに被験者が単語を読み上げる場合）、評価者は質問を反復または言い換え、記録用紙「教示反復あり」の欄に教示を反復する必要があった旨を記録する。

被験者がただ反射的に回答しているか（例：すべての単語に「はい」と答える、またはすべてに「いいえ」と答える）、被験者が適当に反応しているのか（例：何も単語を覚えていないのですべてに「いいえ」と答える）、不明確な場合がある。被験者が7つの単語に対して続けて同じ回答をする場合（すべてに「はい」と答えるか、すべてに「いいえ」と答える）、「はい（またはいいえ）と答えていますが、どういう意味ですか？」と被験者に尋ねる。課題を正しく説明できる場合は次の単語に進み、これを「**教示を再度言った**」とはみなさない。被験者が課題を理解していないと見受けられる場合、再度教示を言い「教示反復有」と記録する。「教示反復あり」の欄は**試験の教示に対する記憶**の項目となるため、正確に記録を取る必要がある。

被験者が「はい」か「いいえ」で答える代わりに「古い」、「新しい」または「見たことがある（ない）」と答え、被験者が何を意図してそれを言っているか評価者が明確に理解できる場合は許容する。これらについて説明は不要であり、「教示反復あり」にチェックをする必要はない。

採点に関する指針：

再度教示を言った場合は、再教示あり欄(R)にチェック(✓)をする。

被験者が以下に該当するため再度教示が必要となった際は教示反復あり欄にチェックする：

- 教示を忘れる、または提示した単語に反応がない場合

- 被験者から教示をもう一度反復するよう依頼があった場合
- 反射的に回答を反復し始めた場合（被験者が、課題が何であるか答えられなかった、またはなぜ「はい」か「いいえ」と繰り返し言っているのか理解していないことを確認した後）。

再認検査の最初の 2 つの単語では必ず教示の確認を行うため、それらについては教示を反復したと見なさない。よって、教示反復あり欄の得点は 0 から 22 の間となる。

9. 検査教示の記憶

この項目は被験者の単語再認課題の結果のみに基づいて評価する。評価者は教示反復欄を確認し、最初の 2 つの単語以外の単語について教示を反復した回数を記録する。

最初の 2 つの単語に対する教示反復は課題提示の一貫として行われるものであるため、それらは採点の対象とはならない。3 番目以降の単語において教示を反復した回数のみが 0 から 22 の間のスコアとして加算される。

- 0:なし 被験者は一度も追加の教示を必要としない
- 1:ごく軽度 1回だけ忘れる
- 2:軽度 2回思い出させる必要がある
- 3:中等度 3-4回思い出させる必要がある
- 4:やや重度 5-6回思い出させる必要がある
- 5:重度 7回以上思い出させる必要がある

10. 理解

この項目では、被験者が他者に何と話しかけられているのかを理解する能力を評価する。

評価：被験者の理解の誤りの頻度と、評価者が理解してもらう上で必要となる努力の程度（例：反復、言い換え等）を基に評価を行う。

- ▶ 命令/指示および観念運動についての被験者の能力はここでの評価に**含まない**。

具体的評価は以下の通り。

- 0:なし 理解が悪いという徴候なし
- 1:ごく軽度 1-2回の理解の間違い
- 2:軽度 3-5回の理解の間違い
- 3:中等度 数回の繰り返しや言い直しが必要である
- 4:やや重度 被験者は時々しか正しく反応しない。すなわち、「はい」／「いいえ」の質問にしか答えられない
- 5:重度 被験者は質問に対してほとんど正しく答えられない。ただし会話が貧困なためでは

ない

理解障害の例：

最初の会話の中で評価者が「今日はどうやってここに来ましたか？」と被験者に尋ねる。

それに対する被験者の回答：「今日は何曜日ですか？」

11. 喚語困難

発話能力と同じくこの項目は表現的言語，すなわち被験者が話す言語の障害程度を評価する。発話能力評価が口語コミュニケーションの質の全体的評価をするのに対し，喚語困難評価では喚語困難のみを評価する。

評価：喚語能力を評価するために，評価者は被験者が自発的発話の中で望ましい単語を選ぶことに困難があるか否かを判断する。被験者が言葉を探す上で苦勞している際にどのような手段と取るかに着目する。代償的手段として，回りくどく言う，例えば説明的に言ったり，ほとんど同じ意味の単語を用いたりすることが挙げられる（しかしこの限りではない）。

具体的評価は以下の通り。

- 0:なし 自発的発話において喚語困難の徴候なし
- 1:ごく軽度 1, 2度あるが、臨床的な意義はなし
- 2:軽度 迂遠な表現や同義語の置換が目立つ
- 3:中等度 ときどき埋め合わせることなく単語が抜ける
- 4:やや重度 しばしば埋め合わせることなく単語が抜ける
- 5:重度 ほぼすべて単語が失われる。発話は空虚で1-2語の発語のみ

➤ この評価において物品と指の呼称課題における発話は**評価しない**。

➤

喚語困難の例：

最初の会話の中で評価者が「今日はどうやってここに来ましたか？」と被験者に尋ねる。

それに対する被験者の回答：「電車に乗って，…えー…，街，この街，何という街でしたか？…そしてあれに乗って……ああいう車の，黄色の車……そしてここに来ました。」

評価：この例と検査中の会話に基づき，この被験者のスコアは以下となる：

3=中等度：ときどき埋め合わせることなく単語が抜ける

上記の例を含み検査中，この被験者は言葉を補うこともなく，言葉を見つけないということがたびたび確認された。それでも，内容語をいくつか用いていることから彼は意味を持つ発話ができ

ると見なされる。仮に言葉を発することができたとしても、それがひとつか 2 つであるような非常に重度な被験者のみ 5（重度）の評価とする。

12. 発話能力

この項目は被験者の言語コミュニケーションの質の全般的評価、つまり発話の明確さと言語によって自らの意図を伝える能力を評価する。

評価: 被験者が自身の意図を明確に伝えることができる場合、発話量と喚語困難はここでは評価しない。つまりこの項目は被験者の意思疎通における言語能力評価であり、発話手法における障害を評価するものではない。例えば、早口で不明瞭な言葉であっても評価者がそれを理解できる限りは採点の対象としない。

この項目において、コミュニケーションを取るのが非常に困難なほどに表現的言語障害が見られる被験者にのみ、高いスコア（4 から 5）を付ける。

具体的評価は以下の通り。

- 0:なし 被験者の言うことを理解するのに困難なことはない
- 1:ごく軽度 一度だけ理解できないことがある
- 2:軽度 全体の 25%未満を理解することが難しい
- 3:中等度 全体の 25-50%を理解することが難しい
- 4:やや重度 全体の 50%ほどを理解することが難しい
- 5:重度 1,2 語文、流暢ではあっても空虚な発話、あるいは発話なし

障害の例：

最初の会話の中で評価者が「今日はどうやってここに来ましたか？」と被験者に尋ねる。

「あー、あー、…中…電車…そして、あー…電車と車…そして、あー…あの黄色の車は何というのでしたか？あの、それが黄色の車がある場所…車は…でなくてはならない…車…そうです…黄色い車です…」と被験者が答えた。

評価：上記例を含む検査中の会話に基づき、この被験者のスコアは以下となる：

3=中等度：全体の 25-50%を理解することが難しい

上記例を含む検査中、考えを表現するための発話形成能力に非常に大きな障害が見られた。それでも彼の話には理解できる部分があり、内容もあるので無言ではない。

13. 数字の消去

この課題は被験者が課題に慣れるための例，すなわち練習を含むが，評価を行うのは検査用の用紙である。例を出すことは必須であり，この課題を行う際は如何なる時も例を出すこと。練習は評価の対象ではない。

数字の消去練習の教示：

被験者の前に正しい方向で練習用紙を置く。一語一句違わず以下の教示を被験者に言う：「このページの一番上に2つの数字が書かれています。1列に数字が並んでいますが、2つの数字が他の数字に混ざって書かれています。ここから始めてください」(列の初めを指さして)「このページの一番上に書かれた2つの数字と同じ数字を見つけたら、斜めに線を引いて消してください。できるだけ早くやってください。」

課題を理解していることを確認するため、間違いを正し、必要に応じて再度課題の説明を行う。

30秒経過するか，被験者が最後まで終えた時点で練習を終了する。練習課題は評価の対象ではない。

評価対象数字の消去の教示：

各ビジット用に指定された用紙を使う。各用紙にはどのビジットで使われるべきものかを示す印がある。

検査用紙をおもてにして被験者の前に提示する。一語一句違わず以下の教示を被験者に言う：「このページの一番上に2つの数字が書いてあります。この紙に数字が並んでいますが、2つの数字が他の数字に混ざって書かれています。ここから始めてください」(1列目の初めを指さして)「(1列ずつ)移動して、このページの一番上にある2つの数字と同じ数字を見つけたら、斜めに線を引いて消してください。できるだけ早くやってください。」と述べる。

消しゴムで消すことは許可しない。被験者が消そうとした場合、その部分はそのままにして他の場所を探すよう教示する。

まだ他の列が残っているにも関わらず、ある列の最後で被験者の手が止まり、まだ時間に余裕がある場合は「続けてください」と促す。

最初に間違えた番号を消してしまった場合は、「これらが消していただきたい数字です。」と言いながら、紙の上に書いてある数字を指差す。被験者が混乱したり、もしくは試験の途中で止まってしまったりした場合は、必要に応じて標準的な教示を繰り返す。45秒後に試験を中止する。

制限時間の45秒以内であれば被験者が自分で修正しても構わない。

45秒経過するか、被験者が最後の列を終えた時点で課題を終了する。

記録するのは以下の結果である

13a 数字の消去 正しく消した個数

13b 数字の消去 間違っただけ消した個数

13c 数字の消去 課題の再教示が必要であった回数

以下のような場合、ページの始めを指して被験者に課題の教示を繰り返す：

1. 課題が始まってすぐの時点で（最初の列で）、被験者が3回以上誤った番号に線を引いている場合。
2. 被験者が困っている様子で、今取り組んでいる課題を理解しているか尋ねても答えることができない場合。
3. 2つの数字のうちひとつしか消していないのが明らかな場合。

採点に関する指針：

- いくつ消すことができたかを記録する。
- 間違った数を記録する（指定以外の数字を消した数）。
- 課題を再度説明した、または課題に集中するように被験者に言った回数を記録する。

採点指針

ADAS-cog13には次の13項目があり、合計スコアは0から85の間になる。ADAS-cog13スコアは各項目での誤りの数に基づいて決定される。スコア85は最も重度な障害を指し、0は最も障害の程度が低いことを示す。各施設で採点する必要はないが参考にそれぞれの基準を示す。

ワークシートにはすべての項目における被験者の回答が記録されていなければならない：具体的には、課題における正解・不正解、単語再生と再認検査でのはい・いいえの回答が記録されている。

1. 単語再生

この課題において、被験者は使用頻度が高く、イメージを浮かべやすい10の名詞のリストを学習する機会を3度与えられる。これら10の単語は白いカードにそれぞれブロック体で書かれている。

採点：

被験者のスコアは3回の試行を通して再生することができなかった単語の平均数である。

（最高スコア=10）

スコアは小数点以下2桁で算出する。

何らかの理由で3回の試行のいずれかが終了しなかった場合、この課題は未完了と見なし項目スコアに

はデータ不足とコードを付ける。

2. 命令/指示

この課題では理解できた発話を評価する。被験者は1から5の段階を含む5つの命令を行う。

採点：

0=すべての命令において正解

1=1つの命令において不正解

2=2つの命令において不正解

3=3つの命令において不正解

4=4つの命令において不正解

5=5つすべての命令において不正解

3. 構成行為

この課題では、非常にシンプルな幾何学図形（円）から比較的難しいもの（立方体）まで、4つの図形を模写する被験者の能力を評価する。

採点：

0=4つすべて正しく描いた

1=1つの図形において不正解

2=2つの図形において不正解

3=3つの図形において不正解

4=4つの図形において不正解（ただし、最低ひとつの図形のひとつ以上の面/部分は描いた）

5=何も描けなかった、いかなる図形のいかなる部分を描く意思も確認されなかった。

4. 単語の遅延再生

これが追加される場合、ADAS-cogの最高スコアに10ポイント追加する。

この課題では被験者に**単語再生**課題中に提示した10の単語をできるだけ多く思い出してもらい、再生に取り組む機会は一度だけである。この課題は**命令と構成行為の検査終了後ただち**に行う。

採点：

思い出すことができなかった単語数をスコアとする（最高スコア=10）。

5. 物品と指の呼称

この課題では被験者に以下の12の物品をランダムに提示し、それらの名前を答えてもらう。12の物品は使用頻度が高いもの（花、ベッド、笛、鉛筆）、中程度のもの（ガラガラ鳴るおもちゃ、お面、はさみ、櫛）、低いもの（財布、ハーモニカ、聴診器、ピンセット）である。さらに被験者には利き手の各指

の名称も答えてもらう。

採点：

0=0 から 2 項目（物品と指）において不正解

1=3 から 5 項目（物品と指）において不正解

2=6 から 8 項目（物品と指）において不正解

3=9 から 11 項目（物品と指）において不正解

4=12 から 14 項目（物品と指）において不正解

5=15 から 17 項目（物品と指）において不正解

6. 観念運動

この課題は、被験者がよく知っているが、複雑な一連の行動を行うことができるかを判断するためのものである。

採点：

0=すべての要素を正確に行った

1=1つの要素を正確に行うことができなかった

2=2つの要素を正確に行うことができなかった

3=3つの要素を正確に行うことができなかった

4=4つの要素を正確に行うことができなかった

5=5つの要素を正確に行うことができなかった

7. 見当識

この課題では人物、時間、場所に対する被験者の見当識について8つの質問が与えられる。

採点：

不正解回答ごとに1ポイントのスコアを付ける（最高スコア=8）。

8. 単語再認

この課題では、被験者に12の単語リストを学習する機会が**1度だけ**与えられる。

採点：

一度の再認試行において、被験者は12の学習した（目標）単語と12の妨害単語について、合わせて24回、回答を誤る可能性がある。被験者は学習していない単語を学習した単語と間違える、またはすでに学習した単語を提示されていないと間違える可能性がある。評価者は誤った回答をすべて記録すべきではあるが（1度の試行で0から24回、誤る可能性がある）、ここでの最大不正解数は12とする。13から24の不正解を被験者が出した場合でも、スコアは12とする。モース博士によれば1回の試行で最大不正解数を12とするのは、被験者が適当に推測して誤る数の平均数が12のためである。

9. 検査教示の記憶

この項目では、単語再認課題で与えられた教示を記憶しているか否かのみを評価する。スコアは、最初の2つの単語以外の単語について何度教示が繰り返されたかに基づいて決定される。この項目の採点では ADAS-cog の他の課題や側面は考慮しない。

採点：

0=単語再認課題において教示の反復は一切なかった

1=ごく軽度：1度だけ反復した

2=軽度：2度反復した

3=中等度：3, 4度反復した

4=やや重度：5, 6度反復した

5=重度：7度以上反復した

10. 理解

この項目では被験者の発話言語の理解力を評価する。

採点：

0=なし：被験者は良く理解している。

1=ごく軽度：1度か2度の誤解があった

2=軽度：3から5回の誤解があった。

3=中等度：数回の反復と言い換えの必要があった。

4=多少重度：まれにしか正しく反応しなかった。はい・いいえで答える問題に対してのみ正しく反応した。

5=重度：被験者はほぼすべてにおいて適切に反応しなかった；発話能力の乏しさによるものではない。

11. 喚語困難

発話能力と同様に、この項目では表現的発話障害を評価するが、発話能力評価が口語コミュニケーションの質の全体的評価をするのに対し、ここでは喚語困難のみを評価する。

採点：

0=なし：自発的発話における喚語能力に問題なし

1=ごく軽度：1度か2度、しかし臨床的に意味のある喚語困難ではない

2=軽度：遠回しな表現や類語への変換が目立つ

3=中等度：補おうとすることはなく、まれに言葉が出ない

4=多少重度：補おうとすることはなく、頻繁に言葉が出ない

5=重度：ほぼ完全に言葉の内容が欠如している；発話に内容がない；発話単語は1つか2つ

12. 発話能力

この項目では被験者の言語コミュニケーションの質の全体的評価、つまり発話の明確さと言語で自身の意図を伝えることの困難さを評価する。

採点：

0=被験者は明瞭に話す，または被験者の話は理解可能

1=ごく軽度：理解性の欠如が一度だけ確認された

2=軽度：話の 25%以下に困難が確認された

3=中等度：話の 25 から 30%に困難が確認された

4=多少重度：話の 50%以上に困難が確認された

5=重度：発話単語が 1 つか 2 つ；流暢ではあるが内容に中身がない；無言

13. 数字の消去

この課題で被験者は 45 秒以内にできるだけ多く指定された 2 つの数字を，線を引いて消す。

採点： 45 秒以内に正しく線で消すことができた数字の数から，誤って線が引かれた数字の数と教示の反復回数を引いた数をスコアとする。

練習課題でのスコアは含まない。時間計測をした検査用課題のみスコア算出の対象とする。

採点は以下の様に行う。

数字の消去の素点=13a-13b-13c

13a: 正しく消した個数

13b: 間違って消した個数

13c: 課題の再教示が必要であった回数

ADAS-cog の数字の消去スコアは以下の様に採点する

素点	スコア
>23	0
18-22	1
13-17	2
9-12	3
5-8	4
0-4	5
認知機能低下のため施行できず	5

WMS-R 論理的記憶 IA, II A

Wechsler D. Wechsler Memory Scale-Revised. San Antonio: The Psychological Corporation; 1987.

施行の手順方法，採点方法はウェクスラー記憶検査(WMS-R)の検査法・手引書を参照すること。また，スクリーニング，ベースラインのビジットを除くビジットでは設定した順序に従い，遅延再生までの間にWAIS-III符号，MMSE，FCSRTを施行することになるが，遅延再生までの時間は30-40分程度とする旨を遵守すること。特に，FCSRTの施行時間は15分程度と推定されるが，論理的記憶までの時間が間に合わないことが想定される場合はFCSRTを論理的記憶II Aの後に施行しても良い。ただし，その場合はその旨を規定の場所に記載すること。採点はWMS-Rの用紙で施行した後にAMED Preclinical研究用の用紙に転記すること。WMS-Rの検査原本は各施設に保管すること。スクリーニングビジットの際にはIA, II Aの間にMMSEしかないが，その際にCDRは施行しないこと。WMS-Rの検査用紙は研究事務局に請求すること。

以下に教育年数とエントリー時の要件を示す。

AD study

		WMS-R 論理的記憶 遅延再生 点数												
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12 ≥
教育年数	0	健康高齢者, preclinical AD双方でエントリー可												
	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													
	11													
	12													
	13													
	14													
	15													
	16													
	17													
18 ≥														
小学校	健康高齢者, preclinical AD双方でエントリー可													
中学校	健康高齢者, preclinical AD双方でエントリー可													
高等学校	健康高齢者, preclinical AD双方でエントリー可													
大学校	健康高齢者, preclinical AD双方でエントリー可													
大卒以上	健康高齢者, preclinical AD双方でエントリー可													

MCI study

		WMS-R 論理的記憶 遅延再生 点数												
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12 ≥
教育年数	0	late MCI エントリー可												
	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													
	11													
	12													
	13													
	14													
	15													
	16													
	17													
18 ≥														
小学校	early MCI エントリー可													
中学校	late MCI エントリー可													
高等学校	early MCI エントリー可													
大学校	late MCI エントリー可													
大卒以上	early MCI エントリー可													

WAIS-III 符号 (90 秒)

教示，採点用紙は認知機能検査のワークシートには含まれない。それぞれの施設毎に用意する必要がある。施行の手順方法，採点方法の詳細はWAIS-III成人知能検査実施・採点の要点を参照すること。

WAIS-IIIでは制限時間は120秒だが，AMED Preclinical研究ではWAIS-Rと同じ**90秒**に設定する。た

だし、用紙は WAIS-III のものを使用する事。

採点は WAIS-III の用紙で施行し、その後 AMED Preclinical 研究用の用紙に結果を転記すること。WAIS-III の検査原本は各施設に保管すること。WAIS-III の検査用紙は研究事務局に請求すること。

Mini-Mental-State Examination (MMSE)

認知症研究では、Bracket 社より提供された MMSE を使用する。季節についての正誤は、ADAS-cog の表を参照すること。採点は MMSE の用紙で施行すること。その後結果を AMED Preclinical 研究用の用紙に転記すること。MMSE の検査原本は各施設に保管すること。

場所の見当識の質問に対して許容される正答をそれぞれの施設毎に定めた上で研究事務局にリストを送付すること。リストのひな形は手順書 85 ページにある。必ず研究開始前にリストを 1 度は作成すること。途中での追加、変更は好ましくないが、必要に応じて臨床コアと相談すること。リストは Email 添付で研究事務局まで送付すること。リストの送付は必須である。

場所の見当識の項目で「病院」や「医院」といった一般的な名称を答えた場合には、「病院の名前は何ですか?」や「医院の名前は何ですか?」と尋ね、その回答で採点する。もし、その回答が明らかな間違いである場合、「それでよいですか?」と尋ね、間違いを訂正しない場合は不正解とする。

自由及び手掛りによる選択的想起検査（直後再生課題付）FCSRT (Free and Cued Selective Reminding Test - immediate recall)

Grober et al. Memory impairment on free and cued selective reminding predicts dementia. Neurology 54:827-832, 2000, Grober et al. The Free and Cued Selective Reminding Test: evidence of psychometric adequacy. Psychology Science Quarterly, Volume 51, 2009 (3), pp. 266-282

本バッテリーは認知症研究から新たに採用した。

自由及び手掛りによる選択的想起検査はカテゴリー見本と関連した 16 の単語を記憶する能力を評価する連合学習と記憶の尺度である。単語は選択的想起方法を使用して 3 回提示され、それぞれの施行ごとの間には 20 秒の遅延がある。

施行時間

15 分間

必要な資材

自由及び手掛りによる選択的想起検査の採点用紙

それぞれのカードに 4 つの対象物の絵が含まれる 4 枚の刺激用カード（学習用紙）

指示と施行の方法

以下の様に言う。

「これから、あなたが一般的ないくつかの物の名前をどのくらい記憶できるか評価させていただきます。まず、覚えて頂きたい 16 個の物の絵をお見せします。それぞれの物は異なるカテゴリーに分類されます。たとえば、「読み物の種類」はカテゴリーです。あなたには 4 つの物を同時にお見せして、どれがどのカテゴリーに入るかを答えて頂きます。そして、私がカテゴリーを申し上げたら、その物の名前をすぐに思い出して頂きます。

その後に、私がお見せした物の名前をすべて思い出して頂く様にお願いします。あなたが思い出せなかったら、物のカテゴリーを教えますので、解ったらすぐにその名前を思い出して下さい。3 回程、物の名前を思い出していただく事になります。」

制御された学習 試験段階

学習用紙 1 を被験者の前に置き、次の様に言う。

「この用紙には 4 つの絵が描かれています、私がカテゴリーを言いましたら、それにあたる物を指差して名前を言って下さい。（カテゴリーによる手掛り）を指差してその名前を言って下さい。」

採点用紙の表に示された順番でそれぞれのカテゴリーによる手掛りについて施行する。正しく出来た

物について「識別」と「呼称」にチェックをつける。

学習用紙 1 を取り除き、次の様に言う

「私がカテゴリーを申し上げたらそれにはいる物の名前を言って下さい。(カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」

それぞれのカテゴリーによる手掛りについて採点用紙の表の順番で施行する。正しく思い出せたものについて「直後の手掛り再生」にチェックを付ける。

もし被験者が手掛りに対するものの名前を思い出せない場合、学習用紙を示して不正解だった項目だけについて次の様に言う。

「(カテゴリーによる手掛り)を指差してその名前を言って下さい。」

そして、学習用紙を取り除き、不正解だった項目について次の様に言う。

「(カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」

残りの学習用紙 2,3,4 の制御された学習の際には以下の様に直接言っても良い。

「(カテゴリーによる手掛り)を指差してその名前を言って下さい」

そして、直後の手掛り再生の段階に移行する際には直接

「(カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」と言って良い。

「この用紙には 4 つの絵が... 私がカテゴリーを...」の部分は最初の学習用紙を提示した場合にのみ言えば良い。

制御された学習 試験段階での注意事項

被験者の反応が採点用紙にない名前の場合は必ずその場で、標準的な刺激によってカテゴリー名と項目名の関連を強化する事。例えば、もし被験者が電車のことを「新幹線」といった場合は、「これは電車です」という。

施行方法の標準化のためには、被験者の反応が絵に対する妥当な代替解答であったとしても訂正しなければならない。例えば「ふくろう」の代わりに「ミミズク」、「パイプ」の代わりに「キセル」、「電車」の代わりに「汽車」、などの場合や、方言で異なる呼び方をする場合も同様である。代替解答の訂正は施行を通じて不正解の場合と同様に行わなければならない。即ち、その項目を含む学習用紙をもう一度見せる。これは制御された学習での直後の手掛り再生で間違った名前を言った場合や、後の自由または手掛り再生の際に手掛りや選択的想起を与える場合と同様である。

もし被験者が採点用紙に記載された名前よりも少し詳しい名前を言った場合は(カゴを「ピクニックのカゴ」といったり、ケーキを「ケーキとお皿」と言ったりした場合)、評価者は適切に省略して援助すること。例えば「カゴで十分です」とか「ケーキ」で結構です、等。

もし FCSRT のどの時点においても評価者がカテゴリー一名を言うつもりで間違っただけで名前の正解を伝えてしまった場合は、採点用紙にその旨を記載し、被験者には「疑わしきは罰せず」の法則に則り再生できたとして採点する事。

記憶検査

記憶検査の段階には自由再生、手掛り再生、選択的想起がそれぞれ3 施行ある。それぞれの施行は20 秒間の干渉課題で(即ち数字の逆算)分けられる。

干渉 施行1 の自由再生の前に、「これから100 から3 ずつ逆に数えて下さい」という。被験者には20 秒間数えさせる。もし被験者が教示の意味を理解できない様ならば「100 から3 ずつ引いて下さい」の様に言い換えても良い。ただし20 秒後には次に進む事。

自由再生

以下の様に言う

「先ほど覚えて頂いた物の名前をどのような順番でも良いですから思い出せるだけ全ておっしゃって下さい」

90 秒間自由再生の時間を与える。15 秒間続けて何も思い出すことが出来なければ中止する。採点用紙の2 枚目の表に自由に再生出来た項目について○をつける。自由再生できなかったものだけ手掛り再生に移行する。

手掛り再生 (必要であれば施行する)

以下の様に言う

「(カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」

それぞれの手掛りの再生に10 秒間与える。採点用紙の2 枚目の表に手掛りによって再生できた項目について該当のボックスにチェックをつける。

選択的想起

もし被験者がカテゴリーによる手掛りから正しく再生できない場合、以下の様に言う。

「(カテゴリーによる手掛り)は(項目名)でした。」

そして、選択的想起のボックスチェックを付ける。そして手掛り再生が必要な次の項目へと移動する。選択的想起による手掛り再生が終わったら施行2 へと移行する。

施行2 干渉, 自由再生, 手掛り再生, 選択的想起を繰り返す.

施行3 干渉, 自由再生, 手掛り再生を繰り返す. 施行3では選択的想起を施行する必要はない.

採点

それぞれの施行では, 手掛り無しで自由に再生できた項目の数を計算する.

これが採点用紙での自由再生の点数となる.

その上で手掛りがあった場合にのみ再生できた項目を数える. これが採点用紙で手掛り再生の点数となる.

被験者が1施行あたり獲得できる点数は16点(自由再生と手掛り再生の合計)である. 3施行での可能な最高得点は48点である.

自由及び手掛りによる選択的想起検査流れ

一般的な導入を読み, 学習用紙1を提示する.

「この用紙には4つの絵が描かれています, 私がカテゴリーを言いましたら, それにあたる物を指差して名前を言って下さい。」

「(カテゴリーによる手掛り)を指差してその名前を言って下さい。」(4つの項目全てについて同様に行い, 学習用紙を隠す)

「私がカテゴリーを申しあげたらそれにはいる物の名前を言って下さい. (カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」(4つの項目全てについて同様に行う)

もし項目が再生されなかったら直ちに学習用紙を見せ, 以下の様に言う.

「(カテゴリーによる手掛り)を指差してその名前を言って下さい。」(そして学習用紙を隠す)

「(カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」

制御された学習を, 導入部分を省略した言い方で繰り返す. 「(カテゴリーによる手掛り)を指差してその名前を言って下さい. (カテゴリーによる手掛り)は何でしたか?」と残りの学習用紙2,3,4についても施行する.

「これから100から3ずつ逆に数えて下さい」を20秒間施行する

「どのような順番でも良いですから思い出せる物を全ておっしゃって下さい」

最大 90 秒で 15 秒より長く止まったら中止する。 自由再生

自由に再生できなかった項目一つずつについて

「(カテゴリーによる手掛り)は何でしたか? 」 手掛り再生

それでも再生できなかった項目について

「(カテゴリーによる手掛り)は(項目名)でした。」 選択的想起

「これから 100 から 3 ずつ逆に数えて下さい」を 20 秒間施行する

自由再生の施行を繰り返す

「これから 100 から 3 ずつ逆に数えて下さい」を 20 秒間施行する

最後の施行では選択的想起を行わず自由再生の施行を繰り返す

この段階で WMS-R 論理的記憶の IA と II A を制限時間通りに施行するために FCSRT の順番を指定されたとおりに施行していたかを記録すること。

記録場所は全認知機能検査の最後の部分にある。

言語流暢性

Adapted from the CERAD administration and scoring procedures for Verbal Fluency (Morris et al., 1989).

説明

本検査は言語流暢性や言語に関する意味記憶を測定する為に広く使用されている。被験者は与えられた意味カテゴリーの中から異なる例を言うように指示される。正しく言えた例のうち重複を除いてその個数を採点する。

実施方法

最初の教示を読む

「物のカテゴリー（分類）を言いますので、できるだけ早く、そのカテゴリーに含まれるものの名前を言って下さい。例えば、「身につけるもの」といったら「シャツ」、「ネクタイ」、「帽子」のように言って下さい。他に身につけるものの名前を思いつきますか？」

答えが2つ出るまで20秒待つ。反応に従って○を付け、該当する教示を言う。

被験者の反応	教示
0 (反応なし)	「靴」とか「コート」は身につける物なので、「靴」とか「コート」と言っても良かったですね。
1 (正しい答えがなく、間違いが1~2個)	「・・・」は身につける物ではありません。「靴」とか「コート」は身につける物なので、「靴」とか「コート」と言っても良かったです。
2 (間違いがなく、正しい答えが1~2個)	その通りです。「靴」とか「コート」と言っても良かったです。
3 (正しい答えも間違いも1~2個)	「・・・」は正しいですが、「・・・」は身につける物ではありませんね。「靴」とか「コート」と言っても良かったです。
4 (正解が2個以上)	その通りです。

次に、動物のカテゴリーについての指示を読む

「さあ、別のカテゴリー（分類）を始めましょう。今度のカテゴリーは「動物」です。時間は1分間です。1分間に思いつくだけ「動物」の名前を言って下さい。用意は良いですか？では、はじめ」

「はじめ」と同時に、ストップウォッチをスタートさせる。実際の反応をできるだけそのまま言語流暢性「動物」のワークシートに記入する。60秒後に中止する。15秒の間反応がないか、「これ以上思いつきません」などのように「できない」と言った場合には、一度だけ「思いつくだけ動物の名前を言って下さい」と促しても良い。また、被験者が特に求めた場合は、指示やカテゴリーについて反復しても良い。

採点

採点方法：検査終了後まで採点しないこと。

言語流暢性ワークシート「動物」の総得点は、1分間で正しく言えた動物の名前のうち重複を除いた数である。繰り返して言われた言葉は侵入であっても保続として数える。侵入は、最初は侵入として計算し、二度目以降に保続として計算する。

例 「にんじん、猫、にんじん」は正解1つ、侵入1つ（にんじん）、保続1つ（二番目の、にんじん）として計算する。

正解の例 テリアなどの品種、雄、雌、発達過程などで名称が異なる動物、イヌとテリアなどの上位、下位種類の組み合わせについても両方とも正解とする。鳥類、魚類、は虫類、昆虫も正解とする。

不正解 繰り返し、架空の生き物。

トレイルメイキングテスト Trail making test

Partington JE, Leiter RG. Partington's Pathway Test. *The Psychological Service Center Bulletin*. 1949;1:9-20. Reitan RM. Validity of the Trail-Making Test as an indication of organic brain damage. *Perceptual Motor Skills*. 1958;8:271-276. ; Reitan R, Wolfson D. *The Halstead- Reitan Neuropsychological Test Battery*. Tucson: Neuropsychology Press; 1985.; Spreen O, Strauss E. *A compendium of neuropsychological tests*. New York: Oxford University Press; 1998.

説明

処理速度と遂行機能の為の試験である。パート A とパート B は視覚運動，認知知覚走査能力に依存するが，パート B は時間制限の中で，数字と文字の間を移行するため，さらにかんがりの認知柔軟性が要求される。

パート A

1 から 25 まで番号が振られた 25 個の○が A4 の紙面に分布する。被験者は番号の小さい順から大きい順に出来るだけ早く○を線をつなげることが求められる。

パート B

同様に 25 個の○からなる。パート A とは異なり，1 から 13 までの数字と「あ」から「す」までの文字からなる。被験者は数字と文字を交互に順番につなげることが求められる。(たとえば「あ」から「1」，「1」から「い」，「い」から「2」，「2」から「う」)

被験者の成績はそれぞれの○をつなげるのにかかった時間の秒数で判断される。パート A(最大 150 秒)及びパート B(最大 300 秒)にかかった時間が主要な結果である。最大時間に到達したら検査を中止する。それぞれのトレイルメイキング試験は様々な形で同様の難易度を持つようにでき，繰り返しの評価が可能である。

施行方法

パート A

パート A 例題の用紙を被験者の前に置く。教示を読み上げる。

「この紙には数字が並んでいます。鉛筆をとり，小さい数字から大きい数字へ順番に線をつなげて下さい。1から(1を指さしながら)始めて下さい。そして2(2を指さしながら)にいき，3(3を指さしながら)へとつなげて下さい。数字から数字へ動かす際には，鉛筆を紙から離さないようにして下さい。できるだけ早く動かして下さい」

もし被験者が誤りをおかした場合，その線に印を付け，間違いが起こった場所に戻って以下のように指示する。

「2番にいましたね。次の番号は何番ですか？」

被験者の答えを待ち，以下のように指示する。

「ここから続けて下さい」

例題がうまくできたら，パート A 本題へと進む。再度検査の教示を読み上げる。読み終えた時点でストップウォッチをスタートさせる。施行が完了した場合，もしくは制限時間に達したら施行を中止する。最大施行時間は 150 秒である。

パート B

パート B の例題の用紙を被験者の前に置く。以下の教示を読み上げる。

「この用紙には数字と文字が書かれています。鉛筆をとり，数字と文字を交互に順序よくつなげて下さい。1から(1を指さしながら)始めて下さい。そして「あ」(「あ」を指さしながら)にいき，次の数字2(2を指さしながら)にいき「い」(「い」を指さしながら)へと進んで下さい。数字から文字へ，文字か

ら数字へ移動する際に、鉛筆を紙から離さないようにして下さい。できるだけ早く移動して下さい」
もし被験者が誤りをおかした場合、その線に印を付け、間違いが起こった場所に戻って以下のように指示する。

「2番にいましたね。次の文字は何ですか？」

被験者の答えを待ち、以下のように指示する。

「ここから続けて下さい」

例題が正しく完了できたらパート B 本題へと進む。再度検査の教示を読み上げる。読み終えた時点でストップウォッチをスタートさせる。施行が完了した場合、もしくは制限時間に到達したら施行を中止する。最大施行時間は 300 秒である。

採点法

パートAの完了に要した時間を最大150秒まで点数として記録する。150秒以内に終了しなかった場合、点数は150である。

パートBの完了に要した時間を最大300秒まで点数として記録する。300秒以内に終了しなかった場合、点数は300である。

パートA、パートB双方において、コミッション、オミッションの間違いを以下のように記録する。

「コミッションエラー」とは、被験者が間違った順番で○をつなげた場合を指す。一つ一つの間違いをコミッションエラーとして計算する。

「オミッションエラー」とは、被験者が正しい順番で○をつなげられなかった場合を指す。これは被験者がとても遅く、制限時間内に完了しない場合にのみ計算することになる。

- まれに、数字と文字が間違っつなげられた場合、コミッションエラーおよびオミッションエラーの両方として計算される可能性がある。例えば、被験者が間違っ文字「さ」へと線を引きつつ、正しい順番の文字に戻らなかった場合が該当する。
- 被験者が明らかに目的の○に印を付けようとしたにもかかわらず、わずかに線が届かなかった場合には、オミッションエラーとして計算はしないこと。しかしながら、最初にこのような現象を観察した場合、被験者にはきちんと目的の○に線をつなぐように注意すること。
- 被験者が明らかに目的の○に鉛筆を進めている途中で他の○を触ってしまった場合、目的以外の○には触らないように警告すること。そして、生データの中にどのようなことが起きたかを記録すること。そして、コミッションエラーとしては計算しないこと。

被験者が振戦やジストニーなどの身体的問題が原因で本試験を完了できない可能性がある。そのような場合には、不完全なデータの理由として「身体的問題、その他の問題、認知、行動の問題、もしくは拒否」などと追加のコメントを記載すること。

多言語呼称テスト Multilingual naming test (MINT)

Gollan et al. *Self-ratings of spoken language dominance: A Multilingual Naming Test (MINT) and preliminary norms for young and aging Spanish-English bilinguals. Bilingualism: Language and Cognition* 15 (3), 2012, 594-615

本バッテリーは AMED Preclinical 研究より新たに採用した。フルバージョンは 68 枚の項目から構成されるが、本研究ではそのうち 32 項目の抜粋版を使用する。

教示及び合図

教示

「これから 1 枚ずつ絵をお見せします。絵に描かれている物の名前をおっしゃって下さい。もし名前をご存じでなかったり、少し考えても思い出せなかったりしたら、推測で構いませんので言ってみて下さい。その物の名前をご存じか、それともご存じないかも教えて下さい。何か質問はございますか?」

実施法

被験者とその物の名前がわからないと言わない限り、自発的な答えが出てくるまで 5-10 秒待つこと。もし被験者とその物の名前を知っていて、手掛り無しで思い出したいと希望した場合は 20 秒まで待つこと。

回答が正解の場合、「手掛りなし正答」の列に印を付ける。

正解が一つより多い物については、被験者が答えた名前に丸を付けるか、実際の反応を記載すること。

被験者の回答が不正解の場合、もしくはまわりくどい場合は、言葉通りに記載すること。もし名前がわからないといった場合は「DK」(don't know の略)と記載すること。

「自発的反応」の列には正解以外に被験者が発した名前や言葉遣いの反応を全て記載すること。

誤答反応、注意（正答を促すための刺激）と 意味/音韻手掛り

誤答反応とは

- a) 被験者とその絵が何であるか認識できないか、理解できない場合
 - b) 被験者とその絵を間違えて認識した場合
 - c) 被験者とその絵の名前に確信がない場合
 - d) 被験者とその絵の名前を知らない場合
- である

自発的反応の後にのみ許可される注意

被験者はしばしば目標以外の代替の名前を言うことがある。そのような場合、目標の名前を引き出すために与える事のできる注意は以下の 3 つである。

注意 1 もっと具体的な名前を思いつきますか? (記号 S)

注意 2 もっと一般的な名前を思いつきますか? (記号 G)

注意3 もっと別の違った名前を思いつきますか? (記号 A)

もしこれら3つの注意を使用した場合は、記録用紙の自発的反応の列に該当する記号を記載して示すこと。

例

- 1) もし被験者がまわりくどい、またはより一般的な反応をした場合(例えば、「かなとこ」について「鍛冶屋が使うもの」や「鉄を打つもの」などと言った場合)、注意1を使用して記録用紙にSと記載する。もし複数の単語によって構成される正解に対して一つの単語のみの反応をした場合もこの記号を記載すること(例えば「まるまど」について「まど」と反応した場合)。
- 2) もし被験者がより具体的な名称の反応をした場合(例えば「ピエロ」に対して「ドナルド・マクドナルド」などと答えた場合)、注意2を使用して記録用紙にはGと記載する。
- 3) もし被験者が代わりとなるが誤答とは言えない名称を答えた場合(例えば「クジラ」に対して「マッコウクジラ」と答えた場合)、注意3を使用して記録用紙にAと記載する。

その他の有用な注意

被験者は時に絵の物品を使用した際の記憶などを口にする場合がある。例えば「父がこれを持っていた」などと言う場合は、

注意4 名前を言って頂けますか?

と言う。

もし被験者が正確な名前を言えたにも関わらずその絵がそれではないと言った場合(例えば「えーと、これはブラインドではないですね?」)ヒントは答えが誤答であった場合と同様に行い

注意5 名前がわかりますか? もしくは これが何か解りますか?

と言う。

もし、被験者が正解を略して言った場合、

注意6 略さずに言うと、なんと言いますか?

と言う。

もし、被験者が絵の間違った部分に集中している場合(パレットの絵の具の部分、ドアのノッカーの部分)集中すべき部分を指差して

注意7 この全体はなんと言いますか? もしくは この部分は何と叫びますか?

と言う。

意味手掛り

被験者の反応や仕草が間違った認識、もしくは認識できていない事を示唆する場合にのみ意味手掛りを与える。(たとえば、「何か解りません」や「何をする物ですか?」といった場合)。この場合、誤答欄にチェックを付けること。もし、被験者が認識は出来ているにもかかわらず呼称できない場合には意味手掛りは与えず、音韻手掛りを与える。この場合は意味手掛りの欄には「/」を記入し、決して空欄にしないこと。

それぞれの項目に対する手掛りは記録用紙を参照する事

もし被験者が意味手掛りを与えた後に正しい絵の名前を言えた場合、記録用紙の「意味手掛り正答」の列に○をつける。それでも正答に到達できない場合、「意味手掛り正答」に×を付け、その右に誤答反応を記載する。

音韻手掛り

以下の場合に音韻手掛りを与える。

- 1) 被験者が反応はしないがその物が何であるか認識している様な場合(「何だかはわかります」、であるとか、「昔持っていました」であるとか「名前がわかりません」の場合)
- 2) 被験者が視覚認識の問題ではない誤答をした場合(例えば「のこぎり」に対して「カッター」という場合)
- 3) もし被験者が手掛りの注意の後に誤答をした場合

音韻手掛りは以下の様に与える。「この言葉は「_」という音から始まります」(記録用紙に下線で記載されている音韻を言う)

もし、被験者が音韻手掛りの後に正しい名前を言えた場合、「音韻手掛り正答」の列に○を付ける。それでも目標の名前を言えない場合、「音韻手掛り正答」に×をつけ、その右に誤答反応を記録する。

誤答が6つ以上連続した場合に中止する。つまり被験者が意味、及び音韻手掛りでも呼称できない場合。

特定の MINT 項目

#31 と #32

これらの二つの項目にはそれぞれ一つの絵しかない。以下の様に施行する。

被験者の自発的な回答を待つ

被験者が二つの項目うち一つの名前が正しく言えた場合、それを正答とし、もう一つの項目を指差して「この部分はどうでしょう、この物の名前がわかりますか?」と尋ねる。

被験者が二つのうち一つの項目にのみ集中する場合、適切に記録をして手掛りを与えつつ進め、必ずもう一つの項目にも戻る事。

WAIS-III 積木模様, 数唱, 知識

教示, 採点用紙は認知機能検査のワークシートには含まれない. それぞれの施設ごとに用意する必要がある. 施行の手順方法, 採点方法はWAIS-III成人知能検査実施・採点の要点を参照すること.

採点はWAIS-IIIの用紙で施行すること. その後にAMED Preclinical 研究用の用紙に結果を転記すること. WAIS-IIIの検査原本は各施設に保管すること.

WAIS-IIIの検査用紙は研究事務局に請求すること.

時計描画/時計模写

Goodglass, H., & Kaplan, E. (1983). *The assessment of aphasia and related disorders*. Philadelphia: Lea & Febiger.

本試験は構成能力を見る検査である。言語指示によって被験者に時計を描かせるもの、そして解答用紙の上部に描かれた時計を模写するものの二つの部分に分かれている。

時計描画

施行方法：課題を始める前に、被験者に見える位置に時計がないことを確認しておくこと。

⇒ 開始にあたり、被験者にサインペンか消しゴムのついていない鉛筆、白紙 (A4 サイズ) を渡して、次のように言う。「数字の入った時計の文字盤を描いて、11時10分を指すように2本の時計の針を描いて下さい」

被験者にフィードバックを与えずに描画させる。描いたものをかき消そうとしたり、捨てようとした場合のみ、一時中断する。

⇒ もし被験者が間違いを消去したりかき消そうとしたりした場合は、すぐにやめさせ、穏やかに、以下のように言う。「間違いを直す必要はありません」。そして紙の白い部分を指差しながら、「ここにもう一度時計を描き直して下さい。数字の入った時計の文字盤を描いて、11時10分を指すように2本の時計の針を描いて下さい」と言う。

もし被験者が混乱したり、再施行を求めたりした場合には、一度だけ再施行を許可する。再施行が行われた場合には被験者にどちらの施行がうまくできたかを示してもらい、その施行のみ採点する。もし、被験者が時計の針の指す時間について聞き直す必要がある場合には、検査者はもう一度「時計の針は、11時10分を指すようにして下さい」と繰り返してもよい。この課題には時間制限はないが、被験者が常に課題に集中して行うように施行すること。被験者が時計描画検査を遂行できない時に、被験者に過度な不安や挫折感を感じさせないために、検査者は課題の中止を臨床的に判断してもよい。

時計模写

施行方法：時計描画が終わった直後に、上部に手本の時計が描かれている用紙を示して、「この時計(手本の時計指さして)を、下の空いているところに描き写して下さい」と言う。

被験者にフィードバックを与えずに描画させる。描いたものをかき消そうとしたり、捨てようとした場合のみ、一時中断する。

⇒ もし被験者が間違いを消去したりかき消そうとしたりした場合は、すぐにやめさせ、穏やかに、やり直すように指示する。時計模写課題では、一度だけ再施行を許可する。この課題には時間制限はないが、被験者が常に課題に集中して行うように施行すること。被験者が時計描画検査を遂行できない時に、被験者に過度な不安や挫折感を感じさせないために、検査者は課題の中止を臨床的に判断してもよい。

採点方法

時計描画および時計模写で描かれた時計は同じ方法で採点される。下に示す各基準に合致しているかによって得点を与える。

1. ほぼ円形の文字盤

時計の文字盤は、特に被験者が急いで描いた場合は、わずかにゆがんでいることがある。検査者は、被験者が施行時にあまりに衝動的であったり、不注意であったりした場合には、再度教示を与え、「ゆっくりと行い、できるだけ上手に描いて下さい」と被験者にもう一度やり直させる。手の震えがあっても減点しない。被験者の中には、古い形の四角い置時計や、四角い文字盤の柱時計を描く場合がある。そのような

場合には、「普通の時計」を描くように指示する。

2. 数字の位置が対称的

数字が対称的かどうかを判定する際、検査者は、3-9、12-6、4-10など反対側に位置する数字が対称的に並んでいるかを見て評価するとよい。明らかに隙間があったり、ずれがあったりする場合には、数字は対称的ではないと判断する。

3. 数字が正しい

全ての数字が存在し、正しい順番で、かつ時計の文字盤の内側に存在しなければならない。被験者が文字盤の外側に数字を書いた場合、この項目は「不正解」である。

4. 2本の針がある

この項目で得点するには、時計の文字盤に2本の針（かつ2本のみ）が存在しなければならない。

5. 11時10分を指す2本の針が存在する

この項目で得点するには、2本の針が数字の11と2を指し、かつ短い針が11、長い針が2というように相対的に適切な長さで描かれていなければならない。

採点は下の例を参考にすること。

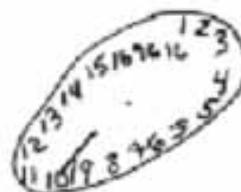
5点



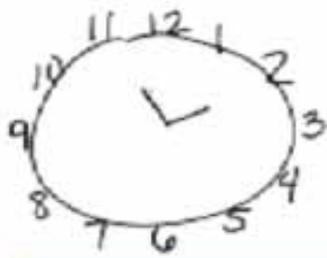
ほぼ円形の文字盤
針は2本ある
針は2本あり、11時10分を指している

3点

0点



3点



円形の文字盤
数字は対称に並んでいる
針が2本ある

3点



ほぼ円形の文字盤
正しい数字
針は2本ある

全認知機能検査を終了した時点で、全てのバッテリーが指定順通りに施行できたかを記録する事。もし、手順に逸脱があった場合は詳記する事。

老年期うつ尺度 Geriatric depression scale (GDS)

Sheikh JI, Yesavage JA, *Geriatric Depression Scale (GDS): Recent evidence and development of a shorter version. Clinical Gerontology: a Guide to Assessment and Intervention 165-173, NY: The Haworth Press, 1986.*

GDS は高齢者におけるうつ状態の症状を特定するための 15 の質問からなる短い質問集である。GDS はスタディーパートナーではなく、被験者本人に施行する事。

指示

以下の様に言う

「今度は、あなたの感情について質問します。質問のいくつかは直接当てはまらないかもしれませんが、不愉快に感じるものもあるかもしれませんが、それぞれの質問について、今日を含めた過去一週間の気持ちをもとに「はい」か「いいえ」で答えて下さい。」

網掛けの答えはうつ状態を示唆する。各種の研究での感度、特異度には幅があるが、臨床的な目的のためには 6 点以上はうつ状態を示唆し、引き続き診療を必要とする。11 点を超える場合はほとんど常にうつ状態である。

被験者が言葉を発しなくなった場合、正しい答えを指差させるようにする事。

被験者が最初の 5 つの質問に対して正しく答えられない場合、「検査者は被験者が GDS を完了できなかったと臨床的に判断した」と記載すること。

注意 うつの既往がないのにもかかわらず、被験者が GDS を完了できない場合、例外申請を行うことで試験を継続できる可能性がある。

過去一週間の間に感じたことを選ばせる事。

注意 被験者が答えを選べないと言った場合、最も近い答えを選ぶように指示する事。

機能評価質問紙法 Functional Activities Questionnaire (FAQ)

Pfeffer, RI, Kurosaki TT, Harrah CH, et al. Measurement of functional activities of older adults in the community. J Gerontol 37:323-9, 1982.

FAQ では日常生活での活動性を測定する。

施行方法

スタディーパートナーには過去 4 週間で被験者が困難であったことについて答えることが求められる。

臨床認知症評価尺度 Clinical Dementia Rating (CDR)

Morris, JC "Clinical Dementia Rating" 1993 Neurology 43: 2412-2414

CDRによって得られる点数は主要な組み入れ基準であると同時にコンバージョンによる診断の変更を決定することになる。

CDR 評価者

AMED Preclinical 研究において CDR を施行するためには CDR 評価者としての認定が必要である。CDR 評価者は 1 ビジットにおいて CDR の評価のみを施行する事が望ましいが、人員の問題で困難であるなら、他の評価の前に CDR を施行すること。可能であれば、研究全体を通じて同一の評価者が一人の被験者の CDR を施行する事が望ましい。

CDR 施行者は認定を受けなければならない。→別途手順書を参照の事

1 ビジット内に同一評価者による CDR と ADAS-cog の施行は許可されない。

施行方法

情報提供者と被験者用の半構造化されたワークシートが用意されている。認定 CDR 評価者が面談を行い、ワークシートに記入しなければならない。ボックスに記入する点数を割り当てる際の補足情報として、ワークシート内には規定された質問の他に情報を記入することができる。

一つ一つの CDR に対しては臨床コアもしくは判定委員会による調査があり、もしワークシートに記入されている情報が点数に該当しないと判断した場合、施設のコーディネーターなどの担当者と検討を加えることがある。この検討はそれぞれのボックスの点数に対して行われる。その結果、もし情報が追加された場合には、ワークシートに施設の担当者の署名と共に記載する。

調査者と施設担当者が同意できない場合には、臨床コア PI が点数を決定する。

全ての情報を使い最適な判断をする。それぞれのカテゴリーについて可能な限り独立して採点する。

認知機能の低下によって被験者が以前はできていたことができなくなったことについて一つのボックスのみに印を付ける。身体的な障害、抑うつ、人格の変化による悪化は除く。

しばしば証拠が曖昧で臨床家として最適に判断しようとする時 1(軽度)と 2(中等度)のように隣り合うボックス両方に渡ってしまう場合がある。その場合には、より大きな障害の方に記しをつけることが標準的な評価方法である。

CDR の判断と問題解決の項目において、質問 8 は「知らない町に来たとき、あなたはどのようにやって会いたい友達を見つけますか?」とある。これに対して被験者が「インターネットを使用する」と答える場合があるが、これは正解とする。

包括的 CDR 得点の決定

包括的 CDR 得点は以下の 6 つの区分の得点から得られる。

- 1 記憶
- 2 見当識
- 3 判断と問題解決
- 4 社会活動
- 5 家庭と趣味
- 6 身の回りの世話

記憶が主要区分であり、それ以外は全て副次的区分である。

CDR=包括的ボックス得点

M=記憶のボックス得点

CDR は、少なくとも 3 つの副次的区分が記憶と同じ点数であれば M と同じ点数となる。

M=0.5 の場合、その他の 3 つ以上が 1 以上であれば CDR=1 である。

M=0.5 の場合、CDR は 0 にはならない。0.5 または 1 となる。

M=0 であれば CDR=0 であるが、副次的区分で 2 つ以上が 0.5 以上であれば、CDR=0.5 となる。

3 つ以上の副次的区分が記憶得点より高いか低い場合は必ず CDR=副次的区分において記憶得点よりも数の多い方と規定する。稀な場合、3 つの副次的区分と 2 つの副次的区分が記憶の高い側と低い側の双方に配置された場合、CDR=M となる。

上記のルールでは全ての場合が網羅できない。普通ではない場合、以下の様に点数をつける

1) M の高低一方の側に副次的区分が同点で並んだ場合、記憶に最も近い点数を CDR として規定する (例えば M と他の副次的区分が 3 点、副次的区分 2 点が 2 つ、副次的区分 1 点が 2 つの場合、CDR=2 である)。

2) M と同じ点数の副次的区分が 1 つか 2 つしかない場合、M とずれた副次的区分が 2 つ以内である限りは CDR=M である。

3) M が 1 点以上の場合、CDR は 0 にはならない。その場合、副次的区分の多数が 0 であれば CDR=0.5 となる。

それぞれの認知区分について、言語、非言語機能を評価する場合には失語の有無も考慮する。全般的な認知症に比べて失語が重症である場合には、被験者の評価は全般的な認知症の程度に併せて評価されなければならない。非言語性の認知機能について証拠を示すこと。

以下の web サイトにおいて包括的 CDR が計算可能である。

<http://www.biostat.wustl.edu/~adrc/cdrpgm/index.html>

Neuropsychiatric Inventory (NPI)

Cummings JL, Mega M, Gray K, et al. *The Neuropsychiatric Inventory: comprehensive assessment of psychopathology in dementia. Neurology* 1994;44:2308-14

AMED Preclinical 研究では J-ADNI で採用していた NPI-Q ではなく、NPI を採用した。より質問項目が多くなっていることに注意すること。

I. 序論

Neuropsychiatric Inventory (以下、NPI) は認知症患者における行動・心理症状 (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia : 以下、BPSD) に関する情報を得ることを目的として 1994 年に Cummings らによって開発された、介護者に対して施行する、半構造化面接による検査法である。NPI のオリジナル版は「妄想」、「幻覚」、「興奮」、「うつ」、「不安」、「多幸」、「無関心」、「脱抑制」、「易怒性」、「異常行動」の 10 項目からなる。その後、1998 年にアルツハイマー病や他の認知症疾患で高頻度に認められるため「夜間行動」、「食行動」の 2 項目が加えられた。さらに、1998 年に D.Kaufer により、各精神症状項目の介護者に与える負担度の程度の評価として介護負担度尺度が開発され、「負担度得点」が追加された。

II. 施行法

対象

認知症で BPSD を有する者（以下、被験者）の介護者（以下、スタディーパートナー）。

検者から本検査の説明を行った後、NPI の検査用紙に従って、スタディーパートナーに面接を行い、検者が評価を行う。

NPI は可能な限り日常的に被験者と一緒に暮らしている人など、被験者の情報に精通したスタディーパートナーに実施することを基本とする。情報に精通した人がいない場合、NPI を実施することは極めて難しい。

検査実施上の注意事項

- 検査は落ち着くことができる静かな部屋で行う。
本検査の客観性を維持するために検者は全てのスタディーパートナーに同じ対応をするよう心がける。
検査はできるだけスタディーパートナーの体調が良い時に実施する。
- スタディーパートナーが疲労した場合や検査の拒否があった場合は検査を中止する。
- スタディーパートナーの状況により、途中で短い休憩を入れてもよい。
- 検査を始める前に検者は自己紹介など軽く会話をし、スタディーパートナーの緊張や場の雰囲気や和らげる。
- 検査を始める前に検査用紙に被験者の ID、検者のイニシャル、検査日、情報源の情報を記入する。
- 検査用紙に記載された設問の教示に従って検査を実施する。
-

施行時間

15～20 分程度を目安として実施する。

検査概要

NPI の 12 のカテゴリーには、主要な症状を反映した質問が用意されている。スタディーパートナーは各カテゴリーの主質問に対し、最初に「なし」か「あり」または「適応なし」かの回答を行う。もし、主質問に対して「なし」または「適応なし」であれば、次のカテゴリーに進み、もし、「あり」であれば、下位項目を実施し、該当する症状の頻度を 1-4 の 4 段階で、その重症度を 1-3 の 3 段階でそれぞれ評価する。「夜間行動」と「食行動」については NPI 得点には通常含まれず、特に検討が必要な場合のみ取り扱う。したがって、通常、点数は「夜間行動」と「食行動」以外の 10 項目の頻度と重症度の積の合計で評価され、総点は 120 点となっている。また、別途、負担度は 0-5 の 6 段階でそれぞれ評価する。

施行に必要なもの

検査用紙（NPI 検査用紙）

筆記用具（ボールペン）

施行方法

1. 「これらの質問はあなたの（夫あるいは妻，家族）の行動を評価するために作られています。質問の内容が過去4週間のうちに見られたかどうかをお答え下さい。ふつうは「あり」か「なし」かで答えることができますので、簡潔に答えて下さい。」と言い、検査を開始する。
 2. 主質問を正確に尋ね、スタディーパートナーから回答を得る。
 3. 「なし」か「あり」、または「適応なし」に○を付ける。
→「なし」または「適応なし」の場合：次のカテゴリーの主質問へ進む。
→「あり」の場合：下位項目へ進む。
 4. 「あり」の場合は下位項目を尋ね、全ての質問について「はい」または「いいえ」の回答を得て○を付ける。
 5. 下位項目で「はい」と答えた項目について、スタディーパートナーに「頻度」、「重症度」、「負担度」の順番で「はい」または「いいえ」の回答を得て、○を付ける。
- ※もし、スタディーパートナーが複数の下位項目について「はい」と回答した場合、スタディーパートナーが最も異常と判断し、特に問題とした項目について「頻度」、「重症度」、「負担度」の評価を行う。

III. 施行上の留意点

施行に当たって

- 被験者が同席しているとスタディーパートナーは被験者の行動について回答する事が困難な場合があるので、検査の実施はできる限り被験者を同席させずに行う。
- スタディーパートナーには「はい」、「いいえ」の簡潔な回答をもらう。
- スタディーパートナーが評価とは関連のない話を長々と話し始めた時には、簡潔に答えるように再指示する。
- 検者は検査用紙中の曖昧な部分について質問を受けた場合、説明を行う。また、質問を理解できていない時には説明を行い、この場合は質問の内容を別の言葉で言い換えることが望ましい。

施行上の留意点

- 下位項目について複数回答した場合、スタディーパートナーが最も異常と判断し、特に問題とした項目について頻度と重症度、負担度について回答するように求める。
- 下位項目の回答がすべて「いいえ」であった場合、その説明を求め、その項目に関連した情報であれば、その頻度、重症度、負担度の回答を求める。
- 主質問の「あり」という回答が誤りであれば、そのカテゴリーは「なし」に変更する。
- 本検査に用いる情報は被験者の行動をよく知っている配偶者などのスタディーパートナーから得るが、スタディーパートナーから情報を得る事が出来ない場合や判断が難しい場合は被験者の直接観察や被験者への質問も有用な情報とする。
- スタディーパートナーからの回答と検者の知りうる情報の間に不一致が見られる場合（例えば、「多幸」の主質問に対してスタディーパートナーは『なし』と答えたが、被験者の観察から多幸がありそうな場合）には、下位項目を実施し、より深く検討する。下位項目により主質問への回答が確認

された時には頻度、重症度、負担度についての回答を求める。

- スタディーパートナーからの回答があやふやな場合には、下位項目を実施し、より深く検討する。下位項目により主質問への回答が確認された時には頻度、重症度、負担度についての回答を求める。
- スタディーパートナーからの回答は発症以後に認められた被験者の行動の変化を答えてもらう。例えば、以前から存在し、疾患発症後も変化していないものは、たとえそれが異常であっても加点しない。一方、以前から存在するが、発症後変化したものは加点する。
- 例：疾患発症以前から、うつ傾向があり、発症後も変わらず存在する場合→加点しない
- 疾患発症以前から無為を示していたが、発症後明らかに増加した場合→加点する
- 疾患発症後に現れた被験者の行動の変化について答えるように、スタディーパートナーには時々教示を与える。
- NPI を治療に反応して生じた変化や最後に外来を訪れてからの変化を見るために使用する場合は、変化した行動について質問していることを強調するため、「新しい薬により治療を開始してから…」や「薬の量が増えてから…」などの言い回しの変更も可能である。
- 検査実施後に、記載漏れがないかどうかの確認を行う。

『適応なし』の表示について

- 重症度の高い被験者では、各カテゴリーの内容が当てはまらない場合がある。例えば、寝たきりの被験者では幻覚や興奮がみられることはあるが、異常な運動行動がみられることはない。検者や医師またはスタディーパートナーがその質問は当てはまらないと思った場合、そのカテゴリーについては「適応なし」に丸をつけて、次のカテゴリーに進む。
- スタディーパートナーが質問の意味を理解せずに回答しているなど、検者が、回答が有効でないと感じた時には、同様に「適応なし」に丸をつける。
- 〈適応なしの表記例一覧〉
- 被験者が寝たきりの場合：異常行動
- 被験者がしゃべれない、失語症である場合。妄想
- スタディーパートナーが質問の意味を理解していないと検者が判断した時

IV.採点法

下位項目のうち、スタディーパートナーが最も問題とした項目で採点する。

a) 頻度

1=週に1度未満

2=ほとんど週に1度

3=週に数回だが毎日ではない

4=1日1度以上（ほとんどずっと）

b) 重症度

1=軽度

2=中等度

3=重度

c) 負担度

この症状についてスタディーパートナーが「情動的に、あるいは心理的に」感じている負担度

0=全くなし

1=ごく軽度：ごく軽度に負担は感じるが、処理するのに問題はない

2=軽度：それほど大きな負担ではないため、通常は大きな問題もなく処理できる

3=中等度：かなり負担で、時に処理するのが難しい

4=重度：非常に負担で、処理するのが難しい

5=非常に重度あるいは極度：極度に負担で、処理できない

*「負担度」は、今評価した行動がどの程度、情動的に、あるいは心理的に負担となっているかを尋ねる。

NPI 得点の算出

カテゴリーごとに頻度×重症度を算出する。問1～問10まで算出した得点の合計をNPI得点とする。問11「夜間行動」、問12「食行動」はNPI得点に含めない。

負担度得点の算出

カテゴリーの負担度の合計を負担度得点とする。

*NPI得点には加算しない。

V. 標準的基準と信頼性

標準的基準

対象は1993年12月から1996年7月までに兵庫県立高齢者脳機能研究センターに検査入院した認知症患者174名で、男41名、女133名、平均年齢72.6（標準偏差7.7、範囲49.88）歳である。全例1ヵ月程度の短期入院のうえで検査を行った。

疾患の内訳はアルツハイマー病140名、前頭側頭葉型認知症12名、血管性認知症19名、正常圧水頭症3名である。アルツハイマー病の診断にはNINCDS-ADRDAの診断基準を、前頭側頭葉型認知症の診断にはLund and Manchester groupの診断基準を、血管性認知症の診断にはNINDS-AIRENの診断基準をそれぞれ用いた。正常圧水頭症の診断は、歩行障害、失禁、認知機能障害を呈し、MRI上水頭症を認め、かつ腰椎穿刺による髄液排除で明らかな改善を認めたものとした。これらの診断に当たっては、前例に頭部MRIおよび頭頸部MRAを、一部の症例を除いてPETを用いた局所脳ブドウ糖代謝あるいは局所脳循環・酸素代謝測定、あるいはSPECTによる局所脳循環検査を施行し、その結果を考慮した。Table1にその結果を示す。

Table 1 174名の認知症患者におけるNPI下位得点

頻度		重症度	
平均	(SD ; range)	平均	(SD ; range)

妄想	1.36	(1.72 ; 0-4)	1.01	(1.23 ; 0-3)
幻覚	0.26	(0.94 ; 0-4)	0.20	(0.68 ; 0-3)
興奮	0.41	(1.11 ; 0-4)	0.25	(0.65 ; 0-3)
うつ	0.75	(1.17 ; 0-4)	0.49	(0.70 ; 0-3)
不安	0.69	(1.45 ; 0-4)	0.32	(0.70 ; 0-3)
多幸	0.20	(0.81 ; 0-4)	0.07	(0.28 ; 0-3)
無関心	3.35	(1.46 ; 0-4)	1.13	(0.66 ; 0-3)
脱抑制	0.47	(1.13 ; 0-4)	0.30	(0.69 ; 0-3)
易怒性	0.87	(1.50 ; 0-4)	0.43	(0.72 ; 0-3)
異常行動	2.16	(1.91 ; 0-4)	0.69	(0.69 ; 0-3)

信頼性

検査・再検査信頼性は全患者の内 24 名を無作為に選択し、約 1 ヶ月の期間において別の医師（精神科医師）によって同じ介護者に対して NPI を再施行し、2 回の結果に対し、原著における成績と比較できるように、各項目の得点間の相関関係を求めることで検討した。2 回の検査間に投薬の変更は行っていない。検査・再検査信頼性を検討した 24 名は男 7 名、女 17 名、平均年齢 73.0（標準偏差 7.2、範囲 54-87）歳である。疾患の内訳はアルツハイマー病 19 名、前頭側頭葉型認知症 2 名、血管性認知症 2 名、正常圧水頭症 1 名である。

検査・再検査信頼性の検討の結果、本研究における検者間のそれぞれの項目での得点はすべて有意な相関を示した（Table2）。原著で示されているのと同様に興奮、脱抑制の頻度に関する信頼性は比較的低かった。また、原著の成績と比べ不安の強さに関してはやや上回り、幻覚の頻度、異常行動の強さに関しては下回っていたが、全体として原著における成績と大差なかった。以上のことから、本邦訳した日本語版 NPI は原版と同等の信頼性を有していると考えられる。

Table 2 検査・再検査信頼性結果（Pearson correlation coefficients）Frequency Severity

	Frequency		Severity	
	Present study	Original	Present study	Original
妄想	0.84 (p<0.001)	0.92	0.91 (p<0.001)	0.8
幻覚	0.60 (p<0.001)	0.98	0.84 (p<0.001)	1
興奮	0.50 (p<0.05)	0.51	0.84 (p<0.001)	0.75
うつ	0.86 (p<0.001)	0.79	0.86 (p<0.001)	0.84
不安	0.79 (p<0.001)	0.71	0.95 (p<0.001)	0.51
多幸	1.00 (p<0.001)	—	1.00 (p<0.001)	—

無関心	0.82 (p<0.001)	0.74	0.69 (p<0.001)	0.68
脱抑制	0.72 (p<0.001)	0.97	0.78 (p<0.001)	0.87
易怒性	0.45 (p<0.05)	0.53	0.69 (p<0.001)	0.51
異常行動	0.82 (p<0.001)	0.78	0.57 (p<0.01)	0.77

VI.参考文献

1. Cummings JL, Mega M, Gray K, et al : The Neuropsychiatric Inventory : Comprehensive assessment of psychopathology in dementia. *Neurology* 44:2308-2314, 1994.
2. Kaufer DI, Cummings JL, Ketchel P, et al: Validation of the NPI-Q, a brief clinical form of the Neuropsychiatric Inventory. *The Journal of Neuropsychiatry & Clinical Neurosciences*.12 :233-239, 2000.
3. 博野信次, 森悦朝, 池尻義隆, 他 : 日本語版 Neuropsychiatric Inventory—痴呆の精神症状評価法の有用性の検討—. *脳と神経* 49 (3) :266-271,1997.

MMSE 場所に関する見当識の質問に対する許容される正答リスト
送付は研究開始前に必須です。

施設正式名: _____

記入者所属: _____

記入者氏名: _____

送信日(西暦記入): _____

今、私たちはどこにいますか?	許容される正答
何地方ですか?	
何県ですか?	
何市(区)ですか?	
この建物の名前あるいは種類は何ですか?	
ここは何階ですか(部屋の種類あるいは番地)?	

ADAS-cog 指と物品の呼称 許容される正答リスト
 該当する場合にのみ送付下さい。

施設正式名: _____

記入者所属: _____

記入者氏名: _____

送信日(西暦記入): _____

規定の正答	方言などで許容される正答
親指	
人差し指	
中指	
薬指	
小指	

物品	方言などで許容される正答
花	
ベッド	
笛	
鉛筆	
ガラガラ	
お面	
はさみ	
くし	
財布	
ハーモニカ	
聴診器	
ピンセット	

CS スクエア入力及びワークシート送付に関する補足 (2017.1.19)

◆CS スクエア入力上の注意点◆

システム上の問題により、MINT のワークシートと CS スクエアの入力画面に齟齬が生じております。

CS スクエアでは、1 ヲ所にだけしかチェックが入れられない設定になっております。そのため、最後の回答にのみチェックをするようお願い致します。

下記の記入例をご参照ください。

【CTW の記入例】

	単語(下線:音韻手掛かり)(意味手掛かり)	自発的反応	手掛かりなし 正答(○ ×)	意味手掛かり		音韻手掛かり	
				正答(○×)	誤答反応	正答(○ ×)	誤答反応
9	ねじ, もくねじ(釘に似ているが、回転させながら木や壁にさすもの)	ねじ	○				
20	マフラー, スカーフ, えりまき(首にまくもの)	毛糸	×	○			
21	いど(水を汲むためのもの)	水を汲むところ	×			○	
22	いちとり(ほこりやゴミを集めるためのもの)	DK	×	×	DK	×	DK

【CS スクエアの記入例】

単語	自発的反応	手掛りなし正答	意味手掛り		音素手掛り	
			正答	誤答	正答	誤答
19 ねじ, もくねじ (釘に似ているが、回転させながら木や壁にさすもの)	ねじ	●				
20 マフラー, スカーフ, えりまき(首にまくもの)	毛糸		●			
21 いど (水を汲むためのもの)	水を汲むもの				●	
22 ちりとり (ほこりやゴミを集めるためのもの)	DK					●

◆ (重要) 認知機能検査ワークシート原本送付のお願い◆

MMSE、WMS-R、WAIS-IIIでは、CTW のほかに事務局から配布される市販の別紙ワークシート（下記参照）を使用して実施します。検査に使用した記載済みのワークシートは、コピーしてCTW と一緒にス

キャンし、一つのCTWファイルとしてCSスクエア上にアップロードしてください（CTWの最後のページ以降にワークシートが続く形でスキャンしてください）。これらのファイルは、認知機能的検査実施手順のチェックのために用いられます。

- ・ WMS-R 記録用紙 論理的記憶 I A (5 ページ)
- ・ WMS-R 記録用紙 論理的記憶 II A (9 ページ)
- ・ MMSE 検査用紙の全ページ (5 ページ)
- ・ WAIS-IIIワークブック 符号 (2 ページ目)
- ・ WAIS-III 積木模様 (4 ページ目)
- ・ WAIS-III 知識 (6～7 ページ目)



⚠ ADASの「観念行為」で使用した封筒など、個人情報が記載されたものにつきましては、スキャンせずに施設保管のみお願い致します。

ADCS-MCI-ADL

ADC-日常生活動作（ADL）質問票

翻訳 東京都健康長寿医療センター 脳神経内科 井原涼子、岩田 淳

注意：

- (1) {P}とは参加者を指し、スタディパートナーに ADL の質問をするたびに、参加者の名前またはスタディパートナーとの関係を表す言葉に置き換えてください。
- (2) この ADL 質問票は、直接または電話によるスタディパートナーへのインタビュー形式で行われなければなりません。この用紙をスタディパートナーが自分で記入するように渡してはなりません。

スタディパートナーに対して、以下の指示を読み上げてください：

これから、{P}が過去 4 週間に行ったと思われるいくつかの日常生活の活動について伺います。もしそのような機会があればこのようにしたであろうということについてではなく、{P} の実際の能力について教えてください。{P}が試みたそれぞれの活動について、いくつかの表現の中から、最も普段の能力に合うものを選んでください。

いくつかの活動については、{P}が自立して行ったか、見守りや手助けを借りて行ったかをお尋ねします。これらの言葉の定義を説明しましょう：

「**自立**」とは、{P}が助けなしで活動を完了したことを意味します。もし{P}が活動を始めるときに注意されたり、促されたり、あるいは活動している間に少し促されたとしても、自立していると考えます。

「**見守りを要する**」とは、{P}が活動している間に言葉による注意や指示を必要としたことを意味します。

「**手助けを要する**」とは、{P}が活動を行うために他の人からある程度の身体的な手助けを受けたことを意味します。

評価者への教示：

もし、スタディパートナーが、{P}は過去 4 週間にその課題を行う機会は無かった（例えば、{P}の居場所には電話がなかったため、電話をかけることができなかった）と述べた場合、その回答は「いいえ」として記録すべきである。

もしスタディパートナーの回答または質問票のいずれかが不明確な場合は、症例報告用紙に問題点の詳細を記入すること。

特定の ADL 項目に関する質問については、ADL 回答用紙を参照のこと。

情報源： 参加者の来院

電話

1. 過去4週間、{P}は自宅で身の回りの物を見つけることがたいていできましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、普段の能力について最もあてはまるものはどれですか？

3 見守りも手助けも必要なし

2 見守りを必要とした

1 手助けを必要とした

2. 過去4週間、{P}はその日最初に着る服を選びましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、普段の能力について最もあてはまるものはどれですか？

3 見守りも手助けも必要なし

2 見守りを必要とした

1 手助けを必要とした

3. 身体的に服を着ることについて、過去4週間における普段の能力について、最もよく表すのはどれですか：(1つに印を付けること)

4 見守りや身体的な手助けなしに、完全に着替えた

3 身体的な手助けを必要とせず、見守りで完全に着替えた

2 ボタン、ファスナー、靴ひもにのみ身体的な手助けが必要だった

1 ファスナーやボタンが不要な服の場合は、身体的な手助けなしで服を着た

0 服の種類にかかわらず、常に手助けが必要だった

4. 過去4週間、{P}はリビングや客間や居間の掃除をしましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、普段の能力について最もあてはまるものはどれですか？

2 見守りも手助けも必要なし

1 見守りを必要とした

0 手助けを必要とした

5. 過去4週間、{P}は銀行口座の収支を合わせたり、口座からの引き落としのために残高を合わせたりしましたか？

はい　　いいえ　　わからない

「はい」の場合、普段の能力について最もあてはまるものはどれですか？

- 2 見守りも手助けも必要なし
- 1 見守りを必要とした
- 0 手助けを必要とした

6. 過去4週間、{P}は何かを書きましたか？

注意：もし{P}が促されたり助けを借りたりして何かを書いたとしても、回答は「はい」となる。

はい　　いいえ　　わからない

「はい」の場合、{P}が書いた最も複雑なことがらについて、最もよく表すのはどれですか：

- 2 他の人が理解できる手紙や長いメモ
- 1 他の人が理解できる短いメモまたはメッセージ
- 0 本人の署名または名前

7. 過去4週間、{P}は洗濯をしましたか？

はい　　いいえ　　わからない

「はい」の場合、普段の能力について最もあてはまるものはどれですか？

- 2 見守りも手助けも必要なし
- 1 見守りを必要とした
- 0 手助けを必要とした

8. 過去4週間において、{P}は、親戚、病院、美容院など、他の人との約束や待ち合わせを守りましたか？

はい　　いいえ　　わからない

「はい」の場合、約束に対する事前の認識を最もよく表すのはどれですか

- 3 メモや声かけで思い出させなくても、たいてい覚えていた
- 2 たいてい、メモ、日記やカレンダーを見て覚えていた
- 1 たいてい、当日声かけで思い出した
- 0 たいてい、当日声かけをしても思い出さなかった

9. 過去4週間{P}は電話を使いましたか？

はい　　いいえ　　わからない

「はい」の場合、最も高いレベルの能力について、最もよく表すのはどれですか

- 4 電話帳などで番号を調べてから、あるいは電話番号案内に聞いて電話をかけた
- 3 電話帳やリストを参照せずに、よく知っている番号にのみ電話をかけた

- 2 電話帳やリストを参照して、よく知っている番号にのみ電話をかけた
- 1 電話に出たが、自分では電話をかけなかった
- 0 電話には出なかったが、電話をわたされると話した

10. 過去4週間、{P}は自宅で自分のために食事や軽食を作りましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、最も高いレベルの能力について、最もよく表すのはどれですか

- 3 ほとんど、あるいは全く手助けなしで調理したか、電子レンジで温めた
- 2 幅広く助けてもらって調理したか、電子レンジで温めた
- 1 料理をせず、電子レンジの使用もなく、食事や軽食のために材料を混ぜたり、組み合わせたりした（例：サンドイッチを作った）
- 0 混ぜたり調理したりせずに、自分自身で食べ物を手に入れた

11. 過去4週間、{P}は自宅の外に出かけ（または旅行）しましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、最も高いレベルの能力について、最もよく表すのはどれですか

- 3 一人で家から1,2キロ以上離れた場所に出かけた
- 2 一人で出かけたが、自宅から1,2キロ以内にとどまった
- 1 行き先に関係なく、付き添いや見守ってもらってのみ、出かけた
- 0 行き先に関係なく、身体的な手助けがある時だけ、出かけた

12. 過去4週間、{P}は時事問題や最近の出来事について話しましたか？(これは過去1ヶ月間に起こった出来事や事件を意味する。)

はい いいえ わからない

「はい」の場合、12a, 12b, 12c, 12dを質問する

12a) {P}は地域、国、もしくは国際的な出来事(スポーツも含む)について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

12b) {P}は家庭外での家族、友人や近所の人に関わる出来事について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

12c) {P}は自分が参加したり見たりした家庭内での出来事について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

12d) {P}は何回も同じことを言ったり、同じ質問を繰り返し尋ねたりすることなく会話しましたか？

1 はい

0 いいえ

13. 過去4週間、{P}は雑誌、新聞や本を1回に5分以上読みましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、13a, 13b, 13cを質問する

13a) {P}は、たいてい読むものを自分で選んだり、求めたりしましたか？

1 はい

0 いいえ

13b) {P}は、たいてい読書中または読書後間もなく(1時間以内)読んだ内容について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

13c) {P}は、たいてい読んでから1~24時間後に読んだ内容について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

14. 過去 4 週間、{P}はテレビを見ましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合、14a, 14b, 14c を質問する

14a.) {P}は、たいてい色々な番組や自分の好きな番組を選んだり見たいと言ったりしましたか？

1 はい

0 いいえ

14b. {P}はたいてい、番組を見ながらその内容について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

14c) {P}はたいてい、番組視聴後 1 日 (24 時間) 以内に番組の内容について話しましたか？

1 はい

0 いいえ

15. 過去 4 週間、{P}は店に買い物に行きましたか？

はい いいえ わからない

「はい」の場合 15a, 15b を質問する

15a) {P}はたいてい、見守りや身体的な手助けなしに正しい品物を選びましたか？

1 はい

0 いいえ

15b) {P}はたいてい、自分で支払いをしましたか？

1 はい

0 いいえ

16. 過去4週間、{P}は一人きりにされたことがありますか？

はい いいえ わからない

はいの場合、16a, 16b, 16cを質問する

16a) {P}は、日中自宅から離れた場所で、15分以上一人きりでいましたか？

1 はい

0 いいえ

16b) {P}は、日中1時間以上、自宅に一人きりでいましたか？

1 はい

0 いいえ

16c) {P}は、日中1時間未満、自宅に一人きりでいましたか？

1 はい

0 いいえ

17. 過去4週間、{P}は家事をするための家電製品や機器を使用しましたか？(テレビは含まない)

はい いいえ わからない

はいの場合、使用したものにチェックをつける

例：洗濯機、乾燥機、掃除機、食器洗い機、電動工具、トースター、レンジフード、電子レンジ、フードプロセッサー、その他(_____)。

はいの場合、17aを質問する

17a) 1,2 つの最もよく使用した家電製品や機器について、**普段の使用**について最もよく表すものはどれですか？

4 手助けなしで、必要な操作すべてを行った

3 手助けなしで、オン・オフのみの操作をした

2 見守り下で(たとえば指示のもとで)、身体的な手助けなしで操作をした

1 手助けしてもらって操作した

注意：コンセントに差し込んでスイッチを入れるは3、スイッチを入れて音量や出力を調整するは4

18. 過去4週間、{P}は娯楽、趣味やゲームをしましたか？

はい いいえ わからない

はいの場合、該当するものにチェックをつける

例：カードゲームやボードゲーム（ブリッジ、将棋、囲碁を含む）、ビンゴ、クロスワード、美術、楽器、編み物、裁縫、読書、ガーデニング、ゴルフ、テニス、工作、釣り、その他(_____)。

注意：この設問では、ウォーキングは娯楽・趣味に含まない。

はいの場合、18a, 18b を質問する：

18a) {P}は、上記のどれか一つでも、見守りや手助けを必要としましたか？

3 見守りも手助けも必要なし

2 見守りを必要とした

1 手助けを必要とした

18b) 娯楽、趣味やゲームで出来なくなったことを記載すること

ADCS-ADL

Alzheimer's Disease Coordinating study (ADCS) – 日常生活動作 (ADL) 質問票

翻訳 東京都健康長寿医療センター 脳神経内科 井原 涼子、岩田 淳

A. 総論

日常生活動作(以下 ADL)、特に手段的 ADL の実施方法は多種多様であり、臨床試験で必要とされる標準的な方法でスタディパートナーから ADL の評価を得ることは困難である。ADCS-ADL 質問票では、ばらつきを少なくするために、それぞれの活動について詳細に説明を提供し、スタディパートナーに観察した動作や行動を述べるよう求める。スタディパートナーは過去 4 週間に焦点を当てよう求められる。スタディパートナーは、参加者が実際に行ったことに焦点を当てなければならない、機会があればできたかもしれないことを推定してはならない。スタディパートナーは参加者の思考過程や意図を解釈しようとしてはならない。スタディパートナーが過去 4 週間に観察した行動や行為に集中し続けられるように、問題となっている ADL に関して参加者が行ったことの例を挙げてもらうことは有用であろう。

B. ADCS-ADL 質問票の実施

{P}は参加者を意味する。ADL の質問を行うたびに、参加者の名前またはスタディパートナーとの関係を示す呼び名に置きかえること。

この ADL 質問票は、直接または電話によるスタディパートナーへのインタビュー形式で行われなければならない。この書式をスタディパートナーが自分で記入するように渡してはならない。

C. 質問形式

■ 質問 1～5

→スタディパートナーは、各基本的 ADL (質問 1～5) に答えるためには、参加者について十分に知っていなければならない、そして最適な回答を選択しなければならない。

■ 質問 6a、6b、および 7～23

→質問の回答は、ADL 遂行能力の最も高い(最も自立している)レベルから始まり、最も低いレベルで終わるように、階層的に配置されている。

→それぞれの質問には「わからない」という選択肢もある。スタディパートナーが4つ以上「わからない」という回答をした場合は、別のスタディパートナーを探すことも考慮されたい。

■ 質問 8、18、19

→これらの質問は、主質問とそれに続く下位質問で構成されている。主質問の最初の回答は「はい」、「いいえ」、「わからない」のいずれかである。

→主質問に対する回答が「いいえ」または「わからない」の場合、下位質問は無視すること。

→主質問に対する回答が「はい」の場合、それぞれの下位質問を行い、スタディパートナーは「はい」「いいえ」「わからない」のいずれかを選択すること。

D. 「自立」、「見守りを要する」、「手助けを要する」の標準化

多くの ADL では、質問の回答の階層は、参加者が ADL を行うために、スタディパートナー、介護者、またはその他の人によって、どの程度多くの介入を必要とするかによって決まる。

自立 = 参加者は、身体的な助けを借りずに ADL を完了した。せいぜい、ADL を行う間に課題をこなすための注意や簡潔な促しを受ける程度で行うことができた。

見守りを要する = 参加者が ADL を行う際には口頭での注意や指示が必要であり、そのために介護者またはスタディパートナーが時間を使う必要があった。

手助けを要する = ADL を行うために、参加者は他の人からある程度の身体的な手助けを受けた。

E. 「普段の」ADL 遂行能力

参加者の ADL 遂行能力は、日ごとに異なる可能性がある。参加者があるレベルで ADL を行うこともあれば、別のレベルで ADL を行うこともあるとスタディパートナーが答えた場合、質問者は最も通常に受け入れられるレベルや記載内容を選択するようスタディパートナーに求めるべきである。

能力のレベルが高いか低いかを決定する時には、参加者がそのレベルでかなり一貫して実施している限りにおいて、高い方を選択する。

F. 質問票の特定の質問に関する注釈

1. **食事をする**：自明である。
2. **歩行**：移動することであり、歩くことに限らない。参加者が歩行器または車椅子を使用している場合、家の外では介助なしで移動できる場合、参加者は自立しているとみなされる。
3. **トイレでの排便・排尿**：自明である。
4. **入浴**：軽度の身体的な手助けには、洗髪、髪や体を拭く手伝い、お湯を流す、お湯の温度を調節するなどの動作が含まれる。より広範囲な手助けが必要な場合は、「完全に入浴させてもらう必要がある」とする。
5. **身だしなみ**：足の爪切りは、認知機能が正常な高齢者であっても、身体的な困難さが身だしなみの妨げになる可能性があるため、評価しない。
- 6a. **服を選ぶ**：参加者の積極的な参加を意味し、身体的に服を着ることとは別に評価される。これには、実際に衣服を選ぶこと、または希望や好みについて介護者に意見を表現することが含まれる。
- 6a. **身体的に服を着る**：「ボタン、ファスナー、靴ひもについては助けを借りずに着ることができた」の選択肢は、介護者（またはスタディパートナー）の手助けをわずかに必要とするのみであった、すなわち参加者はある程度ボタンやファスナー、紐を結ぶことができることを意味する。「ファスナーやボタンが不要な服であれば、手助けなく着ることができた」の選択肢は、ファスナーやボタンがついた衣服をあきらめたことを意味する。マジックテープはファスナーとして扱う。
7. **電話の使用**：注意喚起や見守りは認められるが、手助けは認められない。例えば、参加者が電話番号案内にかけるよう促されたり、電話番号を教えられたりしても、自立しているとみなされる。参加者が電話をかけるために介護者（またはスタディパートナー）が電話番号を指示しなければならない場合は、「電話に出たが、電話をかけられなかった」の選択肢を選択する。ボタンを 1 つ押すだけで、あらかじめ決められた番号に自動的にダイヤルするように電話機が設定されている場合、これは「あら

はじめ登録された番号」とみなされ、「電話帳、リスト、またはあらかじめ登録された番号を使用して、よく知っている番号にのみ電話をかけた」の選択肢を選択すべきである。

8. **テレビ**：参加者がテレビ画面の前に座っていても、見ているものを意識したり思い出したりすることがない場合は、すべての下位質問に「いいえ」と答えるべきである。下位質問 8b の「{P}は普段、番組を見ながら内容について話していませんか？」はかなり広く解釈されるべきで、参加者自身から会話を始める必要はないが、「番組は楽しかった？」のような質問に対して、「はい」か「いいえ」以上の答えができることを求めるべきである。
9. **会話**：「注意を払う」とは、会話中にその場において、一見して会話に注意を向けている以上の状態を意味する。つまり、言葉を発して参加することを意味する。身振り手振りを使った参加は、それに意味があるかどうかの判断が難しいため、評価には入れない。
10. **テーブルの食器を片付ける**：参加者はテーブル全体を片付ける必要はないが、有益な貢献ができる程度に参加すべきである。皿や椀以外のもの（コップや箸など）を片付けることもこれに含まれる。
11. **身の回りの物を探し出す**：衣服、眼鏡、財布、鍵などの例を挙げるとよい。
12. **飲み物**：「身体的な助けを必要としない」には、指示や注意の後に飲み物を取りに行ったり、用意したりすることも含まれる。
13. **食事または軽食を用意する**：参加者が調理または電子レンジで温めるために見守りを必要としたが、身体的な手助けなしで機能した場合は、「ほとんどまたは全く手助けなしで調理、もしくは電子レンジで温めた」の選択肢を選ぶ。調理せずに材料を混ぜたり組み合わせたりすることも、見守りに含まれる。参加者が他の誰かによってあらかじめ調理された食べ物を見つけて食べる場合には、「混ぜたり調理したりせずに、自分自身で食べ物を手に入れた」の選択肢が適切であろう。
14. **ゴミやポイ捨ての片付け**：台所で出る量の多い家庭ゴミだけでなく、あらゆるゴミを適切な容器に片付けることを指す。
15. **移動**：1、2 キロという距離は恣意的ではあるが、自宅が見えない場所へ移動すること意味する。この質問は、参加者の地誌的見当識が維持され、道に迷わず、家の外に出かける能力を表すことを意図している。参加者が歩いたか、車を運転したか、公共交通機関を利用したか、あるいは車に乗せてもらったかについては問わない。
- 16a/b. **買い物**：買い物は複雑な活動である。この質問は、最も重要な二つの側面に焦点を当てる。すなわち品物の選択と支払いである。参加者があらかじめ書かれたリストと他の誰かに渡されたお金を持って買い物に行ったとして、参加者がリストの品目を選んだ場合には、「見守りや身体的な手助けなし」の選択肢が選択されるべきである。品物の支払いには、現金、小切手、またはクレジットカードを使用することができるが、問題は見守りや手助けが必要かどうかである。
17. **約束または待ち合わせ**：主に記憶の評価が目的である。「約束または待ち合わせ」は自由に解釈することができ、事前に計画された会合、お出かけ、小旅行など、ほとんどあらゆるものが含まれる。誰が約束の予定を立てたか、参加者が一人で出かけたか、誰かと一緒に出かけたかについては問わない。最も高いレベルの自立は、参加者が自分自身で約束を覚えていたことを意味する。記憶の補助（メモなど）は許容される。
18. **一人きりにされる**：参加者が 1 時間以上自宅に一人きりでいられた場合、下位質問 18c（「1 時間未満自宅に」）に対して自動的に「はい」となるはずである。

19. **時事問題や最近の出来事について話す**：参加者は時事問題や最近の出来事についての会話を始める必要はないが、その出来事の詳細を述べることによって、認識または記憶していることを示さなければならない。単に「はい」や「いいえ」と言って他の人に同意したり反対したりするだけでは、時事問題や最近の出来事についての知識や記憶を示すには不十分である。重度の失語のある参加者は、時事問題や最近の出来事について話すことに「いいえ」と評価されるだろう。
20. **読書**：本、雑誌、新聞を見て5分以上ページをめくることは、読書とみなすことができる。参加者が読んだものの内容を他の人に伝えない限り、情報の理解や保持の要素を示すような方法で参加者が実際に読んでいるかどうかを判断することはできない。正確な判断ができるように、スタディパートナーは参加者と対話するよう促されるべきである。
21. **書字**：短いメモやメッセージとは、自発的な書字でも、口述を筆記することでもよい。買い物リスト、やることリスト、またはわかりやすい電話のメモをとることなどが該当する。
22. **娯楽、趣味、ゲーム**：趣味は、集中力、知識、記憶や手先の器用さといった要素を必要とする。趣味やゲームのリストは、スタディパートナーを助けるために意図されたものであり、複雑な趣味が失われ、より単純なものに置き換わった場合には、二次的な情報を提供することもある。リストに載っているもの以外の趣味が示された場合は、評価できるように、参加者が何をするのかを、ある程度詳しく説明するようにすること。
23. **家庭用電化製品、機器**：電化製品とは、家事をするために用いられる、1つ以上のスイッチや制御装置を備えた機器と定義される。必ずしもそうとは限らないが、通常、そのような機器には電源または他のタイプの駆動源も付いている。男性にとっては、制御装置やスイッチのある道具は該当するが、ドライバー、ハンマー、のこぎりは該当しない。繰り返しになるが、参加者が電化製品、機器を操作したり、スイッチを押したり、制御装置を操作したりするために、最小限の言語による促ししか必要としない場合は、「手助けなしで、必要があれば、オン・オフの制御以上の操作を行った」の選択肢を選ぶことになる。

G. 採点

各回答には点数が設定され、その合計が総得点となる。

ADCS - 日常生活動作質問票

Galasko, D., Bennett, D., Sano, M., Ernesto, E., Thomas, R., Grundman, M., and Ferris, S. *Alzheimer's Disease and Associated Disorders* 1997; 11: S33-S39.

情報源： 情報提供者の来院 電話

指示：それぞれの質問において、{P}と表示されているところは参加者の名前を用いること。開始する前に、スタディパートナーに対して評価のルールを読み上げること。ADL の記入方法については、実施マニュアルを参照すること。

1. **食事**をすることで、過去 4 週間の{P}の**普段の能力**を最もよく表すのはどれですか：

- 3 身体的な手助けを借りずに食事をし、箸を使った
- 2 食べる際に、箸は使わず、フォークかスプーンを使った
- 1 食べる際に、手を使った
- 0 {P}はたいてい、またはいつも他の人から食べさせてもらった

2. **歩行**（または車椅子での移動）で、過去 4 週間の**最良の能力**を最もよく表すのはどれですか：

- 3 身体的な手助けなしに家の外を移動した
- 2 身体的な手助けなしに部屋の端から端へ移動した
- 1 身体的な手助けなしにベッドから椅子へ移動した
- 0 歩行や移動に身体的な手助けを必要とした

3. **トイレでの排便・排尿**で、過去 4 週間の**普段の能力**について、最もよく表すのはどれですか：

- 3 見守りや身体的な手助けなしに必要なことをすべてした
- 2 見守りは必要だったが、身体的な手助けは必要なかった
- 1 身体的な手助けが必要だったが、普段は失禁しなかった
- 0 身体的な手助けが必要で、普段から失禁していた

4. 入浴で、過去4週間の**普段の能力**について、最もよく表すのはどれですか：

- 3 促したり、身体的な手助けしたりなしに入浴した
- 2 身体的な手助けは必要としなかったが、完全に入浴するためには見守りや促しが必要だった
- 1 完全に入浴するためには、少しの身体的な手助け（洗髪など）が必要だった
- 0 完全に入浴させてもらう必要があった

5. 身だしなみで、過去4週間の**最良の能力**について、最もよく表すのはどれですか：

- 3 身体的な手助けなしに爪を切ってきれいにした
- 2 身体的な手助けなしに髪をブラシや櫛でとкаした
- 1 身体的な手助けなしに顔と手を清潔に保った
- 0 髪、顔、手、爪の手入れに手助けが必要だった

6a. 着衣について、過去4週間その日の最初に着る**服を選ぶ普段の能力**について、最もよく表すのはどれですか：

- 3 見守りや身体的な手助けなし
- 2 見守りあり
- 1 身体的な手助けあり
- 0 {P} は服を選ばなかった
- 0 わからない

6b. 過去4週間の着衣で、**普段の能力**について最もよく表すのはどれですか：

- 4 見守りや身体的な手助けなしに、完全に着替えた
- 3 身体的な手助けを必要とせず、見守りで完全に着替えた
- 2 ボタン、ファスナー、靴ひもにのみ身体的な手助けが必要だった
- 1 ファスナーやボタンが不要な服の場合は、身体的な手助けなしで服を着た
- 0 服の種類にかかわらず、常に手助けが必要だった
- 0 わからない

7. 電話の使用で、過去4週間の最も高い能力について、最もよく表すのはどれですか：

- 5 電話帳などで番号を調べてから、あるいは電話番号案内に聞いて電話をかけた
- 4 電話帳やリストを参照せずに、よく知っている番号にのみ電話をかけた
- 3 電話帳、リスト、またはあらかじめ登録された番号を使用して、よく知っている番号にのみ電話をかけた
- 2 電話に出たが、自分では電話をかけなかった
- 1 電話には出なかったが、電話をわたされると話した
- 0 電話を使わなかった
- 0 わからない

8. 過去4週間、{P}はテレビを見ましたか？

- はい
- いいえ
- わからない

上が「はい」の場合、以下のすべての質問をすること。「いいえ」もしくは「わからない」の場合には下位質問 8a, 8b, 8c は全て採点対象とせず9に進むこと：

8a. {P}は普段、色々な番組や自分の好きな番組を選んだり見たいと言ったりしましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

8b. {P}は普段、番組を見ながらその内容について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

8c. {P}は普段、番組視聴後1日（24時間）以内に番組の内容について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

9. 過去4週間、{P}が少なくとも5分間、**会話や世間話**に注意を払っているように見えたとき、**普段の参加の程度**について最もよく表すのはどれですか：

注意：{P}が会話を始める必要はない

- 3 たいてい話題に関連したことを話した
- 2 たいてい話題とは関係の**ない**ことを話した
- 1 ほとんど、もしくは全く話をしなかった
- 0 会話や世間話に参加しなかった
- 0 わからない

10. 過去4週間、食事や軽食の後、{P}が**普段**どのように**テーブルの食器**を片付けていたか、最もよく表すのはどれですか：

- 3 見守りや身体的な手助けもなしで片付けた
- 2 見守ってもらって片付けた
- 1 身体的に手伝ってもらって片付けた
- 0 {P}は食器を片付けなかった
- 0 わからない

11. 過去4週間、{P}が**普段**どのように**自宅で身の回りの物**を探していたか、最もよく表すのはどれですか：

- 3 見守りも身体的な手助けも必要としなかった
- 2 見守り下で探した
- 1 身体的に手伝ってもらって探した
- 0 {P}は身の回りの物を見つけられなかった
- 0 わからない

12. 過去4週間、{P}が自分のために**温かい飲み物**や**冷たい飲み物**を手に入れたときの**最も高いレベルの能力**を最もよく表すのはどれですか：

- 3 たいてい身体的な手助けなしに温かい飲み物を作った
- 2 たいてい他の誰かが温めたお湯で温かい飲み物を作った
- 1 たいてい身体的な手助けなしに冷たい飲み物を手に入れた
- 0 {P}は自分で飲み物を手に入れなかった
- 0 わからない

13. 過去4週間、{P}が自宅で**食事や軽食**を自分で作ったとき、**最も高いレベルの能力**を最もよく表すのはどれですか：

- 4 ほとんど、あるいは全く身体的な手助けなしで調理したか、電子レンジで温めた
- 3 幅広く身体的に助けってもらって調理、もしくは電子レンジで温めた
- 2 料理せず、電子レンジの使用もなく、食事や軽食のために材料を混ぜたり、組み合わせたりした（例：サンドイッチを作った）
- 1 混ぜたり調理したりせずに、自分自身で食べ物を手に入れた
- 0 {P}は家で食事や軽食を自分では作らなかった
- 0 わからない

14. 過去4週間、{P}が**普段**、家庭でどのように**ゴミやポイ捨て**を適切な場所や容器に**捨てて**いたか、最もよく表すのはどれですか：

- 3 見守りも身体的な手助けもなし
- 2 見守りあり
- 1 身体的に手助けしてもらって捨てた
- 0 {P}はゴミやポイ捨てを適切な場所や容器に捨てなかった
- 0 わからない

15. 過去4週間、{P}が**自宅の外で移動（または旅行）**する際の**最良の能力**を最もよく表すのはどれですか：

- 4 一人で家から1,2キロ以上離れた場所に出かけた
- 3 一人で出かけたが、自宅から1,2キロ以内にとどまった
- 2 行き先に関係なく、付き添いや見守ってもらってのみ、出かけた
- 1 行き先に関係なく、身体的な手助けがある時だけ、出かけた
- 0 {P}は自宅の外に出て回る（旅行）はしなかった
- 0 わからない

16a. 過去 4 週間の買い物で、{P}が普段どのように品物を選んでいたら、最もよく表すのはどれですか：

- 3 見守りや身体的な手助けなしに
- 2 ある程度の見守りや身体的な手助け
- 1 全く品物を選べないか、でたらめに選んだり適切ではない品物を選んだりした
- 0 {P}は買い物に行かなかった
- 0 わからない

16b. 過去 4 週間の買い物で、{P} は普段、見守りや身体的な手助けなしに品物の代金を支払いましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 {P}は買い物に行かなかった
- 0 わからない

17. 過去 4 週間、{P}が親戚、病院、美容院など、他の人との約束や待ち合わせを守るとき、前もってその約束や待ち合わせを意識していたことについて、最もよく表すのはどれですか：

- 3 たいてい覚えていた。例えば、メモ、手帳、カレンダーなど、書きつけたメモが必要だったかもしれない
- 2 当日口頭で思い出させた場合に限って、約束を思い出すことができた
- 1 当日口頭で思い出させたにも関わらず、たいてい覚えていなかった
- 0 {P}は約束や待ち合わせをしなかった
- 0 わからない

18. 過去4週間、{P}は一人きりにされたことがありますか？

注意：デイケアに預けられたり、ヘルパーが自宅にいたりする場合は、一人きりにされたことにはならない。

- はい
- いいえ
- わからない
- 該当なし - {P}は施設入所している

「はい」の場合、以下のすべての質問をしてください。「いいえ」、「わからない」、「該当なし」の場合は、下位質問 18a, 18b, 18c はすべて採点対象としない。：

18a. {P}は日中、自宅から離れた場所で、15分以上一人きりでいましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

18b. {P}は日中、1時間以上、自宅に一人きりでいましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

18c. {P}は日中、1時間未満、自宅に一人きりでいましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

19. 過去4週間、{P}は時事問題や最近の出来事について話しましたか？

注意：これは過去1ヶ月間に起こった出来事や事件を意味する。

- はい
- いいえ
- わからない

「はい」の場合、すべての質問をすること。「いいえ」、「わからない」の場合は下位質問 19a, 19b, 19c は全て採点対象とせず 20 に進むこと：

19a. {P}は、聞いたり読んだりテレビで見たりしたが、自分は関わっていなかった出来事について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

19b. {P}は、自分や家族、友人、近所の人に参加した家庭外での出来事について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

19c. {P}は、自分も参加したり見たりした家庭内での出来事について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

20a. {P}は普段、読書中または読書後間もなく（1時間未満）、読んだ本の詳細について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

20b. {P}は普段、読書後1時間以上経ってから読んだ内容について話しましたか？

- 1 はい
- 0 いいえ
- 0 わからない

21. 過去4週間、{P}が書き留めた最も複雑なことがらについて、最もよく表すのはどれですか？

- 3 他の人が理解できる手紙や長いメモ
- 2 他の人が理解できる短いメモまたはメッセージ
- 1 本人の署名または名前
- 0 {P}は字を書かなかった
- 0 わからない

22. 過去4週間、{P}が普段、最もよくしていた娯楽、趣味、ゲームについて、最もよく表すのはどれですか？ 注意：この設問では、ウォーキングは娯楽・趣味に含まない。

例えば、カードゲームやボードゲーム（ブリッジ、将棋、囲碁を含む）、ビンゴ、クロスワード、美術、楽器、編み物、裁縫、読書、ガーデニング、ゴルフ、テニス、工作、釣り、その他(詳細記載すること)。

- 3 見守りも手助けも必要なし
- 2 見守りを必要とした
- 1 身体的な手助けを必要とした
- 0 {P}は全く娯楽、趣味、ゲームをしなかった
- 0 わからない

{P}が趣味・娯楽を行った場合、それはデイケアでのみ行われましたか？

- はい
- いいえ

23. 過去4週間の家事をするための家電製品、機器の使用について、{P}が普段どのように最も良く用いる家電製品を使用していたか、最もよく表すのはどれですか？

注意：テレビは含まない。例：洗濯機、乾燥機、掃除機、食器洗い機、トースター、オーブントースター、レンジフード、電子レンジ、フードプロセッサー、その他(詳細記載すること)。

と)。

- 4 手助けなしで、必要があればオン・オフの制御以上の操作を行った
- 3 手助けなしで、オン・オフのみの操作をした
- 2 見守り下で、身体的な手助けはなしで操作をした
- 1 手助けしてもらって操作した
- 0 {P}は家事のための家電製品を使用しなかった
- 0 わからない

ADC-日常生活動作（ADL）質問票

注意：

- (1) {P}とは参加者を指し、スタディパートナーにADLの質問をするたびに、参加者の名前またはスタディパートナーとの関係を表す言葉に置き換えてください。
- (2) このADL質問票は、直接または電話によるスタディパートナーへのインタビュー形式で行われなければなりません。この用紙をスタディパートナーが自分で記入するように渡してはなりません。

スタディパートナーに対して、以下の指示を読み上げてください：

これから、{P}が過去4週間に行ったと思われるいくつかの日常生活の活動について伺います。もしそのような機会があればこのようにしたであろうということについてではなく、{P}の実際の能力について教えてください。{P}が試みたそれぞれの活動について、いくつかの表現の中から、最も普段の能力に合うものを選んでください。

いくつかの活動については、{P}が自立して行ったか、見守りや手助けを借りて行ったかをお尋ねします。これらの言葉の定義を説明しましょう：

「自立」とは、{P}が助けなしで活動を完了したことを意味します。もし{P}が活動を始めるときに注意されたり、促されたり、あるいは活動している間に少し促されたとしても、自立していると考えます。

「見守りを要する」とは、{P}が活動している間に言葉による注意や指示を必要としたことを意味します。

「手助けを要する」とは、{P}が活動を行うために他の人からある程度の身体的な手助けを受けたことを意味します。

評価者への教示

もし、スタディパートナーが、{P}は過去4週間にその課題を行う機会は無かった（例えば、{P}の居場所には電話がなかったため、電話をかけることができなかった）と述べた場合、その回答は「いいえ」として記録すべきである。

もしスタディパートナーの回答または質問票のいずれかが不明確な場合は、症例報告用紙に問題点の詳細を記入すること。

特定のADL項目に関する質問については、ADL回答用紙を参照のこと。